

科目名 (英)	自然科学 (Natural Science)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	高橋未倫
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期 木曜日 2限
教員の略歴	理学療法士、修士(理学)、Golf physio trainer。急性期から生活期の臨床現場を経験し、教員の経験を持つ。						
学習内容	理学療法を学ぶにあたり基礎となる学問として運動学, 生理学, 解剖学がある。 この講義ではその礎となる物理, 化学, 生物分野の基礎的な内容を学び, 以降に学ぶ運動学, 生理学, 解剖学へと繋げる。 また, 科学を利用する際に利用される簡単な数学の知識についても適宜整理を行う						
到達目標	物理分野の基礎的な知識を運動学へ繋げることができる。 生物, 化学分野の基礎的な知識を解剖学, 生理学へ繋げることができる。 基礎的な数学演算が習得できる。						
評価方法 (基準)	出席(45%), レポート(物理, 化学, 生物:45%)(数学:10%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/4	講義	生物学(循環)について記することができる。	講義の復習
2	4/11	講義	生物学(呼吸)について記することができる。	講義の復習
3	4/18	講義	生物学(排出)について記することができる。	講義の復習
4	4/25	講義	生物学(神経)について記することができる。	講義の復習
5	5/9	講義	生物学(筋骨格)について記することができる。	講義の復習
6	5/16	講義	生物学(消化)について記することができる。	講義の復習
7	5/23	講義	生物学(遺伝)について記することができる。	講義の復習
8	5/30	講義	化学(物質の成り立ち)について記することができる。①	講義の復習
9	6/13	講義	化学(物質の成り立ち)について記することができる。②	講義の復習
10	6/20	講義	化学(化学変化)について記することができる。	講義の復習
11	6/27	講義	化学(化学反応)について記することができる。①	講義の復習
12	7/4	講義	化学(化学反応)について記することができる。②	講義の復習
13	7/11	講義	物理学(圧力, 浮力)について記することができる。	講義の復習
14	7/18	講義	物理学(運動)について記することができる。	講義の復習
15	7/25	講義	物理学(エネルギー)について記することができる。	講義の復習
準備学習 時間外学習			授業の復習	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			資料を適宜配布	

科目名 (英)	保健科学 (Health Science)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	吉田晴彦
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義・実 習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 3~4限
教員の略歴	柔道整復師。現在、みやぎのはら接骨院の院長であり、スポーツ選手の活動サポートの実績を持つ。						
学習内容	体力向上のための実技として球技などを通し身体機能・構造を習得する。 また、健康な体づくりのための授業として栄養などをテーマとし保健分野の知識を習得する。 人間の運動にかかわる身体の機能と構造についてを知る						
到達目標	健康な体づくり、体力向上のための体育分野と 保健分野の専門知識と技術を身につける。						
評価方法 (基準)	1) 定期テスト(筆記50% 実技参加態度意欲50%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/4	講義	機能解剖(上肢の骨・筋)を理解する	プリントの復習
2	4/5	講義	機能解剖(下肢の骨・筋)を理解する	プリントの復習
3	4/5	講義	機能解剖(体幹部の骨・筋)を理解する	プリントの復習
4	4/12	講義	トレーニング理論(プログラム変数)を理解する	プリントの復習
5	4/12	講義	トレーニング理論(筋力向上)を理解する	プリントの復習
6	4/19	講義	トレーニング理論(栄養及び減量)を理解する	プリントの復習
7	4/19	講義	血圧・血糖・コレステロールを把握する	プリントの復習
8	4/26	講義	血圧・血糖・コレステロールを把握する	プリントの復習
9	4/26	実技	バレーボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
10	5/10	実技	バレーボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
11	5/10	実技	バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
12	5/17	実技	バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
13	5/17	実技	バレーボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
14	5/24	実技	バレーボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
15	5/24	実技	バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
16	5/31	実技	バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
17	5/31	実技	バレーボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
18	6/14	実技	バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
19	6/14	実技	バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
20	6/21	実技	バレーボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
21	6/21	実技	バレーボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
22	6/28	実技	バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
23	6/28	実技	バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
24	7/5	実技	フライングディスクを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
25	7/5	実技	フライングディスクを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
26	7/12	実技	フライングディスクを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
27	7/12	実技	フライングディスクを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
28	7/19	実技	フライングディスクを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
	7/19	実技	フライングディスクを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
29	7/25	本試験	筆記試験	
30	7/26	実技	フライングディスクを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
31	7/26	実技	フライングディスクを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
準備学習 時間外学習			身体機能と構造の予習復習	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/> トレーニング指導者テキスト実践編・理論編(大修館書店)				

科目名 (英)	教育学 (Education)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	高橋未倫
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	後期 木曜日 4限
教員の略歴	理学療法士、修士(理学)、Golf physio trainer。急性期から生活期の臨床現場を経験し、教員の経験を持つ。						
学習内容	「教育」「理学療法」「コミュニケーション」の3つを主軸にグループワークなどを通じて協調性を図り、自身の意思(考え)を言葉や文章でしっかりと伝えることができるように参加型の授業となります。 教育学の基本的な考え方を学び、「学ぶ」「教える」といった情緒領域に必要な知識について学習する。						
到達目標	本教科は一般教養となります。「教育学」のテーマに沿う形で教育とは何か、なぜ教育が必要なのかを理解し、さらには社会的な側面や理学療法士となっていく過程の中での人間形成へと話を発展させ、学生の皆様がこれから過ごす4年間の重要性について理解を深めることを目標としていきます。						
評価方法 (基準)	出席 30% レポート 70%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	8/29	講義	オリエンテーション	特に必要なし
2	9/5	講義	教育について考える①	授業の復習 小レポート提出
3	9/12	講義	教育について考える②	授業の復習 小レポート提出
4	9/19	講義	人の性格について学ぶ	授業の復習 小レポート提出
5	9/26	講義	人と社会との関係について学ぶ①	授業の復習 小レポート提出
6	10/3	講義	人と社会との関係について学ぶ②	授業の復習 小レポート提出
7	10/10	講義	人の行動と学習について学ぶ①	授業の復習 小レポート提出
8	10/17	講義	人の行動と学習について学ぶ②	授業の復習 小レポート提出
9	10/24	講義	コミュニケーションについて考える①	授業の復習 小レポート提出
10	10/31	講義	コミュニケーションについて考える②	授業の復習 小レポート提出
11	11/7	講義	コーチングについて考える①	授業の復習 小レポート提出
12	11/14	講義	コーチングについて考える②	授業の復習 小レポート提出
13	11/21	講義	心理学者に学ぶ①	授業の復習 小レポート提出
14	11/28	講義	心理学者に学ぶ②	授業の復習 小レポート提出
15	12/5	講義	心理学者に学ぶ③	授業の復習 小レポート提出
準備学習 時間外学習			授業の復習 小レポート提出	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			当日資料を配布します。	

科目名 (英)	心理学 (Psychology)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	江崎浩明
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期 火曜日 4限
教員の略歴	公認心理士、産業カウンセラー、修士(学術)。長年、精神・心理学関連の講義の講師を務める。						
学習内容	心理学の成り立ちや基礎的な心理学用語・概念を学ぶことで、多くの人が持つ誤解や偏見から脱し、人が持つ考え方や捉え方の特徴について学びます。身体にダメージを受ければ必ず心にも何らかの不調を来します。理学療法士は身体の専門家ですが、心身不可分(心と体は密接に関係しているの、分けて考える事はできない)の為、心についても理解を深め、心身両面をサポートできる人材になることが求められます。また、自分自身を支える一つの柱として心理学的な視点を養います。						
到達目標	心理学の歴史や他の周辺領域との関連性、用語や概念を学術的基盤に則って学ぶことにより、雑学的な知識ではなく人間を理解する一助としての基礎心理学について理解する。これらの学びを、客観的な自己把握・自己理解のために用いることができるようになる。他者を主観的又は好き嫌いの感情的な枠組のみで捉えるのではなく、特に自分と考えや行動が異なる場合、知的好奇心や興味関心を持ち、客観的な枠組みで捉えることができるようになる。						
評価方法 (基準)	定期試験100%(選択式と記述式)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/9	講義	講義の進め方、教科書の使い方、ノートのとり方、評価方法を理解する。心理学を学ぶ目的を理解する。	心理学に対するイメージを考えておく
2	4/19	講義	基礎心理学と応用心理学の違い、心理学的知識の活用に対する功罪について説明できる。	心理学が誤用・悪用されている例を考えておく 〇〇心理学の〇〇に入りそうな言葉を考えておく
3	4/23	講義	心理学史 哲学からの独立、その後の自然科学からの影響を説明できる。	哲学から独立した流れを説明できるようにしておく 心理学が拡大した経緯を説明できるようにする
4	5/7	講義	感覚・知覚・認知 五感の働き、センサーの特徴、知覚的体制化、運動知覚について説明できる。	哲学から独立した流れを説明できるようにしておく 心理学が拡大した経緯を説明できるようにする
5	5/14	講義	記憶 I 記憶の過程、時間的変遷、種類と分類について説明できる。	自分の得意な記憶と苦手な記憶、考えなくても半自動的に動ける体の記憶について考えておく
6	5/21	講義	記憶 II 記憶の定着と忘却(エビングハウスの忘却曲線、逆行抑制、記憶術)について説明できる。	これまでの勉強や学習の方法について考えておく
7	5/28	講義	学習 経験による思考や行動の変化、古典的条件づけ、オペラント条件付けについて説明できる。	幼少期からの他者とは異なる習慣、どうせやっても自分には無理と思っていることについて考えておく
8	6/4	講義	動機づけ やる気持続、自己効力感・学習性無力感、内発的・外発的動機づけについて説明できる。	これまでに挫折したことや、「自分にはどうせ〇〇はできない」と思っている事を考えておく。
9	6/11	講義	感情 喜怒哀楽や不安の種類や特徴、アンガーマネジメントについて説明できる。	最近婚しがつた・怒つた・不安に思つたこと・仲間はずれにされるのでは、と思つたことについて考えておく
10	6/18	講義	社会と人間 自己と自我、自己呈示や自己開示、パーソナルスペースについて説明できる。	友人にどんな人と思われたいか考えておく 人に流された経験について思い出しておく
11	6/25	講義	知能 知能の定義と構成要素、知能指数の測定、創造性や順応力について説明できる。	頭がよいとはどういうことか、学歴や偏差値でわかること・わからないことについて考えておく
12	7/2	講義	性格 性格の構成要素、歴史的な分類、変容に必要な要件について説明できる。	性格は変わるのか、変わるなら変えるために必要なものは何かについて考えておく
13	7/9	講義	心理検査 種類と分類、誤用と悪用、測定可能範囲について説明できる。	心理テストと心理ゲームの違いや何が測れて何が測れないのかについて予想しておく
14	7/16	講義	これまでに学んだ心理用語・概念について説明できる①	それぞれの単元の理解度をチェックしておく
	7/23	本試験	筆記試験	
15	7/23	講義	これまでに学んだ心理用語・概念について説明できる②	
準備学習 時間外学習			学んだ概念を、日々の生活で感じ・思い返して復習してください。	
【使用教科書・教材・参考書】 □			医療の行動科学 I 医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー(北大路書房)	

科目名 (英)	英語 (English Conversation I)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	ILC
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 木曜日 1限
教員の略歴	日本人に対する英会話指導経験あり						
学習内容	滋慶学園の英語教育に長期に渡って携わり、Active Learningに取り組んできたネイティブの英語教員が、学生が専門分野に関連した専門英語の基本的な表現を使って、外国人を前に怖がったり、恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につけることを目的としたコミュニケーション主体の授業を行う。						
到達目標	医療英語テキストに基づき、医療の現場における様々なシチュエーションでの基本的な文法や語彙を習得する。 医療の場面で簡単な英語コミュニケーションが出来るようになる。						
評価方法 (基準)	評価は、100点満点の筆記試験で行う。授業で学習した内容の定着度を確認する。 評価は学則規定に準ずる。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/4	講義	Chapter 1 患者の個人情報聞き出すことが出来る 受付用語が使える	教科書の復習
2	4/11	講義	Chapter 2 病院案内が出来る	教科書の復習
3	4/18	講義	Chapter 3 身体の部位や痛みの程度(強弱)を説明出来る	教科書の復習
4	4/25	講義	Chapter 4 様々な病気を説明出来る 「I feel/I have a/I have」の使い方が分かる	教科書の復習
5	5/9	講義	Chapter 5 患者の過去の病歴や家族の病歴について話すことが出来る	教科書の復習
6	5/16	講義	Chapter 6 アレルギーやライフスタイルについて質問出来る 内臓の名称が分かる	教科書の復習
7	5/23	講義	Chapter 7 患者に基本的な指示を出すことが出来る 身長と体重を測定する表現が分かる	教科書の復習
8	5/30	講義	Chapter 8 バイタルサインを説明することが出来る	教科書の復習
9	6/6	講義	Chapter 10 手術や治療について説明することが出来る 注射について説明出来る	教科書の復習
10	6/13	講義	Chapter 12 整形外科に関連した語彙を覚える	教科書の復習
11	6/20	講義	Chapter 13 リハビリについて説明出来る	教科書の復習
12	6/27	講義	Chapter 14 リハビリや人工装具について説明出来る	教科書の復習
13	7/4	講義	Chapter 16 処方箋の支払いについて説明出来る	教科書の復習
14	7/11	講義	Chapter 17 処方箋とくすりについて説明出来る	教科書の復習
	7/18	本試験	定期試験	
15	7/25	講義	試験の解説、これまでに学習した内容の復習	教科書による通読
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	コミュニケーション論 (Communication)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	丸屋健
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 木曜日 3限目
教員の略歴	理学療法士。回復期、通所・訪問リハビリテーションを経験し、地域の健康増進教室や介護予防啓発活動も実施。						
学習内容	社会で通用するコミュニケーション力を身に付ける。 コミュニケーションスキルアップ検定に試験の合格。 効果的なコミュニケーションの方法を体系的に理解する。						
到達目標	受講者(学生)が「聞く、話す、読む、書く」ということばを使ったコミュニケーションを上手に行うための基本的な技法(目の付け所と、方法)を知り、それを(何度も使うことにより)使う「習慣」を身につけることを目指す。						
評価方法 (基準)	授業ノート70%・出席率30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/4	講義	オリエンテーション	
2	4/11	講義	コミュニケーションについて理解することができる	指定教科書該当ページの予読
3	4/18	講義	基本的対話スキル「1対1の会話」について理解することができる	指定教科書該当ページの予読
4	4/25	講義	基本的対話スキル「グループでの会話」について理解することができる	指定教科書該当ページの予読
5	5/2	講義	自己表現スキルについて理解することができる①	指定教科書該当ページの予読
6	5/9	講義	自己表現スキルについて理解することができる②	指定教科書該当ページの予読
7	5/16	講義	社会的スキルについて理解することができる①	指定教科書該当ページの予読
8	5/23	講義	社会的スキルについて理解することができる②	指定教科書該当ページの予読
9	5/30	講義	サービスマインドについて理解することができる	指定教科書該当ページの予読
10	6/13	講義	医療場面におけるコミュニケーションスキルについて理解することができる①	指定教科書該当ページの予読
11	6/20	講義	医療場面におけるコミュニケーションスキルについて理解することができる②	指定教科書該当ページの予読
12	6/27	講義	医療場面におけるコミュニケーションスキルについて模倣することができる①	指定教科書該当ページの予読
13	7/4	講義	医療場面におけるコミュニケーションスキルについて模倣することができる②	指定教科書該当ページの予読
14	7/11	講義	医療場面におけるコミュニケーションスキルについて実施することができる①	指定教科書該当ページの予読
15	7/18	講義	医療場面におけるコミュニケーションスキルについて実施することができる②	指定教科書該当ページの予読
準備学習 時間外学習			指定教科書該当ページの予読	
【使用教科書・教材・参考書】 □			コミュニケーションスキルアップ検定(滋慶教育科学研究所) Hand-book of Life Style(滋慶教育科学研究所)	

科目名 (英)	解剖学 I (Anatomy I)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	木村
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 火曜日 1~2限
教員の略歴	歯科医師。長年、解剖学の講義を担当している。						
学習内容	解剖学では正常な人体の構造について学ぶ。 解剖学 I では、特に神経系や感覚器系について知識を深める。						
到達目標	筋骨格系や内臓系と関連づけながら神経系を理解する。 感覚神経と関連づけながら感覚器系を理解する。						
評価方法 (基準)	1)定期テスト80% 2)出席数(授業態度)20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	8/27	講義	オリエンテーション	
2	8/27	講義	神経系(神経系総論)	プリントの穴埋め
3	9/3	講義	神経系(神経系総論)	プリントの穴埋め
4	9/3	講義	神経系(神経系総論)	プリントの穴埋め
5	9/10	講義	神経系(神経系総論)	プリントの穴埋め
6	9/10	講義	神経系(神経系総論)	プリントの穴埋め
7	9/17	講義	神経系(神経系総論)	プリントの穴埋め
8	9/17	講義	神経系(中枢神経系)	プリントの穴埋め
9	9/24	講義	神経系(中枢神経系)	プリントの穴埋め
10	9/24	講義	神経系(中枢神経系)	プリントの穴埋め
11	10/1	講義	神経系(中枢神経系)	プリントの穴埋め
12	10/1	講義	神経系(中枢神経系)	プリントの穴埋め
13	10/8	講義	神経系(中枢神経系)	プリントの穴埋め
14	10/8	講義	神経系(中枢神経系)	プリントの穴埋め
15	10/15	講義	神経系(中枢神経系)	プリントの穴埋め
16	10/15	講義	神経系(中枢神経系)	プリントの穴埋め
	10/21	確認試験		テスト勉強
17	10/22	講義	神経系(中枢神経系)	プリントの穴埋め
18	10/22	講義	神経系(末梢神経系)	プリントの穴埋め
19	10/29	講義	神経系(末梢神経系)	プリントの穴埋め
20	10/29	講義	神経系(末梢神経系)	プリントの穴埋め
21	11/5	講義	神経系(末梢神経系)	プリントの穴埋め
22	11/5	講義	神経系(末梢神経系)	プリントの穴埋め
23	11/12	講義	神経系(末梢神経系)	プリントの穴埋め
24	11/12	講義	神経系(末梢神経系)	プリントの穴埋め
25	11/19	講義	神経系(末梢神経系)	プリントの穴埋め
26	11/19	講義	神経系(末梢神経系)	プリントの穴埋め
27	11/26	講義	感覚器系	プリントの穴埋め
28	11/26	講義	感覚器系	プリントの穴埋め
29	12/3	講義	感覚器系	プリントの穴埋め
30	12/3	講義	感覚器系	プリントの穴埋め
	12/9	本試験		テスト勉強
準備学習 時間外学習			配布されたプリントを予習して授業に臨む	
【使用教科書・教材・参考書】			標準理学療法学・作業療法学	

科目名 (英)	解剖学Ⅱ (Anatomy)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	溝口二郎
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜日 3限
教員の略歴	医学博士(東北大学)。長期に渡り、解剖学関連の講義の講師を務める。						
学習内容	解剖学は理解する学問であることを念頭に置き、解剖組織図で理解を深め、標本や生体に触れて、具体的な人体構造と機能を学習させる。						
到達目標	細胞学、組織学、発生学を基礎として、その上に人体の構造・機能を、系統的に理解できるようにする。						
評価方法 (基準)	定期試験において、試験問題の6割以上を正しく解答できること。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/9	講義	解剖学の歴史と分類、人体の構成の理解	プリントとノートによる予習と復習
2	4/16	講義	細胞の構造、解像力、ホメオスタシスの理解	同上
3	4/23	講義	細胞膜、細胞内小器官、細胞核の理解	同上
4	5/7	講義	細胞分裂と遺伝子、上皮組織の理解	同上
5	5/14	講義	支持組織、骨組織、骨の発生と成長の理解	同上
6	5/21	講義	骨組織、全身の骨格の理解	同上
7	5/28	講義	関節、血液とリンパ、筋組織と収縮の理解	同上
8	6/4	講義	神経組織、シナプス、神経膠細胞の理解	同上
9	6/11	講義	皮膚と知覚、汗腺、乳腺、脂腺、毛、の理解	同上
10	6/18	講義	人体発生、各胚葉由来の組織・器官の理解	同上
11	6/25	講義	人体各部位の詳細な解剖学名に慣れること	同上
12	7/2	講義	人体位置・方向用語、人体の各部位の理解	同上
13	7/9	講義	頭、顔、胸、背、会陰、上・下肢部位の理解	同上
14	7/16	講義	骨連結、関節と靭帯、骨格系概説の理解	同上
	9/3	本試験	定期試験	
15	9/10	講義	試験解答・解説	プリントとノートによる復習
準備学習 時間外学習		プリント、教科書、参考書を予習・復習する。		
【使用教科書・教材・参考書】 □		「解剖学」編集 野村嶺 医学書院 「ネッター解剖学アトラス」訳 相磯貞和 南江堂 「入門人体解剖学」藤田恒夫 南江堂 「分担解剖学 1、2、3」森 於菟 他 金原出版 「プロメテウス解剖学アトラス」監訳 板井建雄 医学書院		

科目名 (英)	解剖学実習 (Practice in Anatomy)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	田中
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分	金曜 1～2限
学科・コース	理学療法科 I 部						
教員の略歴	歯科医師。海外への研究留学経験を持ち、現在、東北大学病院に所属している。						
学習内容	解剖学では正常な人体の構造について学ぶ。 生理学、病理学など他の基礎医学系科目を理解するためには解剖学の知識は必須である。 解剖学実習では骨格、関節と靭帯、筋系、内臓器系について知識を深める。						
到達目標	骨格、関節と靭帯、筋系、内臓器系の基本的な構造、機能を理解する。 骨格筋の起始・停止、走行、神経支配を知り、その作用を理解する。						
評価方法 (基準)	定期テストと出席数(授業態度)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/5	講義	骨格総論	講義内容の復習
2	4/5	講義	頭蓋	講義内容の復習
3	4/12	講義	頭蓋	講義内容の復習
4	4/12	講義	脊柱、胸郭	講義内容の復習
5	4/19	講義	上肢の骨	講義内容の復習
6	4/19	講義	上肢の骨	講義内容の復習
7	4/26	講義	下肢の骨	講義内容の復習
8	4/26	講義	下肢の骨	講義内容の復習
9	5/10	講義	関節靭帯総論	講義内容の復習
10	5/10	講義	関節靭帯総論	講義内容の復習
11	5/17	講義	頭蓋の連結、脊柱の連結	講義内容の復習
12	5/17	講義	脊柱と頭蓋の連結、胸郭の連結	講義内容の復習
13	5/24	講義	上肢の連結	講義内容の復習
14	5/24	講義	上肢の連結	講義内容の復習
15	5/31	講義	下肢の連結	講義内容の復習
16	5/31	講義	下肢の連結	講義内容の復習
17	6/14	講義	下肢の連結	講義内容の復習
18	6/14	講義	関節と靭帯のまとめ	講義内容の復習
19	6/21	講義	筋系総論	講義内容の復習
20	6/21	講義	筋系総論	講義内容の復習
	7/2	確認試験		
21	6/28	講義	体幹の筋	講義内容の復習
22	6/28	講義	体幹の筋	講義内容の復習
23	7/5	講義	体幹の筋	講義内容の復習
24	7/5	講義	上肢の筋	講義内容の復習
25	7/12	講義	上肢の筋	講義内容の復習
26	7/12	講義	上肢の筋	講義内容の復習
27	7/19	講義	下肢の筋	講義内容の復習
28	7/19	講義	下肢の筋	講義内容の復習
29	7/26	講義	下肢の筋	講義内容の復習
30	7/26	講義	筋系のまとめ	講義内容の復習
31	8/30	講義	内臓器官の基本構造、循環器系	講義内容の復習
32	8/30	講義	循環器系	講義内容の復習
33	9/6	講義	循環器系	講義内容の復習
34	9/6	講義	循環器系	講義内容の復習
35	9/13	講義	循環器系	講義内容の復習
36	9/13	講義	呼吸器系	講義内容の復習
37	9/20	講義	呼吸器系	講義内容の復習
38	9/20	講義	消化器系	講義内容の復習
39	9/27	講義	消化器系	講義内容の復習
40	9/27	講義	消化器系	講義内容の復習
41	10/4	講義	泌尿生殖器系	講義内容の復習
42	10/4	講義	泌尿生殖器系	講義内容の復習
43	10/11	講義	内分泌系	講義内容の復習
44	10/11	講義	内分泌系	講義内容の復習
45	10/18	講義	内臓器系のまとめ	講義内容の復習
	10/17	定期試験		
準備学習 時間外学習	毎回講義内容を復習する。教科書を読む。			
【使用教科書・教材・参考書】 □ 標準理学療法学・作業療法学、グレイ解剖学、人体の正常構造と機能				

科目名 (英)	生理学 I (Physiology I)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	川上智史
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期～後期 水曜日 3～4限
教員の略歴	博士(医学)。長年、生理学や公衆衛生関連の講義の講師を務め、現在、桐生大学医療保健学部栄養学科の准教授を担っている。						
学習内容	人間の体は複雑な構造をしている。しかし必要の無い臓器は一切無く、それぞれが生命維持のために役割を果たしている。生理学 I においては細胞レベルから臓器レベルまで簡単な構造について学び、それぞれの機能を理解する。						
到達目標	理学療法士に必要な人体の機能(筋・神経、呼吸・循環、消化・吸収など)について学習する。						
評価方法 (基準)	筆記試験80%、授業態度10%、課題レポート10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/10	講義	人体とは何か、人体を表す基準について理解できる	教科書を読んでおくこと
2	4/10	講義	細胞と組織の生理学的差異について理解できる	教科書を読んでおくこと
3	4/22	講義	血液、血液の概要を理解できる	教科書を読んでおくこと
4	5/20	講義	造血のメカニズムを理解できる	教科書を読んでおくこと
5	5/29	講義	赤血球の構造と働きを理解できる	教科書を読んでおくこと
6	5/29	講義	赤血球の破壊について理解できる	教科書を読んでおくこと
7	6/3	講義	血液型・メンデルの法則を理解できる	教科書を読んでおくこと
8	6/12	講義	血小板の作用について理解できる	教科書を読んでおくこと
9	6/12	講義	血漿、血液凝固因子、カスケード反応について理解できる	教科書を読んでおくこと
10	6/17	講義	白血球を中心とした生体防御作用について理解できる	教科書を読んでおくこと
11	6/24	講義	非特異的防御機構について理解できる	教科書を読んでおくこと
12	7/17	講義	特異的防御機構について理解できる。また細胞性免疫・液性免疫の違い、抗体産生の流れについても理解できる	教科書を読んでおくこと
13	7/17	講義	体液について理解できる	教科書を読んでおくこと
14	7/24	講義	酸塩基平衡について理解できる	教科書を読んでおくこと
15	7/24	講義	体温のメカニズムを理解できる	教科書を読んでおくこと
16	8/28	講義	外皮・発汗作用について理解できる	教科書を読んでおくこと
17	8/28	講義	骨の機能について理解できる	教科書を読んでおくこと
18	9/4	講義	骨のリモデリングについて理解できる	教科書を読んでおくこと
	9/21	試験	確認試験	
19	9/4	講義	骨格筋の機能について理解できる	教科書を読んでおくこと
20	10/23	講義	筋収縮のメカニズムを理解できる	教科書を読んでおくこと
21	10/23	講義	循環器概要について理解できる	教科書を読んでおくこと
22	10/30	講義	体循環と肺循環を理解できる	教科書を読んでおくこと
23	10/30	講義	心臓の生理について理解できる	教科書を読んでおくこと
24	11/6	講義	心電図について理解できる	教科書を読んでおくこと
25	11/6	講義	循環器の生理を理解できる	教科書を読んでおくこと
26	11/13	講義	呼吸器の概要について理解できる	教科書を読んでおくこと
27	11/13	講義	スパイロメーター・酸素解離曲線について理解できる	教科書を読んでおくこと
28	11/20	講義	消化管の全容を理解できる	教科書を読んでおくこと
29	11/20	講義	胃酸を含む消化酵素について理解できる	教科書を読んでおくこと
30	11/27	講義	肝胆膵の役割について理解できる	教科書を読んでおくこと
	12/2	試験	定期試験	
準備学習 時間外学習		講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり		
【使用教科書・教材・参考書】		□ 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版		

科目名 (英)	生理学Ⅱ (Physiology II)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	川上智史
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期 水曜日 曜日・時限 3~4限
教員の略歴	博士(医学)。長年、生理学や公衆衛生関連の講義の講師を務め、現在、桐生大学医療保健学部栄養学科の准教授を担っている。						
学習内容	人間の体は複雑な構造をしている。しかし必要の無い臓器は一切無く、それぞれが生命維持のために役割を果たしている。生理学Ⅱにおいては臓器レベルでそれぞれの機能を理解する。						
到達目標	理学療法士に必要な人体の機能(筋・神経、呼吸・循環、消化・吸収など)について学習する。						
評価方法 (基準)	筆記試験80%、授業態度10%、課題レポート10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	11/27	講義	泌尿器系の概要について理解できる	教科書を読んでおくこと
2	11/27	講義	尿の生成・再吸収について理解できる	教科書を読んでおくこと
3	12/4	講義	レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系について理解できる	教科書を読んでおくこと
4	12/4	講義	内分泌について理解できる	教科書を読んでおくこと
5	12/11	講義	ホルモン・ホルモンレセプターを理解できる	教科書を読んでおくこと
6	12/11	講義	各種ホルモンを理解できる①	教科書を読んでおくこと
7	12/18	講義	各種ホルモンを理解できる②	教科書を読んでおくこと
8	12/18	講義	各種ホルモンを理解できる③	教科書を読んでおくこと
9	1/15	講義	神経系の概要について理解できる	教科書を読んでおくこと
10	1/15	講義	α - γ 連関など神経伝達について理解できる	教科書を読んでおくこと
11	1/22	講義	活動電位について理解できる	教科書を読んでおくこと
12	1/22	講義	記憶など脳機能について理解できる	教科書を読んでおくこと
13	1/29	講義	特殊感覚について理解できる①	教科書を読んでおくこと
14	1/29	講義	特殊感覚について理解できる②	教科書を読んでおくこと
15	2/5	講義	生殖器系の生理について理解できる	教科書を読んでおくこと
	2/3	試験	筆記試験	
準備学習 時間外学習			講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 新採用 医学書院	

科目名 (英)	生理学実習 (Practice in Physiology)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	稲葉夏海
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	実習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分 曜日・時限	後期 金 3~4限
教員の略歴	理学療法士。回復期から生活期のリハビリテーションを経験。						
学習内容	実習を通じて体験することで理学療法における評価・治療と生理学の知識をつなげるために、実習を行う。						
到達目標	生理学実習を通して、座学で学んだ生理学をより深く掘り下げることで、明確な知識を取得することを目標とする。						
評価方法 (基準)	・レポート:80% ・授業内評価:20%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	10/18	実習	教科ガイダンス		プリントを確認
2	10/25	実習	該当範囲となる領域の生理学的知識を整理し、実習の準備をする。		生理学の復習
3	10/25	実習	①血圧測定についての実習を実施する。		評価の予習復習
4	11/1	実習	②血圧測定についての実習を実施する。		評価の予習復習
5	11/1	実習	①体力測定についての実習を実施する。		評価の予習復習
6	11/8	実習	②体力測定についての実習を実施する。		評価の予習復習
7	11/8	実習	①体性感覚-表在感覚についての実習を実施する。		評価の予習復習
8	11/15	実習	②体性感覚-表在感覚についての実習を実施する。		評価の予習復習
9	11/15	実習	①体性感覚-深部感覚についての実習を実施する。		評価の予習復習
10	11/22	実習	②体性感覚-深部感覚についての実習を実施する。		評価の予習復習
11	11/22	実習	①運動負荷時の生理的变化について実習を実施する。		評価の予習復習
12	11/29	実習	②運動負荷時の生理的变化について実習を実施する。		評価の予習復習
13	11/29	実習	①筋電図についての実習を実施する。		評価の予習復習
14	12/6	実習	②筋電図についての実習を実施する。		評価の予習復習
15	12/6	実習	①心電図についての実習を実施する。		評価の予習復習
16	12/13	実習	②心電図についての実習を実施する。		評価の予習復習
17	12/13	実習	①肺機能検査についての実習を実施する。		評価の予習復習
18	12/20	実習	②肺機能検査についての実習を実施する。		評価の予習復習
19	12/20	実習	実習内容のまとめ		評価の予習復習
20	1/31	実習	実習内容のまとめ		評価の予習復習
21	1/31	実習	実習内容のまとめ		評価の予習復習
22	2/7	実習	実習内容のまとめ		評価の予習復習
23	2/7	実習	実習内容のまとめ		評価の予習復習
準備学習 時間外学習			評価の予習復習		
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			適時、資料配布		

科目名 (英)	運動学 (Kinesiology)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	今野良紀
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜日 1・2限
学科・コース	理学療法科Ⅰ部						
教員の略歴	理学療法士(認定:脳卒中)。回復期・介護保険領域のリハビリテーションを経験し、現在はスポーツ分野での活動も実施。						
学習内容	①解剖学的知識から生体力学や運動と動作の分析、運動学等、人間の運動の科学を学ぶ。 ②身体運動についての運動学的な用語や表現方法を学習する。 ③健常者同士の体験課題をもとに、関節や筋の知識と実際の身体イメージを関連付けて理解する。						
到達目標	①身体運動における面と軸、基本的肢位を理解し説明できる。 ②各関節の構造と機能について特徴を説明できる。 ③筋の起始・停止、作用、神経支配について説明できる。						
評価方法 (基準)	・筆記試験:100%						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1	4/9	講義	オリエンテーション				
2	4/9	講義	運動器の構造と機能を学び、可動関節の分類、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
3	4/16	講義	①肩複合体の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
4	4/16	講義	②肩複合体の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
5	4/23	講義	①肘関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
6	4/23	講義	②肘関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
7	5/7	講義	①手関節・手指の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
8	5/7	講義	②手関節・手指の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
9	5/14	講義	①股関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
10	5/14	講義	②股関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
11	5/21	講義	①膝関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
12	5/21	講義	②膝関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
13	5/28	講義	①足関節・足部の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
14	5/28	講義	②足関節・足部の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
15	6/4	講義	脊柱の構造、運動について特徴を理解し、説明できる。(頸椎)	教科書・ノートにて予習復習をする。			
	6/3	確認試験					
16	6/4	講義	脊柱の構造、運動について特徴を理解し、説明できる。(胸・腰椎)	教科書・ノートにて予習復習をする。			
17	6/10	講義	【生体力学基礎】身体運動におけるベクトルとモーメントの概念を説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
18	6/10	講義	姿勢の基本的概念を理解できる。(Key:肢位・構え)	教科書・ノートにて予習復習をする。			
19	6/17	講義	①姿勢と姿勢制御について、重心と支持基底面の関係から説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
20	6/17	講義	②姿勢と姿勢制御について、重心と支持基底面の関係から説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
21	6/24	講義	①歩行周期について身体重心移動、下肢関節運動の観点から理解を深め、説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
22	6/24	講義	②歩行周期について身体重心移動、下肢関節運動の観点から理解を深め、説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
23	7/1	講義	①歩行時に必要な筋活動を理解し、異常歩行との関連性を説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
24	7/1	講義	②歩行時に必要な筋活動を理解し、異常歩行との関連性を説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
25	7/8	講義	①運動と動作の分析について基本的概念と用語を理解する。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
26	7/8	講義	②運動と動作の分析について基本的概念と用語を理解する。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
27	7/13	講義	③運動と動作の分析について基本的概念と用語を理解する。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
28	7/13	講義	④運動と動作の分析について基本的概念と用語を理解する。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
29	7/20	講義	ヒトの成長過程と運動発達の関係と学び、姿勢反射について要点を説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
	7/12	本試験					
30	7/20	講義	運動学習の特徴を理解し、練習と訓練に必要な知識を説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。			
準備学習 時間外学習			基礎運動学の教科書を事前に読んでおくこと。				
【使用教科書・教材・参考書】			<input type="checkbox"/> 基礎運動学 第6版 改訂(医歯薬出版) <input type="checkbox"/> 標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版(医学書院) <input type="checkbox"/> 国試の達人 運動解剖生理学編 理学療法科学学会編				

科目名 (英)	人間発達学 (Human Development)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	江崎浩明 加藤由美
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期 木曜日 3限
教員の略歴	江崎浩明:公認心理士、産業カウンセラー、修士(学術)。長年、精神・心理学関連の講義の講師を務める。 加藤由美:看護師、助産師、保育士。長年、人間発達関連の講義の講師を務める。						
学習内容	生まれてから亡くなるまでの生涯を通し、どのように発達していくのかを、乳児期・幼児前期・幼児後期・児童期・青年期・成人前期・成人期・高齢期の各発達段階に分け、またその過程で直面する様々な発達課題について学びます。出生から見られる原始反射や身体的な変化、発達スクリーニング検査等についての知識を得ることで、身体的な”成長”と精神的な”発達”の両側面から人間の変化を捉えることが出来る視点を身につけます。						
到達目標	各発達段階と発達課題を理解し、それとそれに適した養育的・尊重的な関わりが出来るようになる。 乳児期から幼児前期・幼児後期にかけての標準的な成長・発達の過程を説明できるようになる。 自分自身の発達について、長期的スパンで捉えられるようになる						
評価方法 (基準)	定期試験100%(選択式と記述式)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	8/29	講義	講義の進め方、教科書の使い方、ノートのとり方、評価方法を理解する。	成長と発達の違いについて考えておく
2	9/5	講義	成長と発達の違いについて説明できる。	数値や目に見える形で変化するものと話したり行動して初めて違いがわかるものを考えておく
3	9/12	講義	発達概念の歴史的変遷について説明できる。	”こども”と”おとな”の社会的責任や役割の違いについて考えておく
4	9/19	講義	エリクソンの漸成的発達段階の概要について説明できる。	人間の発達に、年齢によってどのような違いがあるのかを考えておく
5	9/26	講義	胎児期・周産期や原始反射について説明できる。	母子手帳等を用いて自分の”生まれ”について考えておく
6	10/3	講義	新生児・乳児期の課題(生理的早産・臨界期・気質論等)について説明できる。	乳幼児にとって安全な環境や危険な環境について・他の動物との生まれの違いについて考えておく
7	10/10	講義	幼児前期の課題(歩行と言語獲得・分離不安等)について説明できる。	幼児の行動範囲の広がりや興味関心について考えておく
8	10/17	講義	幼児後期の課題(トイレトレーニング、性別の理解等)について説明できる。	自分がいつオムツを使わなくなったか、性別の違いについて認識し始めたのはいつか、考えておく
9	10/24	講義	児童期の課題(劣等感の形成・ギャングエイジ・不登校やいじめ等)について説明できる。	小学生の頃に持っていた劣等感や、もの周りにおきたいじめや不登校について考えておく
10	10/31	講義	青年期(アイデンティティーとモラトリアム、NEET等)について説明できる。	今現在の将来になりたい自分像や、将来への迷いについて考えておく
11	11/11	講義	成人前期(生殖性・過程や仕事に対する停滞感・倦怠感等)について説明できる。	5年後・10年後のなりたい自分像について考えておく
12	11/11	講義	成人期の課題(更年期障害・空の巣症候群・熟年離婚等)について説明できる。	自分の親世代が直面している課題・問題について考えておく
13	11/18	講義	高齢期の課題(喪失・孤独・老老介護・生きがいの再設定・死の受容過程等)について説明できる。	自分の祖父母世代が直面している課題・問題について考えておく
14	11/18	講義	これまでに学んだ心理用語・概念について説明できる。	それぞれの単元の理解度をチェックしておく
	11/21	本試験	筆記試験	
15	11/28	講義	まとめ	
準備学習 時間外学習			学んだ概念を、日々の生活で感じ・思い返して復習してください。	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			生涯人間発達学 第2版(医学書院)	

科目名 (英)	医学概論 (Introduction to Medicine)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	鈴木寿則
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期 金曜日 曜日・時限 1~2限
教員の略歴	博士(医学)。東北大学医学系研究科非常勤講師も務める。						
学習内容	この授業は、理学療法士として必要な医学に関する法律の知識を学習するためのものです。他に関連する科目として、生理学及び病理学と関係します。受講生に対する要望として、授業をつうじて自分なりに学修成果をまとめる能力を養って頂きたいと思います。そのために、授業の展開として、教科書を中心に講義を行い、保健医療福祉関係について、基礎的な知識を学修します。						
到達目標	①医療及び健康の概念について説明できる。 ②生活習慣病に関する靱帯の機能及び構造について説明できる。 ③医療に関する制度及び法律について説明できる。						
評価方法 (基準)	試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	11/22	講義	細胞について説明できる。	教科書による通読
2	11/29	講義	健康の定義について説明できる。	教科書による通読
3	12/6	講義	予防医学について説明できる。	教科書による通読
4	12/13	講義	健康日本21(第二次)について説明できる。	教科書による通読
5	12/20	講義	スクリーニングについて説明できる。	教科書による通読
6	1/17	講義	疫学研究について説明できる。	教科書による通読
7	1/17	講義	疫学研究の種類について説明できる。	教科書による通読
8	1/24	講義	疫学指標について説明できる。	教科書による通読
9	1/24	講義	がんについて説明できる。	教科書による通読
10	1/31	講義	心疾患について説明できる。	教科書による通読
11	1/31	講義	高血圧及び糖尿病について説明できる。	教科書による通読
12	2/7	講義	脳血管疾患について説明できる。	教科書による通読
13	2/7	講義	呼吸器疾患について説明できる。	教科書による通読
14	2/14	講義	メンタルヘルスについて説明できる。	教科書による通読
	2/14	本試験	筆記試験	
15	2/14	講義	試験の解答および解説	教科書による通読
準備学習 時間外学習			あらかじめ教科書を通読し、講義内容の概略を把握しておくことを目的とする。	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			Active Aging 健康管理学	

科目名 (英)	病理学 (pathology)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	大沼 英子
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期 金曜日 5限
教員の略歴	歯科医師。現在、歯科医院に勤務している。						
学習内容	疾患の原因・経過及び症状をトータルな生命現象として理解し、細胞・組織・臓器・物質レベルで学習することで病的状態の分類・概論の基礎を習得する。さらに、疾患を理解するために各臓器に関する病変を病理学的に学ぶ。						
到達目標	疾病における臓器、組織、細胞の形態変化を理解し、各臓器に関する病変を病理学的に学ぶことで臨床医学と関連させた疾患の認識と理解を深める。						
評価方法 (基準)	定期試験 70% レポートおよび出席状況、授業態度等の定常点30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	8/30	講義	病理概説 病理の業務 疾患の一般	病理学の業務と関係用語を説明できる
2	9/6	講義	病因論1 内因	疾患の原因(内因)を説明できる
3	9/13	講義	病因論2 外因①	疾患の原因(栄養障害)を説明できる
4	9/20	講義	病因論3 外因②	疾患の原因(物理的外因)を説明できる
5	9/27	講義	病因論4 外因③	疾患の原因(化学的外因)を説明できる
6	10/4	講義	病因論5 外因④	疾患の原因(生物学的外因)を説明できる
7	10/11	講義	細胞障害1(定義・萎縮・変性)	細胞障害で起こる現象を説明できる
8	10/18	講義	細胞障害2(代謝障害と疾患、壊死)	代謝障害で起こる現象を説明できる
9	10/25	講義	循環障害	循環障害で起こる現象を説明できる
10	11/1	講義	進行性病変	細胞の修復過程を説明できる
11	11/8	講義	炎症	炎症で起こる現象を説明できる
12	11/15	講義	免疫①	免疫に関わる細胞とシステムを説明できる
13	11/22	講義	免疫②	免疫異常によって起こる疾患を説明できる
14	11/29	講義	腫瘍①	腫瘍とはどのようなものを説明できる
15	12/13	講義	腫瘍②・先天性異常	先天性異常の原因、疾患を説明できる
	12/6	試験	筆記試験	
準備学習 時間外学習			解剖学・生理学等関連する内容について、必要に応じて確認しながら理解を深めてほしい	
【使用教科書・教材・参考書】 □			病理学 第4版 (標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野) 医学書院	

科目名 (英)	臨床心理学 (Clinical Psychology)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	江崎浩明
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	後期 木曜日 2限
教員の略歴	公認心理士、産業カウンセラー、修士(学術)。長年、精神・心理学関連の講義の講師を務める。						
学習内容	他の心理学との違いや精神医学・社会学等周辺領域との関係性について学ぶことで、心の問題を理解する為に必要な臨床心理学的視点の獲得を目指します。その為に、ある人間の今を「人格理論」から、なぜそうなったかを「発達理論」から類推し、面接技法や心理検査も用いて仮説-検証していくモデルを学びます。また、さまざまな精神症状・精神疾患の特徴を学ぶことによって、「なんか変な人・おかしな人」という捉え方から「何らかの特徴によって生き辛さを感じている人」という捉え方にシフトし、差別的な関わりからより援助的な関わりができるように多様な視点の獲得を試みます。これらを学ぶ過程から、自分自身に対する劣等感や不全感を軽減し、問題を抱えながらもそれと上手に折り合いをつけ、たくましく生きていける精神的タフさ・粘り強さの獲得を目指します。						
到達目標	一般的又は医学的な問題把握ではなく、医学が捉えきれない心の問題について、臨床心理学的視点で捉えることができるようになる。 正常レベル・神経症レベル・精神病レベルの違いや、病識の有無、病態水準の概念について理解する。 代表的な人格理論と発達理論を学び、さらに各心理臨床家の人を捉える視点や枠組みの違いについて理解する。 他者理解のためにどのような情報手がかりとなるかについて理解する。						
評価方法 (基準)	定期テスト(前期50%、後期50%) 国家試験出題レベルのマークシート方式						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	8/29	講義	他の心理学との関連性や独自性を説明できる。	これまで学んだ心理学用語や概念を復習しておく。
2	9/5	講義	従来の医学的視点ではなく、臨床心理学的視点で捉えることの重要性を説明できる。	医学で用いられる検査や機器では測定できない問題について考えておく。
3	9/12	講義	予後・過剰適応・過剰防衛や、完治・根治と寛解の違いを説明できる。	人に何かを頼まれたら断りにくいタイプか、嫌なら平気で断れるタイプかを考えておく。
4	9/19	講義	表面に現れている発熱や頭痛等の症状と、その原因を同時並行に捉え対処する必要性を説明できる。	これまでの人生でぶつかった壁や挫折について思い出しておく。
5	9/26	講義	「元通りになること」と「より適応的に変化すること」の違いについて説明できる。	これまでの人生でぶつかった壁や挫折について思い出しておく。
6	10/3	講義	DSM-5(診断基準)の内容と、正常レベル・神経症レベル・精神病レベルについて説明できる。	自分の中の心の問題の重さや軽さの基準について考えておく。
7	10/10	講義	人格理論 I Freudの精神分析理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。	意識と無意識、自分の欲求とそれを抑える気持ちについて考えておく。
8	10/17	講義	人格理論 II Jungの分析的心理学理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。	自分の中の理想的な同性像・異性像、社会的な役割の仮面について考えておく。
9	10/24	講義	人格理論 III Rogersの来談者中心療法の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。	受容や共感に代表される現代のカウンセリングのイメージについて考えておく。
10	10/31	講義	発達理論 I Mahler, Winnicottの発達理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。	乳幼児期にいつも肌身離さず持ち歩いていた物を思い出しておく。
11	11/7	講義	発達理論 II Eriksonの漸成的発達理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。	乳児期から高齢期までの8段階の発達段階と発達課題を復習しておく。
12	11/7	講義	他者理解のための基礎的情報(家計図の見方、既往歴・現病歴等)の扱い、捉え方について説明できる。	"他者を理解するために集める情報"にはどのようなものがあるかについて考えておく。
13	11/14	講義	心理検査 I 種類と分類、代表的な発達検査と知能検査について説明できる。	心理テストと心理ゲームの違いや、古い・オーサ等と何が違うかについて考えておく。
14	11/14	講義	復習：これまでに学んだ用語・概念・理論について説明できる。	それぞれの単元の理解度をチェックしておく
15	11/21	講義	心理検査 II 代表的な性格検査(質問紙法・投影法・作業検査法)について説明できる。	性格検査で測定可能なことと想定不可能なことは何かを考えておく。
16	11/21	講義	アセスメント I 自閉スペクトラムについて説明できる。	自閉症と聞いてどのような病態像が頭に浮かぶが考えておく。
17	11/28	講義	アセスメント II AD/HD・学習障害を含む発達障害について説明できる。	落ち着きが無い子、動き回る子や、発達障害の病態像について考えておく。
18	12/5	講義	復習：これまでに学んだ用語・概念・理論について説明できる。	それぞれの単元の理解度をチェックしておく
	11/30	確認試験		
19	12/5	講義	アセスメント III 情緒障害・母性剥奪症候群・虐待・不登校・知的能力障害等について説明できる。	自分や自分のまわりに居た不登校やひきこもりについて思い出しておく。
20	12/12	講義	アセスメント IV 不安障害・パニック障害・摂食障害等について説明できる。	自分が抱える不安の種類・強度・持続期間について考えておく。
21	12/12	講義	アセスメント V うつ病・双極性障害について、その特徴や治療について説明できる。	うつ病について、知っていることやイメージをまとめておく。
22	12/19	講義	アセスメント VI 統合失調症について、その特徴や治療について説明できる。	統合失調症の病態像について考えておく。
23	12/19	講義	アセスメント VII 認知症(アルツハイマー、脳血管性、レビー小体型、前頭側頭型)について説明できる。	認知症の種類や症状の違いについて考えておく。
24	1/16	講義	心理療法 I 非指示的心理療法・クライエント中心療法について説明できる。	"カウンセリング"と言われて頭にどのようなイメージが湧くかを考えておく。
25	1/16	講義	心理療法 II 精神分析・分析的心理学について説明できる。	気がついたら無意識のうちになにかやっちゃってしまっていることを思い出しておく。
26	1/23	講義	心理療法 III 遊戯療法・音楽療法・箱庭療法・コラージュについて説明できる。	まだ上手に言葉で辛さや不安を表現できない子どもへのサポート方法を考えておく。
27	1/23	講義	心理療法 IV 自律訓練法・家族療法・森田療法について説明できる。	自分の家族のそれぞれの人間関係について考えておく。
28	1/30	講義	心理療法 V 認知行動療法について説明できる。	辛いときやストレスでつぶれそうなる時、いつも頭に浮かぶ事やとってしまう行動について考えておく。
29	1/30	講義	これまでに学んだ用語・概念・理論について説明できる。	それぞれの単元の理解度をチェックしておく
	2/6	本試験		
30	2/6	演習	聴くスキル 演習	自分にとって大事・大切な人が困っている時を想定しておく。
準備学習 時間外学習		学んだ概念を、日々の生活で感じ、思い返して復習してください。		
【使用教科書・教材・参考書】		□ 心とかかわる臨床心理 基礎・実際・方法 第3版		

科目名 (英)	リハビリテーション医学 (Rehabilitation Medicine)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	今田 元
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期 土曜日 3~4限
教員の略歴	医師。現在、仙台リハビリテーション病院に勤務している。						
学習内容	(1)チーム医療であるリハビリテーション医療における理学療法士の役割を理解する。 (2)リハビリテーション専門職として患者、家族に接する際の心構えを理解する。 (3)リハビリテーションの対象となる疾患・病態と行われる理学療法の概要を理解する。 医療全体の中で、リハビリテーション医療の位置づけ、進め方について、実際の例を踏まえて解説する。解剖学、生理学などを通じて理解した「正常」を基礎として、「障害」を生ずる様々な疾患、それに対する、理学療法士としての関わり方について解説する。						
到達目標	・リハビリテーション医学の歴史や体系について学び、また障害の診断・治療についても説明できる。 (2019年教育指導要領より抜粋)将来、仕事に就いた際に接する障害について、その原因となる疾病や外傷について、専門的な用語に接して概要を理解する。「障害」を理解するためには「正常」を理解しておく必要があり、解剖学、生理学、運動学などの知識と関連付けて理解する。						
評価方法 (基準)	評価方法:定期試験 合格基準:60点/100点						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1	9/21	講義	リハビリテーション医学総論(1):歴史,定義と理念,分野,対象	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。			
2	9/21	講義	リハビリテーション医学総論(2):障害のレベルと評価,介入方法等	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。			
3	9/28	講義	脳卒中(1):定義,分類と原因	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。			
4	9/28	講義	脳卒中(2):障害と評価法,リハの進め方	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。			
5	10/5	講義	その他の脳疾患:脳外傷,低酸素脳症,遷延性意識障害等	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。			
6	10/5	講義	神経筋疾患:パーキンソン病,筋萎縮性側索硬化症,脊髄小脳変性症等	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。			
7	10/19	講義	末梢神経疾患:腕神経叢麻痺,多発神経障害,単神経障害等	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。			
8	10/19	講義	脊髄疾患:脊髄損傷,二分脊椎,脊髄血管障害	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。			
9	10/26	講義	関節リウマチとその近縁疾患:関節リウマチ,悪性関節リウマチ等	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。			
10	10/26	講義	関節疾患:肩関節周囲炎,変形性股関節症,変形性膝関節症等	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。			
11	11/2	講義	外傷:外傷の特徴,骨折,スポーツ外傷,複合性局所疼痛症候群等	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。			
12	11/2	講義	脊椎疾患,切断:脊柱側弯症,椎間板ヘルニア,義肢,装具等	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。			
13	11/16	講義	内部疾患(1):心疾患,メタボリック症候群,呼吸器疾患等	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。			
14	11/16	講義	高齢者のリハ,小児リハ,地域リハ	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。			
	11/26	本試験	筆記試験				
15	12/7	講義	試験問題の解説	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。			
準備学習 時間外学習			解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			リハビリテーション医学テキスト 改定第4版 南江堂, 2016				

科目名 (英)	リハビリテーション概論 (Introduction to Rehabilitation)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	菅野 友樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1単位)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜
教員の略歴	理学療法士。心臓リハビリテーション指導士、3学会合同呼吸療法認定士。急性期心臓リハビリテーションを経験。						
学習内容	リハビリテーションの定義と概念、関連する用語について知ることができるよう解説を行う。また、リハビリテーション専門職を目指すうえで身に着ける必要のある要素について考える機会を提供する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの概念を理解し説明することができる ・リハビリテーションを実践するためにどのような医療人を目指すべきか考えることができる 						
評価方法 (基準)	1) 筆記試験(80%) 2) 課題レポート(20%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/22	講義	リハビリテーションの定義と歴史について知ることができる	講義内容の復習
2	5/13	講義	リハビリテーションの対象と時期について知ることができる	講義内容の復習
3	5/13	講義	医学的リハビリテーションとは何かを知ることができる	講義内容の復習
4	5/20	講義	医学的リハビリテーションについて例を通して考えることができる	講義内容の復習
5	5/20	講義	社会的リハビリテーションとは何かを知ることができる	講義内容の復習
6	5/27	講義	社会的リハビリテーションについて例を通して考えることができる	講義内容の復習
7	5/27	講義	職業的リハビリテーションとは何かを知ることができる	講義内容の復習
8	6/3	講義	職業的リハビリテーションについて例を通して考えることができる	講義内容の復習
9	6/10	講義	教育的リハビリテーションとは何かを知ることができる	講義内容の復習
10	6/10	講義	教育的リハビリテーションについて例を通して考えることができる	講義内容の復習
11	6/17	講義	リハビリテーションに必要なチーム医療について知ることができる	講義内容の復習
12	6/24	講義	チーム医療を実践するうえでの、「理想の病院」について考えることができる	講義内容の復習
13	7/1	講義	医療倫理、医療におけるホスピタリティについて知ることができる	講義内容の復習
14	7/1	講義	「理想の医療人」について考えることができる	講義内容の復習
	7/8	本試験	筆記試験	
15	7/8	講義	リハビリテーション専門職を目指す上で必要な知識は何かを理解できる	講義内容の復習
準備学習 時間外学習			講義内容の復習	
【使用教科書・教材・参考書】			講義資料を適宜配布予定	

科目名 (英)	理学療法概論 (Introduction to PT)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	稲葉夏海
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 木曜 4限
教員の略歴	理学療法士。回復期から生活期のリハビリテーションを経験。						
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法の概要、定義を学ぶ ・理学療法の評価・治療の大まかな流れを学ぶ ・理想の理学療法士像を考える。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法の定義が述べられる。 ・理学療法の評価・治療の大まかな意図を理解する。 ・どんな理学療法士になりたいか、理想とする理学療法士になるために何をすればいいのか考えることが出来る。 						
評価方法 (基準)	課題レポート:70% 小テスト:20% 授業態度・出席数:10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/4	講義	理学療法と何かを学ぶ	教科書読み・予習及び復習
2	4/18	講義	理学療法士に関連する法律について学ぶ	教科書読み・予習及び復習
3	4/25	講義	リハビリテーションにおける理学療法の役割①	教科書読み・予習及び復習
4	5/9	講義	リハビリテーションにおける理学療法の役割②	教科書読み・予習及び復習
5	5/16	講義	理学療法士の職務内容について①	教科書読み・予習及び復習
6	5/23	講義	理学療法士の職務内容について②	教科書読み・予習及び復習
7	5/30	講義	理学療法士の職務内容について③	教科書読み・予習及び復習
8	6/13	講義	診療報酬について	教科書読み・予習及び復習
9	6/20	講義	理学療法の一連の流れについて①	教科書読み・予習及び復習
10	6/27	講義	理学療法の一連の流れについて②	教科書読み・予習及び復習
11	7/4	講義	理学療法の一連の流れについて③	教科書読み・予習及び復習
12	7/9	講義	理想の理学療法士像について考える①	教科書読み・予習及び復習
13	7/9	講義	理想の理学療法士像について考える②	教科書読み・予習及び復習
14	7/11	講義	理想の理学療法士になるための4年間の目標を考える。①	教科書読み・予習及び復習
15	7/18	講義	理想の理学療法士になるための5年間の目標を考える。①	教科書読み・予習及び復習
準備学習 時間外学習			事前にテキストを読む	
【使用教科書・教材・参考書】 □			PT・OTビジュアルテキスト 理学療法概論 課題・動画を使ってエッセンスを学びとる 第1版 羊土社 その他備品教材使用	

科目名 (英)	理学療法評価学 I (Evaluation of PT I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	菅野 友樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (1単位)	開講区分 曜日・時限	前期 水曜
教員の略歴	理学療法士。心臓リハビリテーション指導士、3学会合同呼吸療法認定士。急性期心臓リハビリテーションを経験。						
学習内容	①理学療法評価とは何かを学ぶ ②バイタルサインとは何か学ぶ ③形態測定を学ぶ ④関節可動域検査を学ぶ						
到達目標	①理学療法評価の統合と解釈ができる ②バイタルサインを理解、実施できる ③形態測定、関節可動域検査が実施できる						
評価方法 (基準)	①実技試験 50% ②筆記試験 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5/8	演習	評価の意義と目的を説明できる	実技の復習
2	5/8	演習	検査開始時に必要な衛生管理について理解し実践できる	実技の復習
3	5/15	演習	問診や情報収集ができる	実技の復習
4	5/15	演習	バイタルサインについて理解し血圧・脈拍測定を行える	実技の復習
5	5/22	演習	四肢の周径測定ができる	実技の復習
6	5/22	演習	四肢長の測定ができる	実技の復習
7	5/29	演習	関節可動域とその測定について定義を述べられる	実技の復習
8	5/29	演習	肩関節屈曲・伸展の可動域を測定できる	実技の復習
9	6/5	演習	肩関節外転・内転の可動域を測定できる	実技の復習
10	6/5	演習	肩関節水平屈曲・水平伸展の可動域を測定できる	実技の復習
11	6/12	演習	肩関節外旋の可動域を測定できる	実技の復習
12	6/12	演習	肩関節内旋の可動域を測定できる	実技の復習
13	6/19	演習	肘関節の可動域を測定できる	実技の復習
14	6/19	演習	前腕の可動域を測定できる	実技の復習
15	7/5	演習	手関節の可動域を測定できる	実技の復習
	9/11	筆記試験	ROM-Tの基本軸・移動軸・参考可動域角度	
	9/25	実技試験	実技試験	
準備学習 時間外学習			検査の自主練習を行う	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			理学療法評価学 改定第6版 金原出版株式会社	

科目名 (英)	理学療法評価学Ⅱ (Evaluation of PT Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	稲葉夏海
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 水曜日 1～2限
学科・コース	理学療法科Ⅰ部						
教員の略歴	理学療法士。回復期から生活期のリハビリテーションを経験。						
学習内容	①講義にて理学療法評価における意義や目的、必要知識を学ぶ。 ②演習を中心に、問診、検査・測定を練習する。健常者同士で実施する中で注意点や対象者への接し方を学ぶ。 ③医療面接による情報と検査・測定の結果の関連性について、演習の中で説明しながら理解を深める。 ④徒手筋力検査法を学ぶ。						
到達目標	①理学療法評価の意義と目的を理解し説明することができる。 ②理学療法評価における必要知識を理解し、演習の中で関連付けすることができる。 ③検査・測定の意義と目的を理解し、健常者同士で実施することができる。 ④徒手筋力検査法が実施できる。						
評価方法 (基準)	①実技試験 80% ②筆記試験 20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	8/28	演習	手関節の関節可動域テストが実施できる	教科書にて予習、メモを見ながら復習
2	8/28	演習	股関節の関節可動域テストが実施できる	教科書にて予習、メモを見ながら復習
3	9/4	演習	股関節の関節可動域テストが実施できる	教科書にて予習、メモを見ながら復習
4	9/4	演習	股関節の関節可動域テストが実施できる	教科書にて予習、メモを見ながら復習
5	9/11	演習	膝関節の関節可動域テストが実施できる	教科書にて予習、メモを見ながら復習
6	9/11	演習	足関節の関節可動域テストが実施できる	教科書にて予習、メモを見ながら復習
7	9/18	演習	足関節の関節可動域テストが実施できる	教科書にて予習、メモを見ながら復習
8	9/18	演習	関節可動域テスト 総復習	教科書にて予習、メモを見ながら復習
9	10/2	演習	関節可動域テスト 総復習	教科書にて予習、メモを見ながら復習
10	10/2	演習	徒手筋力検査法 概要	教科書にて予習、メモを見ながら復習
11	10/9	演習	肩関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
12	10/9	演習	肩関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
13	10/16	演習	肩関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
14	10/16	演習	肩関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
15	10/23	演習	肩関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
16	10/23	演習	肩関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
17	10/30	演習	肩関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
18	10/30	演習	肩関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
19	11/6	演習	肘関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
20	11/6	演習	前腕の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
21	11/13	演習	股関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
22	11/13	演習	股関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
23	11/20	演習	股関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
24	11/20	演習	膝関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
25	11/27	演習	足関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
26	11/27	演習	足関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
27	12/4	演習	肩甲帯の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
28	12/4	演習	頸部体幹の関節可動域が測定できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
29	12/11	演習	頸部体幹の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
30	12/11	演習	徒手筋力検査法のすべての項目を実施できる	教科書にて予習、メモを見ながら復習
	12/16	確認試験		
	1/27	本試験		
準備学習 時間外学習	空き時間に実技練習をおこなうこと。			
【使用教科書・教材・参考書】	<input type="checkbox"/> 新・徒手筋力検査法 原著第10版			

科目名 (英)	地域福祉論 (Principles of Community welfare)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	佐野篤
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	後期 火曜隔週 4~5限
教員の略歴	社会福祉士、精神保健福祉士、保育士。社会福祉法人施設等で職務経験を有する。						
学習内容	様々な分野の社会福祉活動は「地域での暮らし」を基盤としていることに注目し、社会福祉の活動とは、自分を含めた全ての人が、地域社会の一員として安心且つ幸せを感じながら生活していくための手段であることを学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の基礎理念について概要を理解する。 ・地域福祉における課題と支援について概要を理解する。 ・「地域」にフォーカスされている国の施策について、その方向性を理解する。 ・地域包括支援体制についてその概要を理解する。 						
評価方法 (基準)	出席 20% 期末レポート 80%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	8/27	講義	講師自己紹介 心と身体の関係	配布資料の復読、課題作成
2	8/27	講義	現代社会と社会福祉	配布資料の復読、課題作成
3	9/10	講義	住民・市民参加の地域福祉1	配布資料の復読、課題作成
4	9/10	講義	住民・市民参加の地域福祉2 DVD	配布資料の復読、課題作成
5	9/24	講義	住民・市民参加の地域福祉3	配布資料の復読、課題作成
6	9/24	講義	住民・市民参加の地域福祉3 DVD	配布資料の復読、課題作成
7	10/8	講義	戦後日本の社会福祉の成立と動向	配布資料の復読、課題作成
8	10/8	講義	戦後日本の社会福祉の成立と動向 DVD	配布資料の復読、課題作成
9	10/22	講義	地域福祉における地方自治体の役割	配布資料の復読、課題作成
10	10/22	講義	地域福祉における地方自治体の役割1 DVD	配布資料の復読、課題作成
11	11/5	講義	地域福祉における地方自治体の役割	配布資料の復読、課題作成
12	11/5	講義	地域福祉における地方自治体の役割2 DVD	配布資料の復読、課題作成
13	11/26	講義	地域福祉における民間の役割	配布資料の復読、課題作成
14	11/26	講義	地域共生社会における包括的支援体制1 DVD	配布資料の復読、課題作成
15	12/14	講義	地域共生社会における包括的支援体制2 期末レポート解説	配布資料の復読、課題作成
準備学習 時間外学習			配布資料の復読、課題作成	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			特になし	

科目名 (英)	国家試験演習 I (The prac of Qualifying Exam I)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	菅野 友樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期 月・火
教員の略歴	理学療法士。心臓リハビリテーション指導士、3学会合同呼吸療法認定士。急性期心臓リハビリテーションを経験。						
学習内容	国家試験に向け、勉強の方法や習慣を確立する。また、解剖学・生理学・運動学といった専門基礎科目の知識の定着を図る。						
到達目標	①専門基礎分野(解剖学・生理学・運動学)の問題が解ける。 ②学習方法・学習習慣が確立できる。						
評価方法 (基準)	筆記試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	1/14	講義	専門基礎分野(骨・関節)を学習することで国家試験の出題ポイントを把握し理解を深めることができる。	講義で学習した内容を復習する。
2	1/14	講義	専門基礎分野(靭帯・筋)を学習することで、国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	講義で学習した内容を復習する。
3	1/15	講義	専門基礎分野(運動学)を学習することで、国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	講義で学習した内容を復習する。
4	1/15	講義	専門基礎分野(運動学)を学習することで、国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	講義で学習した内容を復習する。
5	1/21	講義	専門基礎分野(姿勢・歩行)を学習することで、国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	講義で学習した内容を復習する。
6	1/21	講義	専門基礎分野(バイオメカニクス)を学習することで国家試験の出題ポイントを把握し理解を深める。	講義で学習した内容を復習する。
7	1/22	講義	専門基礎分野(運動学習)を学習することで、国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	講義で学習した内容を復習する。
8	1/22	講義	専門基礎分野(神経)を学習することで、国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	講義で学習した内容を復習する。
9	1/28	講義	専門基礎分野(感覚)を学習することで国家試験の出題ポイントを把握し理解を深めることができる。	講義で学習した内容を復習する。
10	1/28	講義	専門基礎分野(循環系)を学習することで、国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	講義で学習した内容を復習する。
11	1/29	講義	専門基礎分野(呼吸系)を学習することで、国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	講義で学習した内容を復習する。
12	1/29	講義	専門基礎分野(消化)を学習することで、国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	講義で学習した内容を復習する。
13	2/4	講義	専門基礎分野(泌尿器)を学習することで、国家試験の出題ポイントを把握し理解を深めることができる。	講義で学習した内容を復習する。
14	2/4	講義	専門基礎分野(代謝)を学習することで、国家試験の出題ポイントを把握し理解を深めることができる。	講義で学習した内容を復習する。
15	2/5	講義	専門基礎分野(発生)を反復学習することで、国家試験の出題ポイントを把握し理解を深めることができる。	講義で学習した内容を復習する。
	2/7	本試験		
準備学習 時間外学習			国試の達人を使用し、授業の予習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			国試の達人 PT・OTシリーズ2024 運動解剖生理学編 アイベック	

科目名 (英)	PTスポーツ概論 (Introduction to PT Sports)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	今野良紀
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
教員の略歴	理学療法士(認定:脳卒中)。回復期・介護保険領域のリハビリテーションを経験し、現在はスポーツ分野での活動も実施。						
学習内容	必修科目で学習した内容をもとに、理学療法の対象となるスポーツ外傷/障害に対する理解を深める。						
到達目標	アスレティックリハビリテーションの一部を体験する。 スポーツ活動に関するリスクや救急対応について要点を説明できる。 スポーツ活動における地域での理学療法士の役割(予防的介入)について説明できる。						
評価方法 (基準)	・出席点(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/24	講義	オリエンテーション (シラバス説明、授業の注意点確認など)	スポーツと理学療法士の関わりについて調べ
2	4/24	講義	概論①：スポーツ競技者に対する理学療法	スポーツ競技者に対する理学療法について調べる。
3	5/22	講義	概論②：スポーツ競技者に対する理学療法	スポーツ競技者に対する理学療法について調べる。
4	5/22	実習	実技①：アスレティックリハの基礎技術を学ぶ。	スポーツ競技者に対する理学療法について調べる。
5	2/12	実習	実技②：アスレティックリハの基礎技術を学ぶ。	スポーツ競技者に対する理学療法について調べる。
6	2/12	実習	実技③：搬送・移送技術(体験)	スポーツ現場における応急対応を学ぶ。
7	2/12	実習	実技④：搬送・移送技術(体験)	スポーツ現場における応急対応を学ぶ。
8	2/19	実習	実技⑤：救命処置(体験)	スポーツ現場における応急対応を学ぶ。
9	2/19	実習	実技⑥：救命処置(体験)	スポーツ現場における応急対応を学ぶ。
10	2/25	実習	現場実習(地域の健康/運動教室に参加する)	地域における健康/運動教室の役割について調べる。
11	2/25	実習	現場実習(地域の健康/運動教室に参加する)	地域における健康/運動教室の役割について調べる。
12	3/8	実習	現場実習(スポーツイベントのボランティアに参加する)	スポーツ現場における理学療法士の役割と
13	3/8	実習	現場実習(スポーツイベントのボランティアに参加する)	スポーツ現場における理学療法士の役割と
14	3/8	実習	現場実習(スポーツイベントのボランティアに参加する)	スポーツ現場における理学療法士の役割と
15	3/8	実習	現場実習(スポーツイベントのボランティアに参加する)	スポーツ現場における理学療法士の役割と
準備学習 時間外学習			上記に示した準備学習課題を実施する。	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			【参考書】 スポーツ理学療法学 改訂第2版.MEDICAL VIEW スポーツ医学検定公式テキスト1級・2級・3級	

科目名 (英)	PTマネジメント概論 (Introduction to PT Management)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	稲葉夏海
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1単位)	開講区分	前期・後期 火・水 曜日・時限 1~4限
教員の略歴	理学療法士。回復期から生活期のリハビリテーションを経験。						
学習内容	医療サービスを支える組織運営という視点から経営組織に必要なマネジメントについて学ぶ。マネジメントとは、経営組織が保有する様々な資源を管理し、経営上の効果を最適化するための概念や仕組みをさす。経営組織というのは個人が集まって活動しているため、個人活動と共通する部分がある。サークル活動やアルバイトなど、身近な活動と対比させながら、マネジメントが私たちの身近なものであり役に立つ考え方であるという認識をもってもらえるよう進める。						
到達目標	組織活動の意義およびマネジメント活動を説明できる。マネジメント活動の目的である「組織目標の達成」および「組織の活性化」に必要な要素について説明できる。アクティブラーニングを通して、マネジメント行動を意識できる。						
評価方法 (基準)	レポート: 50% 出席状況: 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/24	講義	オリエンテーション	講義資料を良く読んで振り返っておくこと。
2	4/24	講義	オリエンテーション	講義資料を良く読んで振り返っておくこと。
3	6/26	講義	見学実習(地域介護予防教室)	講義資料を良く読んで振り返っておくこと。
4	6/26	講義	見学実習(地域介護予防教室)	講義資料を良く読んで振り返っておくこと。
5	1/21	講義	グループワーク演習① 状況認識の共有、課題形成の演習を行うことができる	事前に課す準備を行ない、積極的に演習に取り組むこと。
6	1/21	講義	グループワーク演習① 状況認識の共有、課題形成の演習を行うことができる	事前に課す準備を行ない、積極的に演習に取り組むこと。
7	1/21	講義	グループワーク演習② ディスカッション、アイデアの集約を行うことができる	事前に課す準備を行ない、積極的に演習に取り組むこと。
8	1/21	講義	グループワーク演習② ディスカッション、アイデアの集約を行うことができる	事前に課す準備を行ない、積極的に演習に取り組むこと。
9	2/12	講義	見学実習(地域介護予防教室)	講義資料を良く読んで振り返っておくこと。
10	2/12	講義	見学実習(地域介護予防教室)	講義資料を良く読んで振り返っておくこと。
11	2/12	講義	見学実習の振り返り	講義資料を良く読んで振り返っておくこと。
12	3/1	講義	ボランティア活動実践と報告	事前に課す準備を行ない、積極的に演習に取り組むこと。
13	3/1	講義	ボランティア活動実践と報告	事前に課す準備を行ない、積極的に演習に取り組むこと。
14	3/1	講義	ボランティア活動実践と報告	事前に課す準備を行ない、積極的に演習に取り組むこと。
15	3/1	講義	ボランティア活動実践と報告	事前に課す準備を行ない、積極的に演習に取り組むこと。
準備学習 時間外学習			授業の復習	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			適宜資料配布	

科目名 (英)	PTメディカル概論 (Introduction to PT Medicine)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	菅野 友樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1単位)	開講区分	後期 曜日・時限 金曜1,2限
教員の略歴	理学療法士。心臓リハビリテーション指導士、3学会合同呼吸療法認定士。急性期心臓リハビリテーションを経験。						
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・医学と医療の歴史の変遷を学び、現代の医療状況を理解する。 ・医療の原則と倫理に関して理解する。 ・社会保障制度の原則と実態を学び、医療の社会的役割を理解する。 						
到達目標	学んできた基礎知識を活かし、理学療法の対象となる高齢者や障がい者に対する理解を深めることができる。						
評価方法 (基準)	レポート:50% 出席状況:50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/24	講義	オリエンテーション	授業の復習
2	4/24	講義	医療の概念について述べるができる	授業の復習
3	5/22	講義	医療の歴史について理解できる(起源)①	授業の復習
4	5/22	講義	医療の歴史について理解できる(中世)②	授業の復習
5	2/12	講義	医療の歴史について理解できる(近代)③	授業の復習
6	2/12	講義	医療の歴史について理解できる(日本)④	授業の復習
7	2/12	講義	医療の歴史について理解できる(現代)⑤	授業の復習
8	2/19	講義	1～7講までの復習	授業の復習
9	2/19	講義	基本的な医療倫理規範について述べることができる	授業の復習
10	2/25	講義	脳死, 臓器移植, 情報開示, 個人情報保護について述べるができる。	授業の復習
11	2/25	講義	年金, 医療保険, 医療制度各種について述べることができる。	授業の復習
12	3/8	講義	医療法と医療計画, 地域保健と公衆衛生について述べることができる。	授業の復習
13	3/8	講義	予防医学にいて述べることができる。	授業の復習
14	3/8	講義	9～13講までの復習	授業の復習
15	3/8	講義	1～14講までのまとめ	授業の復習
準備学習 時間外学習			授業の復習	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			適宜資料配布	

科目名 (英)	医療福祉論 (Medical Welfare)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	片岡洋樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
教員の略歴	理学療法士(認定:脳卒中/学校教育/スポーツ)、修士(医科学)。急性期から生活期の臨床現場を経験し、研究やスポーツ分野での活動も実施。						
学習内容	日本や諸外国における理学療法士のステータス、学習内容、技術・知識、社会情勢の違いを学ぶことで、理学療法士に必要な視野を広げる。 健康分野における世界情勢に合わせ、グループワークによる知識の共有や調査発表を実施する。						
到達目標	日本や世界で実施されている最先端の理学療法技術や研究、トレーニングに触れ、今後の学習へ活かすことを目指す						
評価方法 (基準)	発表プレゼン 50% レポート 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/4	講義	導入オリエンテーションにてグループワークの進め方を確認する	講義内容の復習
2	9/4	講義	理学療法士のステータス、必要な知見を理解	講義内容の復習
3	9/18	講義	現在の医療や健康分野における知見を理解する	講義内容の復習
4	9/18	講義	日本や諸外国における社会情勢を確認する	講義内容の復習
5	10/2	講義	医療や健康分野の情勢を踏まえ、興味をもったテーマを調査する①	講義内容の復習
6	10/2	講義	医療や健康分野の情勢を踏まえ、興味をもったテーマを調査する②	講義内容の復習
7	10/30	講義	医療や健康分野の情勢を踏まえ、興味をもったテーマを調査する③	講義内容の復習
8	10/30	講義	医療や健康分野の情勢を踏まえ、興味をもったテーマを調査する④	講義内容の復習
9	11/6	講義	医療や健康分野の情勢を踏まえ、興味をもったテーマを調査する⑤	講義内容の復習
10	11/6	講義	医療や健康分野の情勢を踏まえ、興味をもったテーマを調査する⑥	講義内容の復習
11	11/20	講義	調査したテーマを資料にまとめる①	講義内容の復習
12	11/20	講義	調査したテーマを資料にまとめる②	講義内容の復習
13	11/27	講義	調査したテーマを資料にまとめる③	講義内容の復習
14	11/27	講義	調査内容の発表プレゼン	講義内容の復習
	12/4	本試験	調査内容の発表プレゼン、レポート提出	
15	12/4	講義	総括	講義内容の復習
準備学習 時間外学習			授業内容の予習・復習を行うこと	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			随時、資料を配布	

科目名 (英)	統計学 (Statistics)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	高橋未倫
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期 曜日・時限 木曜1,2限
教員の略歴	理学療法士、修士(理学)、Golf physio trainer。急性期から生活期の臨床現場を経験し、教員の経験を持つ。						
学習内容	この授業は、理学療法士として必要な統計学の知識を学修するためのものです。他に関連する科目として、医学概論における疫学分野と関係します。受講生に対する要望として、卒業後の研究活動に役立てるためにを学んでほしいと願っております。						
到達目標	①医学研究に必要な統計学の基礎知識を説明できる。 ②統計的視点からの医学的判断を説明できる。						
評価方法 (基準)	レポート課題70%、出席数30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	12/12	講義	基本的な統計処理について説明できる。 ①	授業内容の復習
2	12/12	講義	基本的な統計処理について説明できる。 ②	授業内容の復習
3	12/19	講義	基本的な統計処理について説明できる。 ③	授業内容の復習
4	12/19	講義	F検定について説明できる。	授業内容の復習
5	1/16	講義	t検定について説明できる。	授業内容の復習
6	1/16	講義	ウェルチ検定について説明できる。	授業内容の復習
7	1/23	講義	対応のあるt検定について説明できる。	授業内容の復習
8	1/23	講義	ウィルコクソン順位和検定について説明できる。	授業内容の復習
9	1/30	講義	ウィルコクソン符号付順位和検定について説明できる。	授業内容の復習
10	1/30	講義	適合度検定について説明できる。	授業内容の復習
11	2/6	講義	独立性の検定について説明できる。	授業内容の復習
12	2/6	講義	相関係数について説明できる。	授業内容の復習
13	2/13	講義	順位相関について説明できる。	授業内容の復習
14	2/13	講義	今までの講義のまとめ(課題の解説)	授業内容の復習
15	2/20	講義	まとめ(国家試験対策)	授業内容の復習
準備学習 時間外学習			授業内容の復習	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			リハビリテーション統計学(中山書店)	

科目名 (英)	一般臨床医学 (General Clinical Medicine)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	小川 恵子
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期 金曜2限
教員の略歴	医師。現在、みちのく記念病院に勤務している。						
学習内容	将来的に医療に関わっていく者として、内科的診断と治療の実際を学び、内科学学習の準備とする。総論として症候学を学び、各論においては循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患について学習する。						
到達目標	内科的診断のプロセスを理解する。内科疾患の中で循環器疾患・呼吸器疾患・消化器疾患の基礎知識・検査・治療等を理解する。						
評価方法 (基準)	定期試験(筆記) 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	8/30	講義	診断に必要な診察法について説明できる	指定教科書該当ページの予読
2	9/6	講義	診断に必要な検査について説明できる	指定教科書該当ページの予読
3	9/13	講義	主要な症候を生じる病態と関連疾患について	指定教科書該当ページの予読
4	9/20	講義	循環器疾患の概念及び病態生理について述べるができる	指定教科書該当ページの予読
5	9/27	講義	循環器疾患の臨床所見・検査について述べるができる	指定教科書該当ページの予読
6	10/4	講義	高血圧症・虚血性心疾患について述べるができる	指定教科書該当ページの予読
7	10/25	講義	弁膜症・心不全について述べるができる。	指定教科書該当ページの予読
8	11/1	講義	不整脈・血管疾患について述べるができる	指定教科書該当ページの予読
9	11/8	講義	呼吸器疾患の病態生理及び呼吸機能検査について述べるができる	指定教科書該当ページの予読
10	11/15	講義	呼吸器感染症と閉塞性肺疾患について述べるができる	指定教科書該当ページの予読
11	11/22	講義	拘束性肺疾患と肺腫瘍について述べることができる。	指定教科書該当ページの予読
12	11/29	講義	消化器疾患の症候及び病態生理について述べるができる	指定教科書該当ページの予読
13	12/6	講義	食道及び胃疾患について述べるができる	指定教科書該当ページの予読
14	12/13	講義	小腸・大腸疾患について述べるができる	指定教科書該当ページの予読
	12/16	本試験		
15	12/20	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習			授業前後で、該当分野の範囲を教科書中心に確認すること	
【使用教科書・教材・参考書】 □			標準 理学療法学・作業療法学 内科学 第4版 医学書院	

科目名 (英)	整形外科学 (Orthopedic Surgery)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	有野教司
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期 曜日・時限 木曜1,2限
教員の略歴	医師。東北大学病院勤務						
学習内容	国家試験に合格し、理学療法士として実臨床に臨む上で、整形外科学は必須の学習項目である。超高齢社会となった本邦においては、高齢者の運動器疾患が増加しており、理学療法における運動器疾患のウエイトは大きなものである。本講義を受ける学生には、社会貢献ができる理学療法士になることを期待している。本講義では、国家試験対策はもちろん、実臨床で役立つ知識を身に付けることを目標とし、現場の生きた経験に基づく講義を行う予定である。						
到達目標	①本邦における運動器疾患に対する理学療法の重要性を理解する。 ②理学療法士国家試験に合格しうる十分な知識を習得する。 ③実臨床で役立つ知識や考え方を身に付ける。 ④運動器に対する学問的興味を深め、学問の発展の重要性と、それに寄与する研究活動の重要性を理解する。						
評価方法 (基準)	定期試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/4	講義	整形外科総論	講義プリントの復習
2	4/4	講義	各種検査治療法の概要	講義プリントの復習
3	4/11	講義	治療総論、骨折総論	講義プリントの復習
4	4/11	講義	上肢骨折、体幹骨折	講義プリントの復習
5	4/18	講義	下肢骨折	講義プリントの復習
6	4/18	講義	過去問演習(骨折)	講義プリントの復習
7	4/25	講義	骨軟部腫瘍	講義プリントの復習
8	4/25	講義	神経筋疾患、感染	講義プリントの復習
9	5/9	講義	OA	講義プリントの復習
10	5/9	講義	RA	講義プリントの復習
11	5/16	講義	骨系統疾患、代謝性疾患	講義プリントの復習
12	5/16	講義	脊髄疾患、頸椎	講義プリントの復習
13	5/23	講義	胸腰椎、脊椎過去問	講義プリントの復習
14	5/23	講義	脊椎過去問	講義プリントの復習
15	5/30	講義	過去問演習	講義プリントの復習
16	5/30	講義	中間試験対策	講義プリントの復習
	6/12	中間試験		
17	6/13	講義	試験解説	
18	6/13	講義	末梢神経	講義プリントの復習
19	6/20	講義	末梢神経過去問	講義プリントの復習
20	6/20	講義	末梢神経過去問、肩関節疾患	講義プリントの復習
21	6/27	講義	肘関節疾患、手関節疾患 上肢過去問	講義プリントの復習
22	6/27	講義		講義プリントの復習
23	7/4	講義	膝関節疾患、足疾患 股関節疾患	講義プリントの復習
24	7/4	講義		講義プリントの復習
25	7/11	講義	下肢過去問、症例からみる復習1,2	講義プリントの復習
26	7/11	講義		講義プリントの復習
27	7/18	講義	症例からみる復習4	講義プリントの復習
28	7/18	講義	期末試験対策	講義プリントの復習
	7/24	期末試験		
29	7/25	講義	試験解説	
30	7/25	講義	全体総括	
準備学習 時間外学習		毎回配布される講義資料と教科書対応ページの復習が必要		
【使用教科書・教材・参考書】		<input type="checkbox"/> 標準整形外科学 第15版(医学書院)		

科目名 (英)	神経内科学 (Neurology)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	坂部貢
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	後期 水曜4限
教員の略歴	医師。東海大学医学部の部長を担っている。						
学習内容	理学療法士に必要な神経内科学について実際の症例等を交えながら教授する。						
到達目標	理学療法士に必要な知識として、神経の特徴および疾患について理解する。同時に、神経内科学を理解することで理学療法に繋げることを目標とする。						
評価方法 (基準)	筆記試験: 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	8/28	講義	神経内科を理解するために必要な基礎知識について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
2	9/4	講義	神経系の構造と機能について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
3	9/11	講義	神経学的診断の意義について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
4	9/18	講義	神経学的診断の実際について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
5	9/25	講義	病歴と障害歴の聴取方法について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
6	10/2	講義	神経学的診察の手順について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
7	10/9	講義	意識障害について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
8	10/16	講義	神経症候学の基礎について理解する①頭痛やめまいなど	事前配布資料を読んでおくこと
9	10/23	講義	神経症候学の基礎について理解する②感覚障害など	事前配布資料を読んでおくこと
10	10/30	講義	神経症候学の基礎について理解する③失語症・失認など	事前配布資料を読んでおくこと
11	11/6	講義	画像診断の基礎について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
12	11/13	講義	高次機能障害について理解する①	事前配布資料を読んでおくこと
13	11/13	講義	高次機能障害について理解する②	事前配布資料を読んでおくこと
14	11/20	講義	構音・嚥下障害について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
15	11/20	講義	脳神経外科学の疾患について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
16	11/27	講義	脳血管障害の診察・診断について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
17	11/27	講義	脳出血について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
18	12/4	講義	脳梗塞について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
19	12/4	講義	脳腫瘍について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
20	12/11	講義	認知症について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
21	12/11	講義	脊髄疾患について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
22	12/18	講義	錐体外路の変性疾患について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
23	12/18	講義	パーキンソン病について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
24	1/15	講義	その他中枢神経系疾患について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
25	1/15	講義	成人と小児に共通した神経疾患について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
26	1/22	講義	てんかんについて理解する	事前配布資料を読んでおくこと
27	1/22	講義	多発性硬化症について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
28	1/29	講義	神経系の感染症について理解する	事前配布資料を読んでおくこと
29	1/29	講義	その他神経内科学的疾患について理解する①	事前配布資料を読んでおくこと
30	2/5	講義	その他神経内科学的疾患について理解する①	事前配布資料を読んでおくこと
	2/10	本試験	筆記試験	
準備学習 時間外学習			講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			病気がみえる VOL.7 脳・神経 2版(メディックメディア)	

科目名 (英)	小児科学 (pediatrics)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	坂部貢
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 水曜4限
教員の略歴	医師。東海大学医学部の部長を担っている。						
学習内容	小児の身体的特徴および疾患について理学療法士に必要な知識を教授する。						
到達目標	理学療法士に必要な知識として、小児の特徴および疾患について理解する。同時に、小児についてのリハビリテーションについて理解することを目標とする。						
評価方法 (基準)	筆記試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/3	講義	成長と発達について理解する	事前配布プリントを読んでおくこと
2	4/10	講義	先天異常について理解する	事前配布プリントを読んでおくこと
3	4/24	講義	小児の消化器系疾患について理解する①	事前配布プリントを読んでおくこと
4	5/8	講義	小児の消化器系疾患について理解する②	事前配布プリントを読んでおくこと
5	5/15	講義	小児の呼吸器疾患について理解する	事前配布プリントを読んでおくこと
6	5/22	講義	小児の循環器疾患について理解する	事前配布プリントを読んでおくこと
7	5/29	講義	小児の感染症について理解する	事前配布プリントを読んでおくこと
8	6/5	講義	小児の内分泌代謝疾患について理解する	事前配布プリントを読んでおくこと
9	6/12	講義	障害児について理解する	事前配布プリントを読んでおくこと
10	6/19	講義	重大な結果を招くリスクのある疾患について理解する①	事前配布プリントを読んでおくこと
11	6/26	講義	重大な結果を招くリスクのある疾患について理解する②	事前配布プリントを読んでおくこと
12	7/3	講義	小児症候学:よく見られる症状を述べる①	事前配布プリントを読んでおくこと
13	7/10	講義	小児症候学:よく見られる症状を述べる②	事前配布プリントを読んでおくこと
14	7/17	講義	小児症候学:よく見られる症状を述べる③	事前配布プリントを読んでおくこと
15	7/24	講義	まとめ	事前配布プリントを読んでおくこと
	7/30	試験	筆記試験	
準備学習 時間外学習			講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第4版 (医学書院)	

科目名 (英)	運動学実習 (Practice in Kinesiology)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	今野良紀
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分	前期 曜日・時限 火曜3,4限
教員の略歴	理学療法士(認定:脳卒中)。回復期・介護保険領域のリハビリテーションを経験し、現在はスポーツ分野での活動も実施。						
学習内容	運動学の講義で得た基礎知識をもとに、実際に行われる関節運動や基本動作について理解を深める。 身体運動を観察して記録を行い、測定したデータをもとにレポートにまとめる作業を通じて、適切な表現方法を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動学的知識について、実習を通して体験ができる。 ・運動学的用語を理解し、説明に用いることができる。 ・日常動作を現象として捉え、特徴的な運動パターンについて、観察結果を記録・説明ができる。 						
評価方法 (基準)	・筆記試験:100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	6/11	講義・演習	オリエンテーション 解剖学的指標・身体計測点について理解でき	触察に必要な解剖学的指標の復習をする
2	6/11	演習	生態観察(体表区分・解剖学的指標)	触察に必要な解剖学的指標の復習をする
3	6/18	演習	生態観察(体表解剖、身体計測点)	触察に必要な解剖学的指標の復習をする
4	6/18	演習	生態観察(体表解剖、身体計測点)	触察に必要な解剖学的指標の復習をする
5	6/25	演習	機能解剖学(上肢筋の起始・停止、作用など)	体表解剖に必要な筋の位置関係を復習する
6	6/25	演習	機能解剖学(上肢筋の起始・停止、作用など)	体表解剖に必要な筋の位置関係を復習する
7	7/2	演習	機能解剖学(下肢筋の起始・停止、作用など)	体表解剖に必要な筋の位置関係を復習する
8	7/2	演習	機能解剖学(下肢筋の起始・停止、作用など)	体表解剖に必要な筋の位置関係を復習する
9	7/9	演習	計測(関節運動:関節弛緩性)	関節構造と動きの特徴を復習する。
10	7/9	演習	計測(関節運動:関節副運動)	関節構造と動きの特徴を復習する。
11	7/16	演習	計測(関節運動:関節不安定性)	関節構造と動きの特徴を復習する。
12	7/16	演習	計測(関節運動:最終域感)	関節構造と動きの特徴を復習する。
13	7/30	演習	姿勢観察(座位)	肢位の名称と特徴を復習する。
14	7/30	演習	姿勢観察(立位)	肢位の名称と特徴を復習する。
15	8/27	演習	動作分析(起居動作)	動作のパターンを復習する。
16	8/27	演習	動作分析(歩行)	動作のパターンを復習する。
17	9/3	講義・演習	生態力学基礎(運動パターンの理解と線画練習)	線画の基本について理解する。
18	9/3	講義・演習	線画課題を用いて運動分析を行う(関節モデル)	線画を作成し、角度変化と力の関係について理解できる。
19	9/10	講義・演習	線画課題を用いて運動分析を行う(起居動作)	線画を作成し、角度変化と力の関係について理解できる。
20	9/10	講義・演習	線画課題を用いて運動分析を行う(起居動作)	線画を作成し、角度変化と力の関係について理解できる。
21	9/17	講義・演習	線画課題を用いて運動分析を行う(歩行)	線画を作成し、角度変化と力の関係について理解できる。
22	9/17	講義・演習	線画課題を用いて運動分析を行う(歩行)	線画を作成し、角度変化と力の関係について理解できる。
	9/18	本試験		
23	9/24	演習	まとめ	
準備学習 時間外学習			1年次で学習した解剖学・運動学との関連が深いため、より理解を深めるために復習をして運動学実習の講義を受けることが望ましい。	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			基礎運動学 第6版 (医歯薬出版株式会社) 筋骨格系のキネシオロジー (医歯薬出版株式会社) 観察による運動・動作分析ノート(医歯薬出版株式会社)	

科目名 (英)	障害論 (Disability)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	今野良紀
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期 木曜1,2 限
教員の略歴	理学療法士(認定:脳卒中)。回復期・介護保険領域のリハビリテーションを経験し、現在はスポーツ分野での活動も実施。						
学習内容	リハビリテーション医学における障害について、必要な用語や基礎概念を理解できる。 また、「リハビリテーション対象者に対する障害構造の捉え方」について自分の考え方を整理する。						
到達目標	①近現代における障害に対する認識の変化を歴史的な事象を通して理解できる。 ②障害構造を捉える上で障害モデルを活用し、情報を整理できる。 ③リハビリテーション対象者に対する障害構造の全体像を言語化できる。						
評価方法 (基準)	筆記試験:100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	8/29	講義	オリエンテーション(シラバス説明)	カリキュラム・シラバスを確認する。
2	8/29	講義	オリエンテーション(授業の注意点、配慮する点)	カリキュラム・シラバスを確認する。
3	9/5	講義	基礎学習①:「障害」に関する歴史を理解する。	予習・復習をする。 (医療倫理～生命倫理の歴史の変遷)
4	9/5	講義	基礎学習②:「障害」に関する歴史を理解する。	予習・復習をする。 (医療倫理～生命倫理の歴史の変遷)
5	9/12	講義	基礎学習③:「障害」に関わる専門家に求められることを学ぶ。	予習・復習をする。(身体障害者福祉法、 身体障害者手帳、ノーマライゼーションなど)
6	9/12	講義	基礎学習④:「障害」に関わる専門家に求められることを学ぶ。	予習・復習をする。(障害受容)
7	9/19	講義	①リハビリテーションにおける障害の捉え方	予習・復習をする。 (学習キーワード:WHO、ICIDH、ICF)
8	9/19	講義	②リハビリテーションにおける障害の捉え方	予習・復習をする。 (学習キーワード:KJ法、ロジックツリー)
9	9/26	講義	③リハビリテーションにおける障害の捉え方	予習・復習をする。 (学習キーワード:KJ法、ロジックツリー)
10	9/26	講義	④リハビリテーションにおける障害の捉え方	予習・復習をする。 (学習キーワード:KJ法、ロジックツリー)
11	10/3	講義	⑤リハビリテーションにおける障害の捉え方	予習・復習をする。 (学習キーワード:ICIDH)
12	10/3	講義	⑥リハビリテーションにおける障害の捉え方	予習・復習をする。 (学習キーワード:ICIDH)
13	10/24	講義	⑦リハビリテーションにおける障害の捉え方	予習・復習をする。 (学習キーワード:ICF)
14	10/24	講義	⑧リハビリテーションにおける障害の捉え方	予習・復習をする。 (学習キーワード:ICF)
	11/29	本試験		
15	10/31	講義	授業全体のまとめ	授業内容全体を復習する。
準備学習 時間外学習			用語の意味について、授業内で十分に理解ができなかった場合は、自宅で調べ学習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】 □			PT・OTビジュアルテキスト 理学療法概論,羊土社 リハビリテーション医学テキスト 改訂第5版,南江堂	

科目名 (英)	理学療法評価学Ⅲ (Evaluation of PT Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	古川雅一
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義 実習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜 3,4限
教員の略歴	理学療法士。修士(医療福祉学)。病院勤務、理学療法士養成校教員(兵庫県)、JICA青年海外協力隊(キルギス派遣)を経験。						
学習内容	①理学療法評価学ⅠとⅡの内容を復習し知識の定着を図る。 ②基本的な理学療法評価を実践する。						
到達目標	①ROM・MMTの評価技術が正確にできる ②ADL検査の説明ができる ③運動器、神経系、呼吸循環代謝への検査について説明ができる						
評価方法 (基準)	筆記試験50% 実技試験50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/9	講義・演習	痛みの評価、知覚検査を行う事ができる	講義内容の復習を行う
2	4/9	講義・演習	痛みの評価、知覚検査を行う事ができる	講義内容の復習を行う
3	4/16	講義・演習	深部腱反射、病的反射を実践できる	講義内容の復習を行う
4	4/16	講義・演習	深部腱反射、病的反射を実践できる	講義内容の復習を行う
5	4/19	講義・演習	筋緊張検査を実践できる	講義内容の復習を行う
6	4/19	講義・演習	ADL検査を実施できる	講義内容の復習を行う
7	5/7	講義・演習	協調性検査を実践できる	講義内容の復習を行う
8	5/7	講義・演習	整形外科検査を実施できる	講義内容の復習を行う
9	5/14	講義・演習	片麻痺機能検査を実践できる	講義内容の復習を行う
10	5/14	講義・演習	片麻痺機能検査を実践できる	講義内容の復習を行う
11	5/21	講義・演習	姿勢反射検査、バランス検査を実践できる	講義内容の復習を行う
12	5/21	講義・演習	姿勢反射検査、バランス検査を実践できる	講義内容の復習を行う
13	5/28	講義・演習	呼吸・循環・代謝機能検査を説明できる	講義内容の復習を行う
14	5/28	講義・演習	呼吸・循環・代謝機能検査を説明できる	講義内容の復習を行う
15	6/4	講義・演習	まとめ	全ての講義内容の復習
	6/11	確認試験	筆記試験	
	7/23	定期試験	実技試験	
準備学習 時間外学習			教科書の予習、および講義内容の復習。	
【使用教科書・教材・参考書】 □			理学療法評価学 第6版 PT・OTのための臨床技能とOSCE 第2班補改訂	

科目名 (英)	理学療法評価学実習 I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	塚野智史
	(Physical therapy evaluation clinical practicum)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分	後期 月曜日・時限1,2限
学科・コース	理学療法科 I 部						
教員の略歴	理学療法士(認定:学校教育)。急性期・回復期・通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションを経験。						
学習内容	理学療法評価学 I・II・III で学んだ知識をもとに、得られた評価結果に対する意味づけを考える事を目的とする。						
到達目標	①学生同士でお互いを検査測定し、得られた結果から統合と解釈、問題点の抽出までを行う事が出来る。 ②上記の内容をレジュメにまとめて発表する事が出来る。						
評価方法 (基準)	1)総合実技試験50% 2)筆記試験50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10/31	演習	姿勢評価、ランドマーク触診	講義の復習を行う事
2	10/31	演習	姿勢評価、ランドマーク触診	講義の復習を行う事
3	11/7	演習	ROM-T 上肢	講義の復習を行う事
4	11/7	演習	ROM-T 上肢	講義の復習を行う事
5	11/14	演習	ROM-T 下肢	講義の復習を行う事
6	11/14	演習	ROM-T 下肢	講義の復習を行う事
7	11/21	演習	MMT 上肢	講義の復習を行う事
8	11/21	演習	MMT 上肢	講義の復習を行う事
9	11/28	演習	MMT 下肢	講義の復習を行う事
10	11/28	演習	MMT 下肢	講義の復習を行う事
11	12/5	演習	形態計測	講義の復習を行う事
12	12/5	演習	深部腱反射	講義の復習を行う事
13	12/19	演習	車いす操作	講義の復習を行う事
14	12/19	演習	車いす操作	講義の復習を行う事
15	1/16	演習	レジュメ作成について	講義の復習を行う事
16	1/16	演習	情報収集について	講義の復習を行う事
17	1/23	演習	統合と解釈 SOAP記載	講義の復習を行う事
18	1/23	演習	統合と解釈 SOAP記載	講義の復習を行う事
19	1/30	演習	統合と解釈 SOAP記載	講義の復習を行う事
20	1/30	演習	統合と解釈 SOAP記載	講義の復習を行う事
	2/4	確認試験	実技試験	
21	2/6	演習	レジュメ作成	講義の復習を行う事
22	2/6	演習	レジュメ作成	講義の復習を行う事
	2/10	定期試験	筆記試験	
23	2/13	演習	レジュメ作成	講義の復習を行う事
準備学習 時間外学習			ケースに替えておく事 授業の予習復習を行う事	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			理学療法評価学 改訂第6版 金原出版株式会社	

科目名 (英)	運動療法学 I (Movement Therapy I)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	石島孝樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜3・4限
教員の略歴	理学療法士資格取得後、主に急性期病院などで16年の臨床経験がある。						
授業の学習内容	①運動療法を実施する際、各種身体機能に関する知識を理解することが重要である。 ②運動療法学 I では、運動療法に繋がる各種身体機能に関する知識を理解する。 ③卒後、適切な運動療法が実施できるセラピストに成長することを期待している。 この科目では、講義により各種身体機能に関する知識を説明する。						
到達目標	①各機能の基礎知識を理解する。 ②各機能および疾患の特性から、対象者の身体状況を把握する。 ③疾患特性に留意した運動療法プログラムを立案することができる。						
評価方法 (基準)	1)定期テスト60% 2)出席40% 具体的な達成の目安:教科書を元に作成した定期テストで60点以上取ること。 * 各機能の構造と働きを理解することができる。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/4	講義	呼吸器系の構成と役割	
2	4/4	講義	呼吸障害に関する各種検査	
3	4/11	講義	循環器系の構成と役割	
4	4/11	講義	循環障害の分類と各種運動療法	
5	4/18	講義	代謝機能の仕組みと役割	
6	4/18	講義	代謝機能障害の特徴と各種運動療法	
7	4/25	講義	前庭機能の仕組みと役割	
8	4/25	講義	前庭機能障害の特徴と各種運動療法	
9	5/9	講義	高齢者における運動機能の特性	
10	5/9	講義	高齢者における運動機能障害の特性	
11	5/16	講義	動作障害に対する各種運動療法	
12	5/16	講義	姿勢保持に関与する各種機能	
13	5/23	講義	立位・歩行姿勢の評価と各種運動療法	
14	5/23	講義	運動学習の概念と介入法	
15	5/30	講義	授業のまとめ	
	6/4	定期試験		
準備学習 時間外学習			教科書をもとに予習と復習を行うこと。	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			Crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学 MEDICAL VIEW	

科目名 (英)	運動療法学実習 I (Practice of Movement Therapy I)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	石島孝樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義 実習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分 曜日・時限	前後期 木曜3・4限
教員の略歴	理学療法士資格取得後、主に急性期病院などで16年の臨床経験がある。						
授業の学習内容	①運動療法を実施する際、医学的根拠に基づいたアプローチが求められている。 ②運動療法学実習 I では、解剖・生理・運動学の知識をもとに、評価・アプローチを実施する過程を理解する。 ③卒業後、適切な運動療法が実施できるセラピストに成長することを期待している。 この科目では、講義で疾患の基礎知識と病態を説明し、実技で評価とアプローチを指導する。						
到達目標	①各疾患の基礎知識を理解する。 ②疾患の特性から、正確に身体状況を把握する。 ③疾患特性に留意した運動療法を実施することができる。						
評価方法 (基準)	1)定期テスト60% 2)出席40% 具体的な達成の目安:教科書を元に作成した定期テストで60点以上取ること。 * 疾患の特性とアプローチ法を理解したうえで運動療法を実施することができる。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	6/13	講義	痛みの種類と原因	
2	6/13	講義と実技	痛みに対する運動療法の実際(上肢)	
3	6/20	講義	各種疼痛に関する運動療法の理論	
4	6/20	講義と実技	痛みに対する運動療法の実際(下肢)	
5	6/27	講義	発達障害児の病態と評価	
6	6/27	講義と実技	発達障害児に対する各種運動療法	
7	7/4	講義	呼吸器疾患の病態と評価	
8	7/4	講義と実技	呼吸器疾患に対するアプローチ法①	
9	7/11	講義	呼吸器疾患の生理と疾患特性	
10	7/11	講義と実技	呼吸器疾患に対するアプローチ法②	
11	7/18	講義	循環器の機能と構造	
12	7/18	講義と実技	循環器疾患に関する各種評価法	
13	7/25	講義	循環器障害の病態と評価	
14	7/25	講義と実技	循環器疾患に対する運動療法	
15	8/29	講義	代謝機能の役割と特徴	
16	8/29	講義と実技	代謝障害を有する患者への介入法①	
17	9/5	講義	代謝機能の障害と疾患特性	
18	9/5	講義と実技	代謝障害を有する患者への介入法②	
19	9/12	講義	嚥下障害の病態と評価	
20	9/12	講義と実技	嚥下障害を有する患者への介入法	
21	9/19	講義	加齢に伴う身体機能の変化	
22	9/19	講義と実技	高齢者が有する疾患の特性と介入法	
	9/24	定期テスト		
23	9/26	講義	テストのフィードバック	
準備学習 時間外学習			教科書と参考資料をもとに予習と復習を行うこと。実技は学生間で反復練習すること。	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版 文光堂	

科目名 (英)	運動療法学Ⅱ (Movement TherapyⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	佐藤 広人
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期 月曜1限
教員の略歴	理学療法士。急性期病棟、整形外科クリニック等での臨床経験あり。養成校の学内実習指導を外部講師として担当。						
授業の学習内容	理学療法介入において大きな柱として位置づけられている運動療法は、解剖学や生理学、運動学を基礎とし、理学療法士が得意とする領域である。各単元の前半では必要な生物医学側面と社会科学的側面の両面からみた必要な基礎知識を確認した上で、運動療法の基本手技を学んでいく。2年次後期に予定されている運動療法学実習への移行が円滑に行なわれるよう、講義内でも随時実技での体験をしていく。						
到達目標	①運動療法の歴史、基本的概念について学ぶ。 ②身体の構造と機能への理解を深め、運動療法構築への概念を学習する。 ③講義内容に応じて実施される単元テストを活用し、該当する単元の要点を説明できる。 ④講義内容に応じた基本的運動療法技術を健常者同士で一部体験する。						
評価方法 (基準)	・筆記試験:100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/15	講義	【総論】 運動・運動療法の定義と特徴を理解できる。	資料・参考書を使用し予習復習を行う
2	4/22	講義	【総論】 運動療法の分類、適応と禁忌を理解できる。	資料・参考書を使用し予習復習を行う
3	5/13	講義	【筋機能と運動療法】 運動における筋の機能について理解できる。	資料・参考書を使用し予習復習を行う
4	5/20	講義	【筋機能と運動療法】 筋力・筋持久力低下に対する運動療法を理解できる。	資料・参考書を使用し予習復習を行う
5	5/27	講義	【関節可動性と運動療法】 運動における関節可動性について理解できる。	資料・参考書を使用し予習復習を行う
6	6/3	講義	【関節可動性と運動療法】 関節可動性障害に対する運動療法が理解できる。	資料・参考書を使用し予習復習を行う
7	6/17	講義	【バランス機能と運動療法】 姿勢・動作におけるバランス機能が理解できる。	資料・参考書を使用し予習復習を行う
8	6/24	講義	【バランス機能と運動療法】 バランス機能障害に対する運動療法が理解できる。	資料・参考書を使用し予習復習を行う
9	7/1	講義	【協調性機能と運動療法】 運動における協調性機能について理解できる。	資料・参考書を使用し予習復習を行う
10	7/8	講義	【協調性機能と運動療法】 協調性障害に対する運動療法について理解できる。	資料・参考書を使用し予習復習を行う
11	7/22	講義	【中枢神経機能と運動療法】 運動における中枢神経機能について理解できる。	資料・参考書を使用し予習復習を行う
12	7/29	講義	【中枢神経機能と運動療法】 中枢神経障害に対する運動療法が理解できる。	資料・参考書を使用し予習復習を行う
13	8/26	講義	【末梢神経機能と運動療法】 運動における末梢神経機能について理解できる。	資料・参考書を使用し予習復習を行う
14	9/2	講義	【末梢神経機能と運動療法】 末梢神経障害に対する運動療法が理解できる。	資料・参考書を使用し予習復習を行う
	9/5	定期試験		
15	9/9	講義	総括	講義の復習を行う事
準備学習 時間外学習			・予習と復習:教材と配布資料を活用すること。 ・同学年に履修する運動療法学実習の基礎となる知識であり、運動実践における注意点を特によく理解するように努めること。	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			Crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学 MEDICAL VIEW	

科目名 (英)	運動療法学実習Ⅱ (Practice of Movement TherapyⅡ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	佐藤広人
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義・実 習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分	後期 月曜1.2限
教員の略歴	理学療法士。急性期病棟、整形外科クリニック等での臨床経験あり。養成校の学内実習指導を外部講師として担当。						
学習内容	疾患別に病態と症状を理解し、運動療法の概略を理解することが必要である。 解剖学・生理学・運動学、運動療法学Ⅱで学んだ知識をもとに、基本的な運動療法に加え疾患別の運動療法の概略を理解する。						
到達目標	運動療法の対象となる疾患について、病態と症状を理解できる。 対象となる疾患について、運動療法実施の主目的と注意点について理解できる。						
評価方法 (基準)	筆記試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/30	講義・実習	関節可動域制限に対する運動療法について説明できる	資料・参考書を使用し予習復習を行う
2	9/30	講義・実習	関節可動域制限に対する運動療法について実践できる	資料・参考書を使用し予習復習を行う
3	10/21	講義・実習	筋力低下に対する運動療法について説明できる	資料・参考書を使用し予習復習を行う
4	10/21	講義・実習	筋力低下に対する運動療法について実践できる	資料・参考書を使用し予習復習を行う
5	10/28	講義・実習	持久力低下に対する運動療法について説明できる	資料・参考書を使用し予習復習を行う
6	10/28	講義・実習	持久力低下に対する運動療法について実践できる	資料・参考書を使用し予習復習を行う
7	11/11	講義・実習	中枢神経性運動麻痺に対する運動療法について説明できる	資料・参考書を使用し予習復習を行う
8	11/11	講義・実習	中枢神経性運動麻痺に対する運動療法について実践できる	資料・参考書を使用し予習復習を行う
9	11/18	講義・実習	末梢神経性運動麻痺に対する運動療法について説明できる	資料・参考書を使用し予習復習を行う
10	11/18	講義・実習	末梢神経性運動麻痺に対する運動療法について実践できる	資料・参考書を使用し予習復習を行う
11	11/25	講義・実習	感覚障害に対する運動療法について説明できる	資料・参考書を使用し予習復習を行う
12	11/25	講義・実習	感覚障害に対する運動療法について実践できる	資料・参考書を使用し予習復習を行う
13	12/2	講義・実習	バランス障害に対する運動療法について説明できる	資料・参考書を使用し予習復習を行う
14	12/2	講義・実習	バランス障害に対する運動療法について実践できる	資料・参考書を使用し予習復習を行う
15	12/9	講義・実習	協調性運動障害に対する運動療法について理解できる	資料・参考書を使用し予習復習を行う
16	12/9	講義・実習	協調性運動障害に対する運動療法について実践できる	資料・参考書を使用し予習復習を行う
17	12/16	講義・実習	姿勢障害に対する運動療法について理解できる	資料・参考書を使用し予習復習を行う
18	12/16	講義・実習	姿勢障害に対する運動療法について実践できる	資料・参考書を使用し予習復習を行う
19	1/20	講義・実習	歩行障害に対する運動療法について理解できる	資料・参考書を使用し予習復習を行う
20	1/20	講義・実習	歩行障害に対する運動療法について実践できる	資料・参考書を使用し予習復習を行う
21	1/27	講義・実習	高次脳機能障害に対する運動療法について理解できる	資料・参考書を使用し予習復習を行う
22	1/27	講義・実習	高次脳機能障害に対する運動療法について実践できる	資料・参考書を使用し予習復習を行う
23	2/3	講義・実習	総復習、各病態に対する運動療法について理解を深めることができる	資料・参考書を使用し予習復習を行う
	2/7	定期試験		
準備学習 時間外学習			周囲の人たちに授業内で実施した、運動療法を実施してみる。身体に触れる機会をもつこと。	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版(金原出版)	

科目名 (英)	物理療法学 (Physical Agents)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	古川雅一
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期 水曜1,2限
教員の略歴	理学療法士。修士(医療福祉学)。病院勤務、理学療法士養成校教員(兵庫県)、JICA青年海外協力隊(キルギス派遣)を経験。						
学習内容	理学療法士法及び作業療法士法の中で物理的刺激を加えることが理学療法の手段の一つとして記載されている。本授業は各物理療法の特徴や実施方法に加え物理療法が適応となる炎症や疼痛、関節可動域制限のメカニズムと物理刺激を加えた際の生理学的変化などについて学ぶ。						
到達目標	物理療法の種類が理解できる。物理療法が適応となることの多い炎症・疼痛・関節可動域制限等の症状において物理刺激を加えた際の生理学的変化が理解できる。各物理療法の特徴や実施手順、禁忌事項等を理解できる。						
評価方法 (基準)	筆記試験:100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/3	講義	物理療法の概要とリスク管理が説明できる	指定教科書の予読、課題作成
2	4/3	講義	物理療法が適応となる炎症について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
3	4/8	講義	物理療法が適応となる疼痛について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
4	4/8	講義	物理療法が適応となるROM制限について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
5	4/8	講義	温熱について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
6	4/10	講義	温熱療法の特徴と実施方法について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
7	4/10	講義	電磁波について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
8	4/15	講義	超短波療法・極超短波療法について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
9	4/15	講義	光線療法の特徴と実施方法について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
10	4/22	講義	超音波療法の特徴と実施方法について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
11	4/22	講義	電気刺激について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
12	5/8	講義	電気刺激療法について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
13	5/8	講義	寒冷療法・水治療法について説明できる	指定教科書の予読、課題作成
14	5/15	講義	牽引療法・圧迫療法・振動刺激療法を説明できる	指定教科書の予読、課題作成
15	5/15	講義	総復習・症例に対する物理療法の導入が説明できる	全範囲の復習を行う
	5/27	本試験		
準備学習 時間外学習			指定教科書の予読、課題作成	
【使用教科書・教材・参考書】 □			使用教科書:PT・OTビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法 第2版(羊土社) 参考書:物理療法学 改定第2版(金原出版)、機能障害科学入門(神陵文庫)、理学療法学テ	

科目名 (英)	物理療法学実習 (Practice of Physical Agents)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	古川雅一
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義 実習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分	前期
						曜日・時間	水曜3,5限
教員の略歴	理学療法士。修士(医療福祉学)。病院勤務、理学療法士養成校教員(兵庫県)、JICA青年海外協力隊(キルギス派遣)を経験。						
学習内容	物理療法学で学んだ知識を基に、それぞれの物理療法機器の取り扱い方法を学びリスク管理を行いながら実際に使用する。						
到達目標	適応・リスク管理を把握しながら物理療法の機器の使用を経験する						
評価方法 (基準)	試験(80%)、その他課題(20%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5/29	講義	物理療法の適応となる疾患を理解する①	指定教科書該当ページの予読
2	5/29	講義	物理療法の適応となる疾患を理解する②	指定教科書該当ページの予読
3	6/5	講義	物理療法の適応となる疾患を理解する③	指定教科書該当ページの予読
4	6/5	講義	物理刺激の人体への作用を理解する①	指定教科書該当ページの予読
5	6/12	講義	物理刺激の人体への作用を理解する②	指定教科書該当ページの予読
6	6/12	講義	物理刺激の人体への作用を理解する③	指定教科書該当ページの予読
7	6/19	講義	ホットパックの実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
8	6/19	講義	パラフィン浴の実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
9	6/26	講義	寒冷療法(クリッカー)の実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
10	6/26	講義	水治療法の実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
11	7/3	講義	赤外線療法の実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
12	7/3	講義	極超短波療法の実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
13	7/10	講義	超音波療法の実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
14	7/10	講義	電気刺激療法の実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
15	7/17	講義	牽引療法の実施手順を説明できる	指定教科書該当ページの予読
16	7/17	実習	ホットパックを実施できる	指定教科書該当ページの予読
17	7/22	実習	パラフィン浴を実施できる	指定教科書該当ページの予読
18	7/22	実習	寒冷療法(クリッカー)を実施できる	指定教科書該当ページの予読
19	7/24	実習	赤外線療法を実施できる	指定教科書該当ページの予読
20	7/29	実習	極超短波療法を実施できる	指定教科書該当ページの予読
21	7/29	実習	超音波療法を実施できる	指定教科書該当ページの予読
22	7/31	実習	電気刺激療法を実施できる	指定教科書該当ページの予読
23	7/31	実習	牽引療法を実施できる	指定教科書該当ページの予読
	7/31	本試験		
準備学習 時間外学習			指定教科書の予読、課題作成	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			使用教科書:PT・OTヒジエアルテキスト エビデンスから身につける物理療法 第2版(羊土社) 参考書:物理療法学 改定第2版(金原出版)、機能障害科学入門(神陵文庫)、理学療法学テキストⅣ物理療法 第2版(神陵文庫)	

科目名 (英)	日常生活活動学 (Activities of Daily Living)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	鈴木志歩
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期 金曜 3,4限
教員の略歴	理学療法士。老健・デイサービスでのリハビリテーション、地域での健康増進活動を経験。						
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活活動についてその概念と成り立ちを理解し理学療法における位置づけを学ぶ。 日常生活活動の概要を学び全ての科目と関連があることを理解する。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活活動の定義と概念を説明できるようになる。 日常生活活動の各行為を分類し普遍的に評価できるようになる。 						
評価方法 (基準)	筆記試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	8/30	講義	日常生活活動の定義が述べられる	授業内容の予習、復習
2	8/30	講義	日常生活活動の概念が説明できる	授業内容の予習、復習
3	9/6	講義	支援機器を使用意図を理解できる	授業内容の予習、復習
4	9/6	講義	支援機器の使用、名称を理解できる	授業内容の予習、復習
5	9/13	講義	ADL評価について説明ができる	授業内容の予習、復習
6	9/13	講義	ADL評価についてBIやFIMを使用し評価できる	授業内容の予習、復習
7	9/20	講義	生活環境の概念を説明できる	授業内容の予習、復習
8	9/20	講義	生活環境における障害を知ることができる	授業内容の予習、復習
9	9/27	講義	生活環境の設定を理解することができる	授業内容の予習、復習
10	9/27	講義	生活環境の評価を行うことができる	授業内容の予習、復習
11	10/25	講義	各疾患に対してのADL指導を学ぶことができる	授業内容の予習、復習
12	10/25	講義	各疾患に対してのADL指導を学ぶことができる	授業内容の予習、復習
13	11/1	講義	各疾患に対してのADL指導を行うことができる	授業内容の予習、復習
14	11/1	講義	各疾患に対してのADL指導を行うことができる	授業内容の予習、復習
	11/8	定期試験	筆記試験	
15	11/8	講義	定期試験の解説	試験内容の復習
準備学習 時間外学習			教科書を使用しての予習。	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			日常生活活動学・生活環境学 第5版(医学書院)	

科目名 (英)	日常生活活動学実習 (Activities of daily living science training)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	古川雅一
		授業 形態	実習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜 3,4限
学科・コース	理学療法科 I 部						
教員の略歴	理学療法士。修士(医療福祉学)。病院勤務、理学療法士養成校教員(兵庫県)、JICA青年海外協力隊(キルギス派遣)を経験。						
学習内容	演習を通じて日常生活動作の動作の特徴や介助方法などを学ぶ。						
到達目標	起居動作を介助で安全に実施できるようになる。 障害の特徴を押さえた動作を体験した上で、疾患別にADL指導のポイントにそって実施できるようになる。						
評価方法 (基準)	レポート100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/30	講義・実技	介助の基本原則を説明できる。	講義の復習を行う
2	9/30	実技	起居動作の一人介助を健常者で実施できる。	講義の復習を行う
3	10/21	実技	移乗動作の一人介助(車椅子上で姿勢を整えるまで)を健常者で実施できる。	講義の復習を行う
4	10/21	実技	移乗動作の二人介助を健常者で実施できる。	講義の復習を行う
5	10/28	実技	三人介助でリフティングを実施できる。	講義の復習を行う
6	10/28	実技	食事介助を健常者で実施できる。	ゼリーとスプーン、飲み物とコップ、タオルを持参
7	11/11	講義・実技	身体変化における動作への影響を説明できる。	講義の復習を行う
8	11/11	実技	身体変化における動作への影響を健常者で調べることができる。	講義の復習を行う
9	11/18	講義・実技	RAの疾患特異性を理解し、関節保護・痛み・生活リズムのADL指導を説明できる。	RAについて調べる
10	11/18	実技	関節保護を意識したADL指導を実施できる。	講義の復習を行う
11	11/25	講義・実技	変形性股関節症の疾患の特異性を理解し、時期に応じた注意点を説明できる。	変形性股関節症・膝関節症について調べる
12	11/25	実技	股脱臼予防をした動作を健常者で実施できる。	講義の復習を行う
13	12/2	講義・実技	切断の質量変化、義足の限界を理解し、拘縮予防や動き方の注意点を説明できる。	糖尿病からの切断について調べる
14	12/2	実技	義足での安全な動き方を指導できる。	講義の復習を行う
15	12/9	講義・実技	脊髄損傷の損傷レベルの違いによる可能な動きや動作を説明できる。	筋と感覚の髄節レベルについて調べる
16	12/9	実技	レベルごとの動きを実施できる。	講義の復習を行う
17	12/16	講義・実技	片麻痺の特徴を理解し、体性感覚の必要性を説明できる。	脳の部位とその機能について調べる
18	12/16	実技	片麻痺の安全性を重視したADLの仕方を実施できる。	講義の復習を行う
19	1/20	講義・実技	脳性麻痺タイプ別の特徴的な動きを説明できる。	講義の復習を行う
20	1/20	実技	発達における介入の仕方を説明できる。	基本動作の獲得時期について調べる
21	1/27	講義・実技	パーキンソンの特徴的な動きを理解し、転倒対策を説明できる。	パーキンソンの病態を調べる
22	1/27	実技	転倒対策を考慮した立位・歩行、立ち上がりを実施できる。	講義の復習を行う
23	2/3	講義・演習	FIMの評価を実践できる。問題点でのADLの位置付けを説明できる。	講義の復習を行う
準備学習 時間外学習			教科書を持参し読むこと	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			1-8回は介助法テキスト配布。9-23回は標準理学療法学「日常生活活動学・生活環境学」(医学書院)、ADL実習テキスト配布。	

科目名 (英)	義肢装具学 (Prosthetics and Orthotics)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	梶原一将
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜日 3・4限
教員の略歴	理学療法士、ピラティスやスポーツ系の資格保有。急性期・包括ケア・呼吸器外来・訪問リハビリテーションを経験。						
学習内容	基本的な義肢・装具の構造と機能、各疾患への適応について説明できる						
到達目標	①義肢・装具について理解する ②杖・車椅子の構造や評価点を理解する ③各疾患の知識、適応装具など理解する						
評価方法 (基準)	定期試験(筆記): 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5/20	講義	義肢学総論を理解する	講義の復習を行う
2	5/20	講義	下肢切断の理学療法評価	講義の復習を行う
3	5/27	講義	大腿義足の種類と適合判定を理解する	講義の復習を行う
4	5/27	講義	膝義足の種類と適合判定を理解する	講義の復習を行う
5	5/31	講義	下腿義足の種類と適合判定を理解する	講義の復習を行う
6	6/3	講義	サイム義足・股義足の種類と適合判定を理解する	講義の復習を行う
7	6/3	講義	足部部分義足の種類と適合判定 継手の種類と設定調整を理解する	講義の復習を行う
8	6/14	講義	装具学総論を理解する	講義の復習を行う
9	6/17	講義	脳卒中片麻痺の装具を理解する①	講義の復習を行う
10	6/17	講義	脳卒中片麻痺の装具を理解する②	講義の復習を行う
11	6/24	講義	対麻痺の装具を理解する①	講義の復習を行う
12	6/24	講義	対麻痺の装具を理解する②	講義の復習を行う
13	7/1	講義	整形外科的装具を理解する	講義の復習を行う
14	7/1	講義	末梢神経障害の装具を理解する	講義の復習を行う
15	7/3	講義	講義のまとめ	講義の復習を行う
	7/9	試験	筆記試験	
準備学習 時間外学習			授業の復習	
【使用教科書・教材・参考書】 □			PT・OTビジュアルテキスト義肢・装具学異常とその対応がわかる動画付き(羊土社) その他備品の義肢装具の資料使用	

科目名 (英)	理学療法技術論Ⅰ(整形外科疾患) (Orthopedic Disease)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	茂呂行哲
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義 実習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 金曜・3,4 限
教員の略歴	理学療法士(認定:運動器)。老健、通所・訪問リハビリテーション、整形外科の外来リハビリテーションを経験。						
学習内容	整形外科疾患に対する臨床推論過程の例を示し、理学療法の考え方、捉え方について学ぶ。「解剖学」「運動学」「整形外科学」で学んだことを踏まえ、運動器疾患に対する「評価」を中心としたアプローチを身につける。講義の半分ほどは実技形式となるため、PTとしての振る舞いを学ぶ。						
到達目標	整形外科疾患の病態、各疾患に対する理学療法の考え方、捉え方を理解し、適切な対応を実施することができる。 臨床における整形外科疾患に対するイメージを身につけることができる。						
評価方法 (基準)	筆記試験 ※状況に応じ実技試験も実施する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/5	講義・演習	オリエンテーション	組織再生・修復についての復習
2	4/5	講義・演習	組織再生・修復の過程を理解できる。	組織再生・修復についての復習
3	4/12	講義・演習	骨折と脱臼の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	骨折と脱臼についての復習
4	4/12	講義・演習	骨折と脱臼の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	骨折と脱臼についての復習
5	4/23	講義・演習	骨折と脱臼の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	骨折と脱臼についての復習
6	4/23	講義・演習	骨折と脱臼、変形性股・膝関節症の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	変形性関節症についての復習
7	4/26	講義・演習	変形性股・膝関節症の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	変形性関節症についての復習
8	4/26	講義・演習	変形性股・膝関節症の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	変形性関節症についての復習
9	5/10	講義・演習	人工関節の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	人工関節についての復習
10	5/10	講義・演習	人工関節の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	人工関節についての復習
11	5/17	講義・演習	関節リウマチの病態、評価、治療を理解し、実施できる。	関節リウマチについての復習
12	5/17	講義・演習	関節リウマチの病態、評価、治療を理解し、実施できる。	関節リウマチについての復習
13	5/24	講義・演習	末梢神経損傷の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	末梢神経損傷についての復習
14	5/24	講義・演習	末梢神経損傷の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	末梢神経損傷についての復習
15	5/31	講義・演習	頸部疾患の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	頸部疾患についての復習
16	5/31	講義・演習	頸部疾患の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	頸部疾患についての復習
17	6/14	講義・演習	腰部疾患の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	腰部疾患についての復習
18	6/14	講義・演習	腰部疾患の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	腰部疾患についての復習
19	6/21	講義・演習	肩関節周囲炎の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	肩関節疾患についての復習
20	6/21	講義・演習	肩関節周囲炎の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	肩関節疾患についての復習
21	6/28	講義・演習	腱板断裂、肩関節脱臼の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	肩関節疾患についての復習
22	6/28	講義・演習	腱板断裂、肩関節脱臼の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	肩関節疾患についての復習
23	7/5	講義・演習	膝関節靭帯損傷の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	膝関節疾患についての復習
24	7/5	講義・演習	膝関節靭帯損傷の病態、評価、治療を理解し、実施できる。	膝関節疾患についての復習
25	7/12	講義・演習	捻挫と肉離れの病態、評価、治療を理解し、実施できる。	足関節靭帯損傷、筋損傷についての復習
26	7/12	講義・演習	捻挫と肉離れの病態、評価、治療を理解し、実施できる。	足関節靭帯損傷、筋損傷についての復習
27	7/19	講義・演習	学習した知識の総復習を行う。	捻挫と肉離れについての復習
28	7/19	講義・演習	学習した知識の総復習を行う。	捻挫と肉離れについての復習
29	7/26	講義・演習	学習した実技の総復習を行う。	これまでの総復習
30	7/26	講義・演習	カリキュラムの総まとめを行う。	これまでの総復習
	8/1	本試験		
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	理学療法技術論Ⅱ (中枢神経疾患) (Central Nerve Disease)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	塚野智史
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	通年 曜日・時限 火曜1,2限
教員の略歴	理学療法士(認定:学校教育)。急性期・回復期・通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションを経験。						
学習内容	ヒトという動物のなかで最も特徴的な器官である「脳」を対象としているため難解に思われる中枢PTであるが、中枢性運動障害を改善するための根拠や、基本的な概念、必要な関連知識を交えて理解することで、理学療法評価の意義や目的を学生自身が考えることが可能となるような講義である。						
到達目標	中枢神経の基礎を理解し、中枢神経疾患に用いる理学療法評価の意義を説明できるようになる。 脳血管疾患の概要を理解し、説明できるようになる。						
評価方法 (基準)	1) 定期試験100%(中間試験50%を含む。すべて筆記試験とする。試験範囲はこの科目の基礎となる神経系の解剖・生理も含まれる。)。診断的・形成的評価を目的とした小テストを行うことがあるが評価の対象としない。また、出席状況、授業内態度についても評価の対象としない。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	6/4	講義	中枢神経系の構造	講義の復習を行う事
2	6/4	講義	中枢神経系の構造、脳血管の解剖	講義の復習を行う事
3	6/11	講義	脳卒中の病態(脳出血、SAH)	講義の復習を行う事
4	6/11	講義	脳卒中の病態(脳出血、SAH)	講義の復習を行う事
5	6/18	講義	脳卒中の病態(脳梗塞)	講義の復習を行う事
6	6/18	講義	脳卒中の病態(脳梗塞)	講義の復習を行う事
7	6/25	講義	脳卒中のリスク管理(共通)	講義の復習を行う事
8	6/25	講義	脳卒中のリスク管理(脳出血、水頭症)	講義の復習を行う事
9	7/2	講義	脳卒中のリスク管理(脳梗塞)	講義の復習を行う事
10	7/2	講義	脳卒中の障害構造と評価	講義の復習を行う事
11	7/9	講義	脳卒中の障害構造と評価	講義の復習を行う事
12	7/9	講義	意識障害	講義の復習を行う事
13	7/16	講義	運動麻痺	講義の復習を行う事
14	7/16	講義	運動麻痺	講義の復習を行う事
	7/16	中間試験		
15	7/30	講義	感覚障害	講義の復習を行う事
16	7/30	講義	感覚障害	講義の復習を行う事
17	9/3	講義	試験解説	講義の復習を行う事
18	9/3	講義	試験解説	講義の復習を行う事
19	9/10	講義	異常筋緊張、伸張反射	講義の復習を行う事
20	9/10	講義	異常筋緊張、伸張反射	講義の復習を行う事
21	9/17	講義	運動失調	講義の復習を行う事
22	9/17	講義	運動失調	講義の復習を行う事
23	10/1	講義	姿勢バランス障害	講義の復習を行う事
24	10/1	講義	姿勢バランス障害	講義の復習を行う事
25	10/22	講義	起居動作障害	講義の復習を行う事
26	10/22	講義	起居動作障害	講義の復習を行う事
27	10/29	講義	歩行障害	講義の復習を行う事
28	10/29	講義	歩行障害	講義の復習を行う事
29	11/5	講義	試験解説	講義の復習を行う事
	11/6	本試験		
30	11/12	講義	試験解説	講義の復習を行う事
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/> 医療情報科学研究所eds.病気が見える Vol17.MEDIC MEDIA.2017 森岡周・阿部浩明eds.標準理学療法学 神経理学療法学 第3版.2022.医学書院 野村峻eds.標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版.2020.医学書院				

科目名 (英)	理学療法技術論Ⅳ (小児期疾患) (Pediatric Disease)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	稲葉夏海
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期 月曜・2限
教員の略歴	理学療法士。回復期から生活期のリハビリテーションを経験。						
学習内容	小児期疾患に対する理学療法評価・治療を学習する。						
到達目標	発達における小児の特性、各疾患の病態(禁忌や予後も含む)を理解できるようになる。 ①発達年齢を判定できる。 ②CPのタイプを判定できる。 ③各疾患の特徴から、評価の目的を明確にできる。 ④小児分野の国家試験問題を解くことができる。						
評価方法 (基準)	本試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/8	講義	小児疾患の特徴を理解する。	人間発達学の復習
2	4/15	講義	正常発達を月齢ごとに理解する。原始反射、姿勢反射と運動の発達の関係を言える	人間発達学の復習
3	4/22	講義	解剖学的構造や数値を理解し、小児期疾患のリスク確認ができる。NICUでの理学療法について	人間発達学の復習
4	5/13	講義	発達の評価により、発達年齢を判定できる。運動学習の原則を理解できる。	人間発達学の復習
5	5/20	講義	小児期の関節運動や姿勢を理解できる。小児期の骨格と成人の骨格の比較ができる。	解剖学・運動学の復習
6	5/27	講義	整形外科疾患の病態を理解する。整形外科疾患の評価と目的を説明できる。	小児期の整形外科疾患の予習・復習
7	6/3	講義	脳性麻痺のタイプの違いを理解する。タイプごとの病態と特徴を説明できる。	脳性麻痺の予習・復習
8	6/17	講義	脳性麻痺(痙直型)の評価と目的を理解する。	脳性麻痺の予習・復習
9	6/24	講義	脳性麻痺(その他)の評価と目的を理解する。	脳性麻痺の予習・復習
10	7/1	講義	脳性麻痺の理学療法を考える。	脳性麻痺の予習・復習
11	7/8	講義	二分脊椎の病態を理解する。また、評価やその目的を説明できる。(1)	二分脊椎の復習
12	7/22	講義	二分脊椎の病態を理解する。また、評価やその目的を説明できる。(2)	二分脊椎の復習
13	8/26	講義	筋ジストロフィーの評価とその目的を説明できる。(1)	筋ジストロフィーの復習
14	9/2	講義	発達障害の分類を言える。低緊張の特徴に応じた治療を考える	発達障害の復習
15	9/9	講義	総復習を行い小児疾患に対する理学療法評価・治療について理解を深めることができる	小児疾患に対する理学療法評価・治療の復習
	9/12	本試験		
準備学習 時間外学習			発達過程や成人の解剖学・運動学を復習し、理解しておく。	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			配布資料/理学療法学テキスト 小児理学療法学/人間発達学/小児科学/運動学/解剖学	

科目名 (英)	地域理学療法学 (Community-based Physical Therapy)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	鈴木志歩
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 金曜2限
教員の略歴	理学療法士。老健・デイサービスでのリハビリテーション、地域での健康増進活動を経験。						
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険法について、政治的背景を意識しながら学ぶ。 ・地域における理学療法士の役割について学ぶ。 ・在宅生活を支援していく上で必要な知識を学ぶ。 						
到達目標	<p>地域理学療法学の概念・背景・関連法規について理解し、説明できる。 地域で生活する高齢者や障がい者のリハビリ提供システムについて理解し説明できる。 地域支援におけるケアマネジメント機能を理解し説明できる。 地域包括ケアシステムについて理解し説明できる。</p>						
評価方法 (基準)	筆記試験:100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/5	講義	地域理学療法とはなにか説明できる	授業内容の予習、復習
2	4/12	講義	地域における理学療法士の役割を説明できる	授業内容の予習、復習
3	4/19	講義	多職種連携の意図を説明できる	授業内容の予習、復習
4	4/26	講義	介護保険について説明できる	授業内容の予習、復習
5	5/10	講義	社会的背景を理解し、地域で求められている関わり方を説明できる	授業内容の予習、復習
6	5/24	講義	地域包括ケアシステムについて説明できる	授業内容の予習、復習
7	5/24	講義	認知症について説明できる	授業内容の予習、復習
8	5/31	講義	介護予防について説明できる	授業内容の予習、復習
9	6/14	講義	地域における対象者を説明できる	授業内容の予習、復習
10	6/21	講義	対象者に関わる制度について説明できる	授業内容の予習、復習
11	6/28	講義	対象者のADLの拡大について説明できる	授業内容の予習、復習
12	7/5	講義	対象者のQOLの向上について説明できる	授業内容の予習、復習
13	7/12	講義	行動変容について説明できる	授業内容の予習、復習
14	7/19	講義	社会参加の促進について説明できる	授業内容の予習、復習
15	7/26	講義	講義のまとめ	
	8/1	本試験		試験の復習
準備学習 時間外学習			教科書をもとに予習、復習。小テストを活用し復習。	
【使用教科書・教材・参考書】 □			Crosslink理学療法学テキスト 地域理学療法学	

科目名 (英)	地域理学療法実習 (Practice of Community PT)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	塚野 智史
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	演習 実習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分	通年 曜日・時限 水曜1,2限
教員の略歴	理学療法士(認定:学校教育)。急性期・回復期・通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションを経験。						
学習内容	地域の健康運動教室に参加して、理学療法評価学 I・II で学んだ知識をもとに、地域高齢者に対して検査測定や結果の解釈・フィードバック、運動プログラムの立案・実践まで行い理解を深める。						
到達目標	①高齢者や施設の方に対する接遇を学ぶ ②高齢者に対して安全に検査測定を行う事ができる ③高齢者が出来る運動プログラムを立案し、実践する事ができる						
評価方法 (基準)	①出席(20%) 1回欠席につき2点減点とする ②実技試験(50%) 試験範囲 1年次に学習したROM-T、MMTから出題 採点基準 OSCE2の採点基準に準ずる ③レポート(30%) テーマ「この講義を通じて学んだ事と感想」 採点基準 380字～400字 30点 350字～380字 20点 320字～350字 10点 320字未満 0点 ※担当教員が本講義に関係がないと判断した文章については文字数に含めない 手書きで作成し誤字脱字、担当教員が判読できない文字は1箇所につき1点減点とする						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/3	演習	検査測定の実技練習	検査測定の練習をする事
2	4/3	演習	検査測定の実技練習	検査測定の練習をする事
3	4/10	演習	運動プログラム立案・練習	検査測定の練習をする事
4	4/10	演習	運動プログラム立案・練習	検査測定の練習をする事
5	4/24	学外活動	亀岡運動教室 検査測定	検査測定の練習をする事
6	5/8	演習	運動プログラム立案・練習	運動プログラムの練習をする事
7	5/15	演習	運動プログラム立案・練習	運動プログラムの練習をする事
8	5/22	学外活動	亀岡運動教室 運動プログラム実施	運動プログラムの練習をする事
9	6/5	演習	運動プログラム立案・練習	運動プログラムの練習をする事
10	6/12	学外活動	亀岡運動教室 運動プログラム実施	運動プログラムの練習をする事
11	6/19	演習	運動プログラム立案・練習	運動プログラムの練習をする事
12	6/26	学外活動	亀岡運動教室 運動プログラム実施	運動プログラムの練習をする事
13	7/17	演習	運動プログラム立案・練習	運動プログラムの練習をする事
14	7/24	学外活動	亀岡運動教室 運動プログラム実施	運動プログラムの練習をする事
15	8/27	学外活動	フレイル予防教室	運動プログラムの練習をする事
16	8/28	学外活動	亀岡運動教室 運動プログラム実施	運動プログラムの練習をする事
17	9/4	演習	運動プログラム立案・練習	運動プログラムの練習をする事
18	9/18	学外活動	亀岡運動教室 運動プログラム実施	運動プログラムの練習をする事
19	9/25	演習	運動プログラム立案・練習	運動プログラムの練習をする事
20	10/23	演習	運動プログラム立案・練習	運動プログラムの練習をする事
21	11/13	学外活動	駅東いきいき健康教室	運動プログラムの練習をする事
22	11/26	学外活動	フレイル予防教室	運動プログラムの練習をする事
23	12/11	学外活動	駅東いきいき健康教室	運動プログラムの練習をする事
	12/11	試験	レポート	
準備学習 時間外学習			検査測定、運動プログラムに関して各自事前練習を行う事	
【使用教科書・教材・参考書】			理学療法評価学 改訂第6版 金原出版株式会社	

科目名 (英)	国家試験演習Ⅱ (The prac of Qualifying Exam Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	塚野智史
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期 火曜3・4 曜日・時限
教員の略歴	理学療法士(認定:学校教育)。急性期・回復期・通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションを経験。						
学習内容	理学療法士に必要な基礎知識(解剖学、生理学、運動学等)を整理し、説明することができる。						
到達目標	①解剖生理運動学分野の基礎学力を向上できる ②学習方法を確立できる ③学習習慣を確立できる ④国家試験の過去10年分の問題(解剖学、生理学、運動学)について正答を答えられる						
評価方法 (基準)	筆記試験100% 試験範囲は国家試験過去10年分の問題(解剖学、生理学、運動学)から100問を出題する。1コマ目や途中で診断的、形成的評価を目的とした小テストを行うが、それらは評価に含めない。						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1	10/29	講義	解剖学の過去問を反復し傾向を把握し、正答を暗記することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
2	10/29	講義	解剖学の過去問を反復し傾向を把握し、正答を暗記することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
3	11/5	講義	解剖学の過去問を反復し傾向を把握し、正答を暗記することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
4	11/5	講義	解剖学の過去問を反復し傾向を把握し、正答を暗記することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
5	11/12	講義	解剖学の過去問を反復し傾向を把握し、正答を暗記することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
6	11/12	講義	生理学の過去問を反復し傾向を把握し、正答を暗記することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
7	12/3	講義	生理学の過去問を反復し傾向を把握し、正答を暗記することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
8	12/3	講義	生理学の過去問を反復し傾向を把握し、正答を暗記することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
9	12/10	講義	生理学の過去問を反復し傾向を把握し、正答を暗記することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
10	12/10	講義	生理学の過去問を反復し傾向を把握し、正答を暗記することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
11	12/17	講義	運動学の過去問を反復し傾向を把握し、正答を暗記することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
12	12/17	講義	運動学の過去問を反復し傾向を把握し、正答を暗記することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
13	1/21	講義	運動学の過去問を反復し傾向を把握し、正答を暗記することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
14	1/21	講義	運動学の過去問を反復し傾向を把握し、正答を暗記することができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。			
	2/7	本試験					
15	1/29		試験解説				
準備学習 時間外学習			対策ノート作成を通した、復習				
【使用教科書・教材・参考書】 □			国試の達人(運動解剖生理学編) 第29版				

科目名 (英)	PTスポーツ演習 I (PT Sports Practice I)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	今野良紀
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期
教員の略歴	理学療法士(認定:脳卒中)。回復期・介護保険領域のリハビリテーションを経験し、現在はスポーツ分野での活動も実施。						
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ動作に起因する外傷・傷害を説明することができる。 ・アスレチックリハビリテーションにおける予防的介入を理解できる。 ・スポーツ現場での応急処置について理解することができる。 						
到達目標	理学療法評価の知識を基に、アスリート・選手のスポーツ傷害予防について説明することができる。						
評価方法 (基準)	・出席点(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10/8	講義	総論①: 競技動作に関わる外傷・傷害の特徴を理解できる。	予習(割り振られた競技の調べ学習)
2	10/8	講義	総論②: 競技動作に関わる外傷・傷害の特徴を理解できる。	予習(割り振られた競技の調べ学習)
3	10/8	講義	各論①: 競技ごとの動作特性と発生しやすい外傷を説明できる。	予習(割り振られた競技の調べ学習)
4	10/8	講義	各論②: 競技ごとの動作特性と発生しやすい外傷を説明できる。	予習(割り振られた競技の調べ学習)
5	10/8	講義	各論③: 競技ごとの動作特性と発生しやすい外傷を説明できる。	予習(割り振られた競技の調べ学習)
6	10/9	講義	各論④: 競技ごとの動作特性と発生しやすい外傷を説明できる。	予習(割り振られた競技の調べ学習)
7	10/9	講義	各論⑤: 競技ごとの動作特性と発生しやすい外傷を説明できる。	予習(割り振られた競技の調べ学習)
8	10/9	講義	各論⑥: 競技ごとの動作特性と発生しやすい外傷を説明できる。	予習(割り振られた競技の調べ学習)
9	10/14	講義	スポーツ現場での応急処置について理解できる。 (頭頸部・脊柱①)	プレゼン準備(割り振られた競技)
10	10/14	演習	スポーツ現場での応急処置について説明できる。 (頭頸部・脊柱②)	プレゼン準備(割り振られた競技)
11	10/14	演習	スポーツ現場での応急処置について理解できる。 (上肢①)	プレゼン準備(割り振られた競技)
12	10/14	演習	スポーツ現場での応急処置について説明できる。 (上肢②)	プレゼン準備(割り振られた競技)
13	10/14	演習	スポーツ現場での応急処置について理解できる。 (下肢①)	プレゼン準備(割り振られた競技)
14	10/14	演習	スポーツ現場での応急処置について説明できる。 (下肢②)	プレゼン準備(割り振られた競技)
15	10/15	演習	授業内容の総復習	プレゼン準備(割り振られた競技)
準備学習 時間外学習			上記に示した準備学習課題を実施する。	
【使用教科書・教材・参考書】 □			【参考書】 スポーツ理学療法学 改訂第2版, MEDICAL VIEW スポーツ医学検定公式テキスト1級・2級・3級	

科目名 (英)	PTスポーツ演習Ⅱ (PT Sports PracticeⅡ)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	古川雅一
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義 実習	総時間 (単位)	30 (1単位)	開講区分	後期
教員の略歴	理学療法士。修士(医療福祉学)。病院勤務、理学療法士養成校教員(兵庫県)、JICA青年海外協力隊(キルギス派遣)を経験。						
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツパフォーマンス向上に必要な知識を理解できる。 ・スポーツ競技に関する知識を深め、アスリートへのリハビリテーション介入について、根拠のある説明ができる。 						
到達目標	理学療法治療の知識を基に、アスリート・選手パフォーマンス向上について説明することができる						
評価方法 (基準)	レポート100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10/10	講義	総論①:アスレチックリハビリテーションの介入手段について理解できる。	予習
2	10/10	講義	総論②:アスレチックリハビリテーションの介入手段について理解できる。	予習
3	10/10	講義	各論①:スポーツトレーニングの原理について説明できる。	予習
4	10/10	講義	各論②:スポーツトレーニングの原理について説明できる。	予習
5	10/11	講義	各論③:スポーツトレーニングの原理について説明できる。	予習
6	10/11	演習	アスレチックリハビリテーションの体験ができる。 (①疾患・部位別の可動性改善について)	予習
7	10/11	演習	アスレチックリハビリテーションの体験ができる。 (②疾患・部位別の可動性改善について)	予習
8	10/11	演習	アスレチックリハビリテーションの体験ができる。 (③疾患・部位別の可動性改善について)	予習
9	10/17	演習	アスレチックリハビリテーションの体験ができる。 (①疾患・部位別の筋力強化について)	予習
10	10/17	演習	アスレチックリハビリテーションの体験ができる。 (②疾患・部位別の筋力強化について)	予習
11	10/17	演習	アスレチックリハビリテーションの体験ができる。 (③疾患・部位別の筋力強化について)	予習
12	10/17	演習	アスレチックリハビリテーションの体験ができる。 (①各競技動作に準じたファンクショナルトレーニング)	予習
13	10/18	演習	アスレチックリハビリテーションの体験ができる。 (②各競技動作に準じたファンクショナルトレーニング)	予習
14	10/18	演習	アスレチックリハビリテーションの体験ができる。 (③各競技動作に準じたファンクショナルトレーニング)	予習
15	10/18	演習	授業内容の総復習	レポートの修正を含む、まとめ作業
準備学習 時間外学習			授業の復習	
【使用教科書・教材・参考書】 □			【参考書】 アスレチックリハビリテーションガイド 第2版 文光堂 スポーツ医学検定公式テキスト1級・2級・3級	

科目名 (英)	PTマネジメント演習 I (PT Management Practice I)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	塚野智史
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
教員の略歴	理学療法士(認定:学校教育)。急性期・回復期・通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションを経験。						
学習内容	まず日本の医療がどのように運営されているかマクロ的な視点で解説する。具体的には、医療保険をはじめとした日本の医療制度を開説する。その上で、個々の医療施設がどのように運営され、どのような問題に取り組んでいるか説明する。したがって、授業の到達目標は以下のものを想定している。						
到達目標	①日本の医療について具体的なイメージを持てる。 ②将来就業する可能性がある医療施設がどのように運営されているか理解できる。 ③現在、ミクロ・マクロ両面で医療にはどのような問題が起きているか理解できる。						
評価方法 (基準)	スライド発表:50% 出席状況:50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10/7	講義	高齢化が進む日本の状況を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
2	10/7	講義	社会医学の立場から日本の医療制度を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
3	10/8	講義	病院とはどのようなところなのか説明できる	講義の復習/発表資料の準備
4	10/8	講義	日本の医療保険制度の成り立ちと仕組みについて説明できる	講義の復習/発表資料の準備
5	10/9	講義	他国の制度と比較し、日本の制度の理解を深めることができる	講義の復習/発表資料の準備
6	10/9	講義	介護保険成立の歴史、保険制度の仕組みについて説明できる	講義の復習/発表資料の準備
7	10/10	講義	近年医療制度がどのように改革されてきたか説明できる	講義の復習/発表資料の準備
8	10/10	講義	医師不足、看護師不足について説明できる	講義の復習/発表資料の準備
9	10/11	講義	医療機関はどのようにしてお金を得ているのか説明できる	講義の復習/発表資料の準備
10	10/11	講義	実際の病院はどのような組織になっているのか説明できる	講義の復習/発表資料の準備
11	10/14	講義	実際の病院はどのような組織になっているのか説明できる	講義の復習/発表資料の準備
12	10/14	講義	医療機関で働く者はどのように管理されているか説明できる	講義の復習/発表資料の準備
13	10/15	講義	電子カルテの導入の影響や個人情報について説明できる	講義の復習/発表資料の準備
14	10/15	講義	医療の質をどのように上げるかの取り組み事例を紹介できる	講義の復習/発表資料の準備
15	10/16	講義	事故をどのように防いでいくのか、その取り組み事例を紹介できる	講義の復習/発表資料の準備
準備学習 時間外学習			講義の復習	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			適宜資料配布	

科目名 (英)	医学英語 (Medical English)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	今野良紀
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 3限
教員の略歴	理学療法士(認定:脳卒中)。回復期・介護保険領域のリハビリテーションを経験し、現在はスポーツ分野での活動も実施。						
学習内容	医学の英単語や略語を学習し、診療記録(カルテ)や英語論文を理解するための基礎能力を養うことを目的とする。 また、文献抄読会の一連のプロセス(文献検索～発表)を体験する。						
到達目標	①カルテ理解に必要な医学英単語(略語中心)を理解できる。 ②文献検索を実施し、英語論文の要約(レジュメ)を作成できる。 ③リハビリテーションに関する英語論文を読み、得られた内容をもとにグループディスカッションに参加できる。						
評価方法 (基準)	筆記試験:100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/5	講義	オリエンテーション(シラバス説明)	カリキュラム・シラバスを確認する。
2	4/12	講義	基礎学習:国語表現の基礎を復習する。	レポートの体裁・表現について復習する。
3	4/19	講義	基礎学習:国語表現の基礎を復習する。	公的文書や医療記録の表現を確認する。
4	4/26	講義	①カルテ理解に必要な医学英単語を学習する。	授業資料を予習・復習する。
5	5/10	講義	②カルテ理解に必要な医学英単語を学習する。	授業資料を予習・復習する。
6	5/17	講義	③カルテ理解に必要な医学英単語を学習する。	授業資料を予習・復習する。
7	5/24	講義	④カルテ理解に必要な医学英単語を学習する。	授業資料を予習・復習する。
8	5/31	講義	⑤カルテ理解に必要な医学英単語を学習する。	授業資料を予習・復習する。
9	6/14	講義	ワーク①:論文検索をする。(翻訳・校閲サイトや文献管理ソフトの活用方法)	授業資料を予習・復習する。
10	6/21	講義	ワーク②:論文検索をする。(論文サイトの活用)	授業資料を予習・復習する。
11	6/28	講義	①英語論文の読み方を学習する。	授業資料を予習・復習する。
12	7/5	講義	②英語論文の読み方を学習する。	授業資料を予習・復習する。
13	7/12	講義	ワーク:英語論文の要約(レジュメ)を作成する。	グループディスカッション用の資料を作成
14	7/19	講義	ワーク:英語論文の要約(レジュメ)を推敲・修正する。	グループディスカッション用の資料を作成
	7/26	本試験	医学英単語(略語中心)	授業資料を予習・復習する。
15	8/2	講義・演習	グループディスカッション	グループディスカッションに向けて資料を準備する
準備学習 時間外学習			講義中に出される課題作成	
【使用教科書・教材・参考書】 □			リハに役立つ論文の読み方・とらえ方(羊土社) PT・OT学生の文章力を育てる!レポートの書き方(金芳堂)	

科目名 (英)	内科学 (Internal Medicine)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	小川 恵子
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分 曜日・時間	前期 金曜・3限
教員の略歴	医師。現在、みちのく記念病院勤務						
学習内容	①内科学の知識は理学療法を行う上で必要不可欠なものである。この講義では総論として、主要な症候の病態生理について理解し、各論として、各疾患特有の疫学、病態生理、検査、治療についての知識を習得する。 ② 内科学を理解する上では、解剖学、生理学、病理学等と関連が深い。 ③学生には予習復習を行い、各器官の基本的な解剖・生理と各疾患の症状や病態について説明できるようにすることを願う。						
到達目標	患者の全身状態を把握するために内科的基礎的知識を身につけ、説明できる						
評価方法 (基準)	定期試験:100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/5	講義	内科学の概念と診断の進め方を説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
2	4/12	講義	臨床検査とデータの解釈に関して理解し、説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
3	4/19	講義	循環器系の解剖・生理と循環器疾患の主要な徴候について説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
4	4/26	講義	高血圧、虚血性心疾患、弁膜症、心不全の病態を理解し、説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
5	5/10	講義	肺の解剖・生理と呼吸器疾患の主な症候について説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
6	5/17	講義	呼吸器疾患の検査所見(画像検査、生理学的検査、喀痰検査、等)を説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
7	5/24	講義	感染性肺疾患、慢性閉塞性肺疾患、気管支ぜんそく、拘束性肺疾患、肺腫瘍の病態を理解し、説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
8	5/31	講義	消化管の解剖・生理について説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
9	6/14	講義	消化管疾患の徴候とその病態生理、各検査法を理解し、説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
10	6/21	講義	口腔疾患、食道疾患、胃疾患、小腸・大腸疾患について説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
11	6/28	講義	肝臓、胆のう・胆管、膵臓の解剖・生理を説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
12	7/5	講義	急性ウイルス性肝炎、劇症肝炎、慢性肝炎、肝硬変の病態・症状について説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
13	7/12	講義	腹膜の解剖・生理、急性・慢性腹膜炎について説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
14	7/19	講義	前期に行った講義の要点を理解し、説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
	7/24	試験	筆記	
15	7/26	講義	解説:前期試験の正答を答えられる	その日のうちに講義の復習を行う
準備学習 時間外学習			不明個所の調べもの学習	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			標準運理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学(医学書院)	

科目名 (英)	救急医学 (Emergency Medicine)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	小川 恵子
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	後期 金曜・2限
教員の略歴	医師。現在、みちのく記念病院勤務						
学習内容	各臓器の疾患を理解し、鑑別診断を出来るようになる 緊急の症状が出現した時、脳か、循環器科か、呼吸器科か、低血糖症状か 鑑別できるようになる						
到達目標	医師不在の施設に勤務する人が増えているため、 緊急時のバイタルサインを正確に把握し、症状を正確に救急隊へ連絡し、搬送依頼を確実に出来るよ うになる。						
評価方法 (基準)	筆記試験(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	8/2	講義	基礎的な専門用語を理解できる	その日のうちに講義の復習を行う
2	8/9	講義	脳卒中、脳動脈を理解できる Japan comma scaleをとる事ができる	その日のうちに講義の復習を行う
3	10/18	講義	脱臼、骨折(上下肢、体幹)について理	その日のうちに講義の復習を行う
4	10/25	講義	心電図の取り方と心電図の各波を理	その日のうちに講義の復習を行う
5	1/10	講義	各種不整脈(特に緊急を要する不整 脈)を	その日のうちに講義の復習を行う
6	1/17	講義	心電図用語を理解できる WPW症候群の波形は何を疑うかを説	その日のうちに講義の復習を行う
7	1/22	講義	心筋梗塞の病態・症状と緊急時に 何をするかを理解できる	その日のうちに講義の復習を行う
8	1/24	講義	肺区域、排痰処理とそれに基づく 排痰体位を理解できる	その日のうちに講義の復習を行う
9	1/29	講義	スパイログラム、フローボリュームの 意味を理解し、検査結果を読むこと が出来る	その日のうちに講義の復習を行う
10	1/31	講義	悪性腫瘍(特に転移性悪性腫瘍)の 概要を理解できる	その日のうちに講義の復習を行う
11	2/5	講義	糖尿病・低血糖の病態、症状を理解 できる	その日のうちに講義の復習を行う
12	2/7	講義	意識障害・呼吸困難の概要を理解 し、 救急搬送の手順を実践できる	その日のうちに講義の復習を行う
13	2/12	講義	高血圧・低血圧・てんかんの概要 を理解し、各対処が行える	その日のうちに講義の復習を行う
14	2/14	講義	頭痛・発熱、深部静脈血栓症の概要 を理解し、その対処ができる	その日のうちに講義の復習を行う
	2/17	試験	筆記試験	
15	2/21	講義	試験解説を通し、試験問題の解答を理	その日のうちに講義の復習を行う
準備学習 時間外学習			不明点の調べもの学習	
【使用教科書・教材・参考書】 □			講義プリント、リハビリテーション リスク管理ハンドブック 第2版	

科目名 (英)	義肢装具学実習 (Practice of Prosthetics and Orthotics)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	梶原一将
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分	通年 火・水 1・2限 曜日・時限
教員の略歴	理学療法士、ピラティスやスポーツ系の資格保有。急性期・包括ケア・呼吸器外来・訪問リハビリテーションを経験。						
学習内容	理学療法士として、義肢装具の作成時に必要な視点を中心に、適応・チェックアウトを理解し、体験する。義肢装具療法で出来ること、できないことを学び、理学療法(評価、運動療法)につなげる理解を深める。また、現在の最新の動向を確認し、経験する。						
到達目標	義肢装具の作成過程の体験・見学を通し、義肢装具学で学んだ知識と技術の理解を深めることをめざす。 さらに、各疾患の詳細適応について学ぶ。						
評価方法 (基準)	筆記試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/16	講義	下肢のアライメント評価の概要を説明できる	指定教科書該当ページの予読
2	4/16	講義	足部のアーチ構造を理解し説明できる	指定教科書該当ページの予読
3	4/23	講義	足部のアライメントを評価できる	指定教科書該当ページの予読
4	4/23	講義	足部の簡易のアーチサポートを作成できる	指定教科書該当ページの予読
5	5/7	講義	切断の評価と運動療法を説明できる	指定教科書該当ページの予読
6	5/7	講義	義足のソケット、継手、適切な位置関係の説明ができる	指定教科書該当ページの予読
7	5/14	講義	義足のチェックアウトと修正方法を説明できる	指定教科書該当ページの予読
8	5/14	講義	装具のチェックアウトを説明できる	指定教科書該当ページの予読
9	5/21	講義	短下肢装具の違いを説明できる	指定教科書該当ページの予読
10	5/21	講義	長下肢装具の違いを説明できる	指定教科書該当ページの予読
11	5/28	講義	車椅子の構造を説明できる	指定教科書該当ページの予読
12	5/28	講義	日常生活補助具の概要を説明できる	指定教科書該当ページの予読
13	6/4	講義	日常生活補助具の概要を説明できる	指定教科書該当ページの予読
14	1/23	講義・演習	装具採型を説明できる①(P O)	指定教科書該当ページの予読
15	1/23	講義・演習	装具採型を説明できる②(P O)	指定教科書該当ページの予読
16	1/30	講義・演習	最新の装具の動向を知る①(P O)	指定教科書該当ページの予読
17	1/30	講義・演習	最新の装具の動向を知る②(P O)	指定教科書該当ページの予読
18	2/6	講義・演習	最新の義足の動向を知る①(P O)	指定教科書該当ページの予読
19	2/6	講義・演習	最新の義足の動向を知る②(P O)	指定教科書該当ページの予読
20	2/13	講義・演習	理学療法士に必要な義肢装具の知識①(P O)	指定教科書該当ページの予読
21	2/13	講義・演習	理学療法士に必要な義肢装具の知識②(P O)	指定教科書該当ページの予読
22	2/20	講義・演習	P Oの装具策を見学する①	指定教科書該当ページの予読
23	2/20	講義・演習	P Oの装具策を見学する②	指定教科書該当ページの予読
		本試験		
準備学習 時間外学習			授業の復習	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			PT・OTビジュアルテキスト義肢・装具学異常とその対応がわかる動画付き(羊土社) その他備品の義肢装具の資料使用	

科目名 (英)	理学療法技術論Ⅲ (呼吸循環疾患) (Physiotherapy technique theory Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	菅野 友樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期 木
教員の略歴	理学療法士。心臓リハビリテーション指導士、3学会合同呼吸療法認定士。急性期心臓リハビリテーションを経験。						
学習内容	急性期～在宅を問わず、安全な理学療法を行うためにはフィジカルアセスメントが重要となる。この授業を通じて、呼吸循環動態を理解し、フィジカルアセスメントやリスク管理の知識を深める事を目的とする。						
到達目標	①呼吸循環器疾患の基礎知識を理解する。 ②呼吸循環器疾患患者の病態から、正確に身体状況を把握する事が出来る。 ③呼吸循環器疾患患者に対する評価と運動療法の内容を理解する事が出来る。						
評価方法 (基準)	定期テスト100%(初回授業で試験範囲は提示)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/11	講義	循環器に関する基礎知識	講義の予習・復習を行う事
2	4/11	講義	心電図について	講義の予習・復習を行う事
3	4/18	講義	心電図について	講義の予習・復習を行う事
4	4/18	講義	虚血性心疾患とは	講義の予習・復習を行う事
5	4/25	講義	虚血性心疾患の心電図変化とは	講義の予習・復習を行う事
6	4/25	講義	虚血性心疾患への理学療法とは	講義の予習・復習を行う事
7	5/9	講義	心不全とは	講義の予習・復習を行う事
8	5/9	講義	心不全に対する理学療法とは	講義の予習・復習を行う事
9	5/16	講義	心不全に対する理学療法とは	講義の予習・復習を行う事
10	5/16	講義	心不全に対する理学療法とは	講義の予習・復習を行う事
11	5/23	講義	呼吸器に関する基礎知識	講義の予習・復習を行う事
12	5/23	講義	酸素デバイスとは	講義の予習・復習を行う事
13	5/30	講義	COPDとは	講義の予習・復習を行う事
14	5/30	講義	COPDに対する理学療法とは	講義の予習・復習を行う事
	6/13	本試験		
15	6/20	講義	試験解説	講義の予習・復習を行う事
準備学習 時間外学習		授業範囲の予習・復習を行う事		
【使用教科書・教材・参考書】 □		理学療法アクティブ・ラーニング・テキスト 内部障害理学療法学 文光堂 病気がみえる 呼吸器 第3版 メディックメディア		

科目名 (英)	理学療法技術論V (難病・スポーツ障害) (Intractable Disease, Sports Disease)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	茂呂 行哲
	学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義 実習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	理学療法士(認定:運動器)。老健、通所・訪問リハビリテーション、整形外科の外来リハビリテーションを経験。						
学習内容	難病・スポーツ障害に対する臨床推論過程の例を示し、理学療法の考え方、捉え方について学ぶ。						
到達目標	「難病」の定義が言える。「指定難病」の要件を言える。難病患者の就労について説明できる。具体的な難病の病態と治療法を説明できる。 アスレチックリハビリテーションの一例を体験することができる。 臨床における難病・スポーツ障害に対するイメージを身につけることができる。						
評価方法 (基準)	筆記試験:難病50%、スポーツ障害50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	1/14	講義・演習	スポーツ障害と理学療法(総論、コンディショニング)について理解する。	講義内容の復習を行う
2	1/14	講義・演習	スポーツ障害と理学療法(総論、コンディショニング)について理解する。	講義内容の復習を行う
3	1/17	講義・演習	膝関節の靭帯損傷(膝関節の解剖・運動、受傷メカニズム)を理解する。	講義内容の復習を行う
4	1/17	講義・演習	膝関節の靭帯損傷(運動連鎖、動作分析)を理解する。	講義内容の復習を行う
5	1/21	講義・演習	上肢のスポーツ障害(投球障害肩等)について理解する。	講義内容の復習を行う
6	1/21	講義・演習	上肢のスポーツ障害(運動連鎖、動作分析)について理解する。	講義内容の復習を行う
7	1/24	講義・演習	アスレチックトレーニングを体験する。	講義内容の復習を行う
8	1/24	講義・演習	アスレチックトレーニングを体験する。	講義内容の復習を行う
9	1/28	講義・演習	「難病」・「指定難病」の定義が言える。	講義内容の復習を行う
10	1/28	講義・演習	「難病の患者に対する医療等に関する法律」について理解する。	講義内容の復習を行う
11	1/31	講義・演習	指定難病総論(神経難病を中心に)	講義内容の復習を行う
12	1/31	講義・演習	神経難病各論(Parkinson病)	講義内容の復習を行う
13	2/4	講義・演習	神経難病各論(脊髄小脳変性症)	講義内容の復習を行う
14	2/4	講義・演習	神経難病各論(筋萎縮性側索硬化症)	講義内容の復習を行う
		試験	筆記試験	
15	2/14	講義・演習	試験の解説を行う。学習内容の総復習を行う	講義内容の復習を行う
準備学習 時間外学習			各学習内容の予習・復習を行う	
【使用教科書・教材・参考書】 □			資料随時配布、運動機能障害の「なぜ？」がわかる評価戦略	

科目名 (英)	理学療法演習Ⅰ (Practice in PTⅠ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	丸屋健
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	通年
教員の略歴	理学療法士。回復期、通所・訪問リハビリテーションを経験し、地域の健康増進教室や介護予防啓発活動も実施。						
学習内容	理学療法評価学にて得た知識を用い、臨床現場を意識した流れ、方法論、アセスメント、動作分析を実施できる。						
到達目標	①各理学療法評価学を学生同士で実施できる ②患者に合わせ、必要な評価項目を列挙し、その理由を述べるができる ③患者情報と評価結果を動作分析と関連づけ、統合と解釈を行うことができる						
評価方法 (基準)	1)小テスト:50% 2)実技試験:50%						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習	(学習課題)	
1	4/15	演習	理学療法評価学と臨床にて必要となる知識の概要について理解することができる。			講義内容の復習	
2	4/15	演習	理学療法評価学と臨床にて必要となる知識の概要について理解することができる。			講義内容の復習	
3	4/22	演習	ROM-T(関節可動域測定法) 総論 テストの意義や目的について説明できる。			講義内容の復習	
4	4/22	演習	ROM-T(関節可動域測定法) 総論 テストの意義や目的について説明できる。			講義内容の復習	
5	5/13	演習	ROM-T(関節可動域測定法) 各論「上肢①」 計測方法、代償運動、制限因子を説明できる			講義内容の復習	
6	5/13	演習	ROM-T(関節可動域測定法) 各論「上肢②」 計測方法、代償運動、制限因子を説明できる			講義内容の復習	
7	5/20	演習	ROM-T(関節可動域測定法) 各論「上肢③」 計測方法、代償運動、制限因子を説明できる			講義内容の復習	
8	5/20	演習	ROM-T(関節可動域測定法) 各論「上肢④」 計測方法、代償運動、制限因子を説明できる			講義内容の復習	
9	5/27	演習	ROM-T(関節可動域測定法) 各論「下肢①」 計測方法、代償運動、制限因子を説明できる			講義内容の復習	
10	5/27	演習	ROM-T(関節可動域測定法) 各論「下肢②」 計測方法、代償運動、制限因子を説明できる			講義内容の復習	
11	6/3	演習	ROM-T(関節可動域測定法) 各論「下肢③」 計測方法、代償運動、制限因子を説明できる			講義内容の復習	
12	6/3	演習	ROM-T(関節可動域測定法) 各論「下肢④」 計測方法、代償運動、制限因子を説明できる			講義内容の復習	
13	6/17	演習	MMT(徒手筋力テスト) 総論 テストの意義や目的について説明できる。			講義内容の復習	
14	6/17	演習	MMT(徒手筋力テスト) 総論 テストの意義や目的について説明できる。			講義内容の復習	
15	7/1	演習	MMT(徒手筋力テスト) 各論「上肢①」 検査方法、代償運動、機能低下を説明できる。			講義内容の復習	
16	7/1	演習	MMT(徒手筋力テスト) 各論「上肢②」 検査方法、代償運動、機能低下を説明できる。			講義内容の復習	
17	7/3	演習	MMT(徒手筋力テスト) 各論「上肢③」 検査方法、代償運動、機能低下を説明できる。			講義内容の復習	
18	7/3	演習	MMT(徒手筋力テスト) 各論「上肢④」 検査方法、代償運動、機能低下を説明できる。			講義内容の復習	
19	7/8	演習	MMT(徒手筋力テスト) 各論「下肢①」 検査方法、代償運動、機能低下を説明できる。			講義内容の復習	
20	7/8	演習	MMT(徒手筋力テスト) 各論「下肢②」 検査方法、代償運動、機能低下を説明できる。			講義内容の復習	
21	7/10	演習	MMT(徒手筋力テスト) 各論「下肢③」 検査方法、代償運動、機能低下を説明できる。			講義内容の復習	
22	7/10	演習	MMT(徒手筋力テスト) 各論「下肢④」 検査方法、代償運動、機能低下を説明できる。			講義内容の復習	
23	7/17	演習	中枢神経疾患 総論 病態、症状、評価法、治療等を説明でき			講義内容の復習	
24	7/17	演習	中枢神経疾患 総論 病態、症状、評価法、治療等を説明でき			講義内容の復習	
25	7/22	演習	中枢神経疾患 各論「脳卒中①」 病態、症状、評価法、治療等を説明でき			講義内容の復習	
26	7/22	演習	中枢神経疾患 各論「脳卒中②」 病態、症状、評価法、治療等を説明でき			講義内容の復習	
27	7/24	演習	中枢神経疾患 各論「脳卒中③」 病態、症状、評価法、治療等を説明でき			講義内容の復習	
28	7/24	演習	中枢神経疾患 各論「その他疾患①」 病態、症状、評価法、治療等を説明でき			講義内容の復習	
29	7/29	演習	中枢神経疾患 各論「その他疾患②」 病態、症状、評価法、治療等を説明でき			講義内容の復習	
30	7/29	演習	中枢神経疾患 各論「その他疾患③」 病態、症状、評価法、治療等を説明でき			講義内容の復習	
	7/30	試験	実技試験				
準備学習 時間外学習			獲得した技術の反復練習				
【使用教科書・教材・参考書】			適宜資料を配布 適宜授業内にて小テストを実施				

科目名 (英)	理学療法演習Ⅱ (Practice in PTⅡ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	茂呂 行哲
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時限	通年 月・水曜
教員の略歴	理学療法士(認定:運動器)。老健、通所・訪問リハビリテーション、整形外科の外来リハビリテーションを経験。						
学習内容	これまで学習してきた理学療法評価学を、より臨床に即したかたちで展開することができるようになるために必要な科目となる。 各評価方法や各病態により現れる徴候(sign)に対して、理学療法のコアとなる臨床推論の展開の一例を学ぶ。						
到達目標	各検査結果、徴候に対し解釈(アセスメント)を行うことができる。 各疾患の疾患特異性を考慮したうえで適切な評価を選択し、正確に実施することができる。 対象者の問題点を抽出し、根拠のある治療プログラムを考案することができる。						
評価方法 (基準)	筆記試験(50点)、実技試験(50点)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/15	演習	オリエンテーション 理学療法評価学復習(評価とは)	<復習>理学療法評価とは何か
2	4/15	演習	ROM-T(ハンドリング、ポジショニング)	<復習>ROM-Tの基本軸、移動軸、参考可動域および代償運動
3	4/22	演習	ROM-T(自動運動と他動運動の違い)	<復習>自動運動と他動運動の違い
4	4/22	演習	ROM-T(自動運動と他動運動の違い)	<復習>各関節の解剖学、運動学
5	5/13	演習	MMT(測定肢位の確認、病態との関係)	<復習>各運動の主動作筋の起始・停止、神経支配
6	5/13	演習	MMT(測定肢位の確認、病態との関係)	<復習>筋力低下の生じる疾患
7	5/20	演習	MMT(代償運動、各種徴候)	<復習>各筋の代償パターン
8	5/20	演習	MMT(代償運動、各種徴候)	<復習>筋力低下が原因となり生じる異常動作
9	5/27	演習	姿勢観察(面の理解、ランドマークの確認)	<復習>各面におけるランドマーク
10	5/27	演習	姿勢観察(面の理解、ランドマークの確認)	<復習>ランドマークと重心線の関係
11	6/17	演習	姿勢観察(姿勢と筋活動:姿勢タイプ)	<復習>ケンダル「筋:機能とテスト」
12	6/17	演習	姿勢観察(姿勢と筋活動:姿勢タイプ)	<復習>ケンダル「筋:機能とテスト」
13	7/1	演習	姿勢観察(観察の視点、動作の予測)	<復習>支持基底面と重心
14	7/1	演習	姿勢観察(観察の視点、動作の予測)	<復習>支持基底面と重心
15	7/3	演習	動作観察(姿勢制御、平衡機能)	<復習>安定性とは
16	7/3	演習	動作観察(姿勢制御、平衡機能)	<復習>バランス反応
17	7/8	演習	動作観察(徴候からの予測)	<復習>各徴候の意味
18	7/8	演習	動作観察(徴候からの予測)	<復習>各徴候の意味
19	7/10	演習	動作観察(基本動作、起居動作の確認)	<復習>基本動作・起居動作とは
20	7/10	演習	動作観察(基本動作、起居動作の確認)	<復習>基本動作・起居動作のバイオメカニクス
21	7/17	演習	臨床推論(検査結果に対する解釈)	<復習>評価における統合と解釈とは
22	7/17	演習	臨床推論(検査結果に対する解釈)	<復習>評価における統合と解釈とは
23	7/22	演習	臨床推論(現象に対する解釈)	<復習>評価における統合と解釈とは
24	7/22	演習	臨床推論(現象に対する解釈)	<復習>評価における統合と解釈とは
25	7/24	演習	臨床推論(ケーススタディ:整形外科疾患)	<復習>整形外科疾患全般
26	7/24	演習	臨床推論(ケーススタディ:整形外科疾患)	<復習>整形外科疾患全般
27	7/29	演習	臨床推論(ケーススタディ:脳血管疾患)	<復習>脳血管障害全般
28	7/29	演習	臨床推論(ケーススタディ:脳血管疾患)	<復習>脳血管障害全般
29	8/5	演習	臨床推論(ケーススタディ:ADL障害)	<復習>ADL障害全般
30	8/5	演習	臨床推論(ケーススタディ:ADL障害)	<復習>ADL障害全般
31	/	試験	筆記試験	
32	/	試験	実技試験	
準備学習 時間外学習			獲得した技術の反復練習	
【使用教科書・教材・参考書】			□ 適宜資料を配布	

科目名 (英)	臨床評価実習 (Evaluation of Clinical Practice)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	丸屋健
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	実習	総時間 (単位)	240 (6)	開講区分 曜日・時限	集中
教員の略歴	理学療法士。回復期、通所・訪問リハビリテーションを経験し、地域の健康増進教室や介護予防啓発活動も実施。						
学習内容	臨床実習指導者のもと、理学療法業務全般を経験する。この実習は医療人としての接遇と的確な評価(知識・技術など)が実践できる。 ① 情報収集～統合と解釈までの流れを体験することで、今後の学習課題を認識させる機会をもたせる。 ② 医療人としての態度を学ぶ。						
到達目標	症例を通じて、競技の意味での評価の一連の流れを体験し、必要な検査・測定ができるようになる。広義の意味での評価を「指導」により体験することで、障害を理解し、情報をつなげていく過程を学ぶ。 ① 基本的な評価技術と治療の立案につながる過程を学ぶ。 ② 患者に丁寧な対応を続けられるようになる。 ③ 治療器具・備品などの基本的な取り扱いと使用目的を学ぶ。						
評価方法 (基準)	【学外】 実習施設での評価(各項目のチェック内容、総合判定及び総括コメント): 40% 【学内】 学校での実習報告(レポートとレジュメ)、デイリーノートおよびケースノート: 60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1,2		講義	実習オリエンテーション 「臨床評価実習」の概要・目的を理解できる。	講義内容の復習、次回の予習
3		演習	実習前OSCE I 「臨床評価実習」にあたっての基本的な技能を実施できる。	事前練習
4-173		実習	臨床現場での実習 期間 (週5日実習、週休2日)	日々の復習
174		演習	実習報告	レポート作成
175		演習	実習後OSCE I 「臨床評価実習」にあたっての基本的な技能を実施できる。	事前練習
準備学習 時間外学習			学外 臨床実習に向けた自己学習、実技練習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			これまでの教科書全般を使用	

科目名 (英)	臨床実習 I (Clinical Practice I)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	茂呂行哲
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義・演習 実習	総時間 (単位)	280 (7)	開講区分	集中
教員の略歴	理学療法士(認定:運動器)。老健、通所・訪問リハビリテーション、整形外科の外来リハビリテーションを経験。						
学習内容	今まで学んだ知識・技術を生かし、臨床実習指導者のもと、理学療法業務全般について経験し実践できる。 ① 第3学年までに学習した知識と技術を臨床の場で実践する。 ② 症例に即した基本的な理学療法を経験し実践する。 ③ 理学療法を含めた各専門職の役割、機能、分担、運営、管理について学ぶ。 ④ 理学療法過程のうち、「臨床実習 I」では情報収集から治療の立案までを経験する。						
到達目標	臨床評価実習を踏まえ、実習生として必要な基本的な問題解決能力を身につける。 ① 理学療法(評価、治療、記録等)における基本的事項を指導助言のもとに経験し、解釈できる。 ② 理学療法(評価、治療、記録等)における基本的事項を実践する際に、安全性に配慮できる。 ③ 症例から得た結果の解釈及び結論を導いた経過、根拠を端的に示すことができる。 ④ 上記の1・2の項目を、指導助言を求めるとも含め「自発的に」できることをさらなる目標とする。						
評価方法 (基準)	【学外】 実習施設での評価(各項目のチェック内容、総合判定及び総括コメント): 40% 【学内】 学校での実習報告(レポートとレジュメ)、デイリーノートおよびケースノート: 60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1,2		講義	実習オリエンテーション 「臨床実習 I」の概要・目的を理解できる。	講義内容の復習、次回の予習
3		演習	実習前OSCE II 「臨床実習 I」にあたっての基本的な技能を実施できる。	事前練習
4-173		実習	臨床現場での実習 期間 (週5日実習、週休2日)	日々の復習
174		演習	実習報告	レポート作成
175		演習	実習後OSCE II 「臨床実習 I」にあたっての基本的な技能を実施できる。	事前練習
準備学習 時間外学習			学外 臨床実習に向けた自己学習、実技練習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			これまでの教科書全般を使用	

科目名 (英)	国家試験演習Ⅲ (The prac of Qualifying Exam Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	丸屋健
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
教員の略歴	理学療法士。回復期、通所・訪問リハビリテーションを経験し、地域の健康増進教室や介護予防啓発活動も実施。						
学習内容	理学療法士に必要な基礎知識を整理しつつ問題演習を行う。この授業を通して国家試験(共通分野)に関する知識を習得する。						
到達目標	国家試験共通問題の知識を習得し、各問題の解説を行うことができる。						
評価方法 (基準)	中間試験(筆記)50%、本試験(筆記)50% 各試験は国試模試とし、そのうち共通問題100点を評定対象とする。						

授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)	
1	1/14	講義・演習	骨に関する国家試験解法ができる		講義の復習	
2	1/14	講義・演習	骨に関する国家試験解法ができる		講義の復習	
3	1/16	講義・演習	骨に関する国家試験解法ができる		講義の復習	
4	1/16	講義・演習	関節に関する国家試験解法ができる		講義の復習	
5	1/20	講義・演習	関節に関する国家試験解法ができる		講義の復習	
6	1/20	講義・演習	靭帯に関する国家試験解法ができる		講義の復習	
7	1/21	講義・演習	筋に関する国家試験解法ができる		講義の復習	
8	1/21	講義・演習	筋に関する国家試験解法ができる		講義の復習	
9	1/23	講義・演習	筋に関する国家試験解法ができる		講義の復習	
10	1/23	講義・演習	上肢の運動学に関する国家試験解法ができる		講義の復習	
11	1/27	講義・演習	下肢の運動学に関する国家試験解法ができる		講義の復習	
12	1/27	講義・演習	顔面と体幹に関する国家試験解法ができる		講義の復習	
13	1/28	講義・演習	姿勢・歩行に関する国家試験解法ができる		講義の復習	
14	1/28	講義・演習	バイオメカニクス・運動学習に関する国家試験解法ができる		講義の復習	
15	1/30	講義・演習	神経に関する国家試験解法ができる		講義の復習	
16	1/30	講義・演習	神経に関する国家試験解法ができる		講義の復習	
		確認試験				
17	2/3	講義・演習	神経に関する国家試験解法ができる		講義の復習	
18	2/3	講義・演習	神経に関する国家試験解法ができる		講義の復習	
19	2/4	講義・演習	感覚と受容器に関する国家試験解法ができる		講義の復習	
20	2/4	講義・演習	循環器系に関する国家試験解法ができる		講義の復習	
21	2/6	講義・演習	呼吸器系に関する国家試験解法ができる		講義の復習	
22	2/6	講義・演習	消化と吸収に関する国家試験解法ができる		講義の復習	
23	2/10	講義・演習	泌尿器と生殖器に関する国家試験解法ができる		講義の復習	
24	2/10	講義・演習	代謝に関する国家試験解法ができる		講義の復習	
25	2/13	講義・演習	ホルモンに関する国家試験解法ができる		講義の復習	
26	2/13	講義・演習	発生と組織に関する国家試験解法ができる		講義の復習	
27	2/17	講義・演習	共通問題全範囲で30%の正答率を出せる		講義の復習	
28	2/17	講義・演習	共通問題全範囲で40%の正答率を出せる		講義の復習	
		本試験				
29	2/20	講義・演習	本試験の問題を解説することができる		講義の復習	
30	2/20	講義・演習	本試験の問題を解説することができる		講義の復習	
準備学習 時間外学習						
【使用教科書・教材・参考書】 □ クエストions・バンク理学療法士・作業療法士国家試験問題解説 2023共通・専門 2023年度版理学療法士作業療法士過去問題集共通・専門 問題10年分						

科目名 (英)	PTスポーツ演習Ⅲ (PT Sports PracticeⅢ)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	茂呂行哲
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分 曜日・時限	後期
教員の略歴	理学療法士(認定:運動器)。老健、通所・訪問リハビリテーション、整形外科の外来リハビリテーションを経験。						
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ動作に起因する外傷・傷害を説明することができる。 ・アスレチックリハビリテーションにおける予防的介入を理解できる。 ・アスレチックリハビリテーションにおけるトレーニングを理解できる。 ・スポーツ現場での応急処置について理解することができる。 						
到達目標	理学療法評価の知識を基に、アスリート・選手のスポーツ傷害予防、アスレチックリハビリテーションについて説明することができる。						
評価方法 (基準)	・出席点(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	1/11	講義	総論①:アスレチックリハビリテーションとは何かを理解できる。	予習(割り振られた競技の調べ学習)
2	1/11	講義	総論②:アスレチックリハビリテーションとは何かを理解できる。	予習(割り振られた競技の調べ学習)
3	1/18	講義	各論①:各種障害における受傷機転を説明することができる。	予習(割り振られた競技の調べ学習)
4	1/18	講義	各論②:各種障害における受傷機転を説明することができる。	予習(割り振られた競技の調べ学習)
5	1/25	講義	各論③:各種障害における受傷機転を説明することができる。	予習(割り振られた競技の調べ学習)
6	1/25	講義	各論④:各種障害における受傷機転を説明することができる。	予習(割り振られた競技の調べ学習)
7	2/1	講義	各論⑤:各種障害における受傷機転を運動学的、解剖学的に理解することができる。	予習(割り振られた競技の調べ学習)
8	2/1	講義	各論⑥:各種障害における受傷機転を運動学的、解剖学的に理解することができる。	予習(割り振られた競技の調べ学習)
9	2/8	講義	各論⑦:メディカルリハビリテーションとアスレチックリハビリテーションについて理解することができる。	プレゼン準備(割り振られた競技)
10	2/8	講義	各論⑧:メディカルリハビリテーションとアスレチックリハビリテーションについて理解することができる。	プレゼン準備(割り振られた競技)
11	2/15	演習	アスレチックリハビリテーションを体験することができる(上肢①)	プレゼン準備(割り振られた競技)
12	2/15	演習	アスレチックリハビリテーションを体験することができる(上肢②)	プレゼン準備(割り振られた競技)
13	2/22	演習	アスレチックリハビリテーションを体験することができる(下肢①)	プレゼン準備(割り振られた競技)
14	2/22	演習	アスレチックリハビリテーションを体験することができる(下肢②)	プレゼン準備(割り振られた競技)
15	3/1	演習	授業内容の総復習	プレゼン準備(割り振られた競技)
準備学習 時間外学習			上記に示した準備学習課題を実施する。	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			【参考書】 スポーツ理学療法学 改訂第2版, MEDICAL VIEW スポーツ医学検定公式テキスト1級・2級・3級	

科目名 (英)	PTマネジメント演習Ⅲ (PT Management Practice Ⅲ)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	丸屋健
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
教員の略歴	理学療法士。回復期、通所・訪問リハビリテーションを経験し、地域の健康増進教室や介護予防啓発活動も実施。						
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法に関わる老年期、老人の障害構造の特徴を理解する。 ・フレイルや廃用症候群、サルコペニア、ロコモティブシンドロームの概念、相違等を理解する ・老年期の生活や社会的特徴を理解する(見通す力) ・医療現場におけるリスクマネジメントを理解する。 						
到達目標	理学療法評価・治療の知識を基に、フレイル(介護予防)について説明することができる。理学療法士が医療現場、地域社会においてマネジメントに携わる意義を理解することができる。						
評価方法 (基準)	レジュメ発表:50% 出席状況:50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	1/11	講義	復習:フレイルの概念について説明できる	講義の復習
2	1/11	講義	復習:フレイルの概念について説明できる	講義の復習
3	1/18	講義	復習:地域包括ケアシステムについて説明できる	講義の復習
4	1/18	講義	復習:地域包括ケアシステムについて説明できる	講義の復習
5	1/25	講義	事例検討①:地域在住の虚弱高齢者に対する包括的なアプローチについて検討することができる	講義の復習
6	1/25	講義	事例検討①:地域在住の虚弱高齢者に対する包括的なアプローチについて検討することができる	講義の復習
7	2/1	講義	事例検討②:介護予防教室における集団体操プログラムを考案することができる	講義の復習
8	2/1	講義	事例検討②:介護予防教室における集団体操プログラムを考案することができる	講義の復習
9	2/8	講義	事例検討③:退院前の家屋調査における福祉サービスの導入について検討することができる	講義の復習
10	2/8	講義	事例検討③:退院前の家屋調査における福祉サービスの導入について検討することができる	講義の復習
11	2/15	講義	事例検討④:医療現場におけるリスクマネジメントについて、KYTを体験することができる	講義の復習
12	2/15	講義	事例検討④:医療現場におけるリスクマネジメントについて、KYTを体験することができる	講義の復習
13	2/22	講義	これまでの演習の結果を発表できる	講義の復習
14	2/22	講義	これまでの演習の結果を発表できる	講義の復習
15	3/1	講義	これまでの演習の結果を発表できる	講義の復習
準備学習 時間外学習			講義の復習	
【使用教科書・教材・参考書】 □			適宜資料配布	

科目名 (英)	PTメディカル演習Ⅲ (PT Medical Practice Ⅲ)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	茂呂行哲
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
教員の略歴	理学療法士(認定:運動器)。老健、通所・訪問リハビリテーション、整形外科の外来リハビリテーションを経験。						
学習内容	チーム医療の一員として他職種連携を実践するにあたり、まず各科における専門性を理解する。 PTメディカルに関わる他職種の業務内容をそれぞれ理解し、これから修得すべき理学療法はどのような意味を持つかを認識を深める。						
到達目標	理学療法評価・治療の知識を基に、高齢者・障害者のリハビリテーションについて説明することができる。 医療現場における理学療法士の役割について説明することができる。						
評価方法 (基準)	スライド発表:50% 出席状況:50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	1/11	講義	オリエンテーション:復習	講義の復習/発表資料の準備
2	1/11	講義	オリエンテーション:復習	講義の復習/発表資料の準備
3	1/18	講義	医療現場における理学療法士の役割①:回復期リハビリテーションについて理解することができる。	講義の復習/発表資料の準備
4	1/18	講義	医療現場における理学療法士の役割①:回復期リハビリテーションについて理解することができる。	講義の復習/発表資料の準備
5	1/25	講義	医療現場における理学療法士の役割②:急性期リハビリテーションについて理解することができる。	講義の復習/発表資料の準備
6	1/25	講義	医療現場における理学療法士の役割②:急性期リハビリテーションについて理解することができる。	講義の復習/発表資料の準備
7	2/1	講義	医療現場における理学療法士の役割③:慢性期・維持期リハビリテーションについて理解することができる。	講義の復習/発表資料の準備
8	2/1	講義	医療現場における理学療法士の役割③:慢性期・維持期リハビリテーションについて理解することができる。	講義の復習/発表資料の準備
9	2/8	講義	医療現場における理学療法士の役割④:ICUにおけるリハビリテーションについて理解することができる。	講義の復習/発表資料の準備
10	2/8	講義	医療現場における理学療法士の役割④:ICUにおけるリハビリテーションについて理解することができる。	講義の復習/発表資料の準備
11	2/15	講義	医療現場における理学療法士の役割⑤:小児期リハビリテーションについて理解することができる。	講義の復習/発表資料の準備
12	2/15	講義	医療現場における理学療法士の役割⑤:小児期リハビリテーションについて理解することができる。	講義の復習/発表資料の準備
13	2/22	講義	医療現場における理学療法士の役割⑥:産業リハビリテーションについて理解することができる。	講義の復習/発表資料の準備
14	2/22	講義	医療現場における理学療法士の役割⑥:産業リハビリテーションについて理解することができる。	講義の復習/発表資料の準備
15	3/1	講義	総まとめ	講義の復習/発表資料の準備
準備学習 時間外学習			講義の復習	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			適宜資料配布	

科目名 (英)	PTマネジメント演習Ⅱ (PT Management Practice II)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	塚野智史
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
教員の略歴	理学療法士(認定:学校教育)。急性期・回復期・通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションを経験。						
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法に関わる老年期, 老人の障害構造の特徴を理解する ・フレイルや廃用症候群, サルコペニア, ロコモティブシンドロームの概念, 相違等を理解する ・老年期の生活や社会的特徴を理解する(見通す力) 						
到達目標	理学療法評価・治療の知識を基に, フレイル(介護予防)について説明することができる。						
評価方法 (基準)	レジュメ発表:50% 出席状況:50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10/7	講義	戦後から2000年までの医療・介護情勢の変化を理解できる	講義の復習
2	10/7	講義	これまでの診療・介護報酬改定の要点を説明できる	講義の復習
3	10/8	講義	地域包括ケアシステムの概要を説明できる	講義の復習
4	10/8	講義	地域包括ケアシステムの概要を説明できる	講義の復習
5	10/9	講義	理学療法士のロールモデルの変遷を説明できる	講義の復習
6	10/9	講義	キャリアとは何か説明できる	講義の復習
7	10/10	講義	職場におけるキャリアマネジメントの重要性を説明できる	講義の復習
8	10/10	講義	事例から、理学療法士として多様なキャリアがあることを理解できる	講義の復習
9	10/11	講義	自身の自己概念について課題を通して理解できる	講義の復習
10	10/11	講義	自身の自己概念について課題を通して理解できる	講義の復習
11	10/14	講義	自身のパーソナリティタイプを理解し、キャリアクラスターとのマッチングの相性	講義の復習
12	10/14	講義	自身のパーソナリティタイプを理解し、キャリアクラスターとのマッチングの相性	講義の復習
13	10/15	講義	これまでの演習の結果を発表できる	講義の復習
14	10/15	講義	これまでの演習の結果を発表できる	講義の復習
15	10/16	講義	これまでの演習の結果を発表できる	講義の復習
準備学習 時間外学習			講義の復習	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			適宜資料配布	

科目名 (英)	PTメディカル演習 I (PT Medical Practice I)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	菅野友樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
教員の略歴	理学療法士。心臓リハビリテーション指導士、3学会合同呼吸療法認定士。急性期心臓リハビリテーションを経験。						
学習内容	チーム医療の一員として他職種連携を実践するにあたり、まず各科における専門性を理解する。 コメディカルに関わる他職種の業務内容をそれぞれ理解し、これから修得すべき理学療法はどのような意味を持つかを認識を深める。 グループワークを行い、上記内容について調べ、プレゼンテーションを行う。						
到達目標	理学療法評価・治療の知識を基に、高齢者・障害者のリハビリテーションについて説明することができる。						
評価方法 (基準)	スライド発表:50% 出席状況:50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10/8	講義	オリエンテーション	講義の復習/発表資料の準備
2	10/8	演習	他己紹介①を通して相互理解を深めることができる	講義の復習/発表資料の準備
3	10/8	演習	他己紹介②を通して相互理解を深めることができる	講義の復習/発表資料の準備
4	10/8	演習	チーム医療における他職種の役割を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
5	10/9	演習	チーム医療における理学療法士の役割を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
6	10/9	演習	チーム医療における看護師の業務を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
7	10/9	演習	チーム医療における理学療法士の業務を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
8	10/14	演習	チーム医療における医師の役割を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
9	10/14	演習	臨床現場における理学療法士業務とは①を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
10	10/14	演習	臨床現場における理学療法士業務とは②を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
11	10/14	演習	臨床現場における他職種の業務とは②を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
12	10/15	演習	臨床現場における医師の業務を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
13	10/15	演習	在宅・地域医療(高齢者、障害者)における理学療法士の役割を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
14	10/15	演習	在宅・地域医療(高齢者、障害者)における他職種の役割を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
15	10/15	発表	グループ毎にプレゼンテーションを行う	講義の復習/発表資料の準備
準備学習 時間外学習			講義の復習	
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	PTメディカル演習Ⅱ (PT Medical Practice Ⅱ)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	菅野友樹
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	後期
教員の略歴	理学療法士。心臓リハビリテーション指導士、3学会合同呼吸療法認定士。急性期心臓リハビリテーションを経験。						
学習内容	チーム医療の一員として他職種連携を実践するにあたり、まず各科における専門性を理解する。 コメディカルに関わる他職種の業務内容をそれぞれ理解し、これから修得すべき理学療法はどのような意味を持つかを認識を深める。 グループワークを行い、上記内容について調べ、プレゼンテーションを行う。						
到達目標	理学療法評価・治療の知識を基に、高齢者・障害者のリハビリテーションについて説明することができる。						
評価方法 (基準)	スライド発表:50% 出席状況:50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10/10	講義	オリエンテーション	講義の復習/発表資料の準備
2	10/10	演習	他己紹介①を通して相互理解を深めることができる	講義の復習/発表資料の準備
3	10/10	演習	他己紹介②を通して相互理解を深めることができる	講義の復習/発表資料の準備
4	10/10	演習	チーム医療における他職種の役割を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
5	10/11	演習	チーム医療における理学療法士の役割を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
6	10/11	演習	チーム医療における看護師の業務を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
7	10/11	演習	チーム医療における理学療法士の業務を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
8	10/11	演習	チーム医療における医師の役割を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
9	10/17	演習	臨床現場における理学療法士業務とは①を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
10	10/17	演習	臨床現場における理学療法士業務とは②を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
11	10/17	演習	臨床現場における他職種の業務とは②を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
12	10/17	演習	臨床現場における医師の業務を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
13	10/18	演習	在宅・地域医療(高齢者、障害者)における理学療法士の役割を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
14	10/18	演習	在宅・地域医療(高齢者、障害者)における他職種の役割を説明できる	講義の復習/発表資料の準備
15	10/18	発表	グループ毎にプレゼンテーションを行う	講義の復習/発表資料の準備
準備学習 時間外学習			講義の復習	
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	情報管理学 (Information management)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	梶原一将
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期・後期 金曜 曜日・時限 1・2限
教員の略歴	理学療法士、ピラティスやスポーツ系の資格保有。急性期・包括ケア・呼吸器外来・訪問リハビリテーションを経験。						
学習内容	個人情報管理の管理やデータの扱い方及び、またITリテラシーについて説明できる						
到達目標	個人情報の取り扱い方を理解し実施できる						
評価方法 (基準)	筆記試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/5	講義	リスクマネジメント論を理解できる(1)	国家試験問題で予習・復習
2	4/5	講義	リスクマネジメント論を理解できる(2)	国家試験問題で予習・復習
3	4/12	講義	リスクマネジメント論を理解できる(3)	国家試験問題で予習・復習
4	4/12	講義	スタンダードプリコーションを理解できる	国家試験問題で予習・復習
5	4/26	講義	EBMとNBMを理解し説明できる	国家試験問題で予習・復習
6	4/26	講義	チームビルディングとコンプライアンス チームビルディングの理解ができる(1)	国家試験問題で予習・復習
7	7/19	講義	チームビルディング メントの理解ができる(2)	国家試験問題で予習・復習
8	7/19	講義	AEDとBLSを説明できる(1)	国家試験問題で予習・復習
9	8/2	講義	AEDとBLSを説明できる(2)	国家試験問題で予習・復習
10	8/2	講義	国家試験の過去問で学習し理解する(1)	国家試験問題で予習・復習
11	8/9	講義	国家試験の過去問で学習し理解する(2)	国家試験問題で予習・復習
12	8/9	講義	国家試験の過去問で学習し理解する(3)	国家試験問題で予習・復習
13	8/16	講義	国家試験の過去問で学習し理解する(4)	国家試験問題で予習・復習
14	8/16	講義	国家試験の過去問で学習し理解する(5)	国家試験問題で予習・復習
	8/19	本試験	筆記試験	
15	8/23	講義	まとめ	国家試験問題で予習・復習
準備学習 時間外学習			国家試験の過去問で学習	
【使用教科書・教材・参考書】			<input type="checkbox"/> 随時、資料を配布	

科目名 (英)	精神医学 (Psychiatry)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	白木達也
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	通年
教員の略歴	医師。現在、病院の精神科に勤務している。						
学習内容	理学療法士に必要な精神疾患の病態・診断・治療について学ぶ						
到達目標	精神疾患の概要、治療について理解を深め、理学療法士国家試験の過去問を解くことができる						
評価方法 (基準)	筆記試験(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/19	講義	精神障害と精神医学について述べる事ができる	講義の復習を行う事
2	4/19	講義	精神障害の成因と分類について述べる事ができる	講義の復習を行う事
3	4/19	講義	統合失調症の症状について述べる事ができる	講義の復習を行う事
4	4/19	講義	統合失調症の分類について述べる事ができる	講義の復習を行う事
5	7/18	講義	統合失調症の治療について述べる事ができる	講義の復習を行う事
6	7/18	講義	気分障害について述べる事ができる(1)	講義の復習を行う事
7	7/18	講義	気分障害について述べる事ができる(2)	講義の復習を行う事
8	7/18	講義	神経症について述べる事ができる(1)	講義の復習を行う事
9	7/25	講義	神経症について述べる事ができる(2)	講義の復習を行う事
10	7/25	講義	心身症、薬物関連障害について述べる事ができる	講義の復習を行う事
11	7/25	講義	認知症の症状について述べる事ができる	講義の復習を行う事
12	7/25	講義	認知症の分類について述べる事ができる	講義の復習を行う事
13	7/26	講義	認知症の治療について述べる事ができる	講義の復習を行う事
14	7/27	講義	てんかん、児童精神医学について述べる事ができる	講義の復習を行う事
		本試験	筆記試験	
15	7/26	講義	精神保健福祉法について述べる事ができる	講義の復習を行う事
準備学習 時間外学習			講義の復習を行う事	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			標準 理学療法学・作業療法学 精神医学 第4版(医学書院)	

科目名 (英)	老年学 (Gerontology)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	鈴木志歩
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期 曜日・時限 火曜日3・4限
教員の略歴	理学療法士。老健・デイサービスでのリハビリテーション、地域での健康増進活動を経験。						
学習内容	①日本は超高齢社会となり、高齢者の人口率が高い。臨床実習に於いて高齢者を担当することになる。高齢者の場合、本来の病気や障害に加えて老化に伴う変化もある。より質の高い適切な治療を提供するため、老年学を学ぶ必要性が高い。 ②人間発達学の教科と関連が深く、整形、内部障害、日常生活活動学等の理解を深めるための位置付けとなる。 ③年齢に応じた理学療法を展開できるようになって欲しい。 ④高齢者の特性や疾患を学ぶことで、年齢に応じた対応を知ることができる。						
到達目標	①高齢者の特性を説明することができる。 ②高齢者に特徴的な疾患の病態・治療・予防の関連を説明することができる。 ③高齢者に向けた行政の対策について説明することができる。 ④加齢に伴う運動・心理などの変化、その対策を述べるることができる。						
評価方法 (基準)	筆記試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/24	講義	加齢と老化の違い、老化の特徴、高齢者の健康増進のための行政の対策が説明できる。	講義の復習を行う。
2	9/24	講義	加齢に伴う生理機能の変化を説明できる。	講義の復習を行う。
3	10/1	講義	加齢に伴う運動機能の変化を説明できる。	講義の復習を行う。
4	10/1	講義	高齢者の心理機能の変化を説明できる。性別による違いを述べられる。	講義の復習を行う。
5	10/8	講義	高齢者に接する際に年齢に応じた対応と評価を工夫することができる。	講義の復習を行う。
6	10/8	講義	高齢者の精神面(うつ、認知症)の特徴を述べることができる。	講義の復習を行う。
7	10/15	講義	高齢者の循環器の病態と特徴を説明できる。	講義の復習を行う。
8	10/15	講義	高齢者の運動器、耳・目の疾患の病態と特徴を説明できる。	講義の復習を行う。
9	10/22	講義	高齢者の消化と排泄の病態と特徴を説明できる。	講義の復習を行う。
10	10/22	講義	高齢者の代謝、免疫の変化を説明できる。	講義の復習を行う。
11	10/29	講義	高齢者を取り巻く環境の問題とその解決策を工夫することができる。	講義の復習を行う。
12	10/29	講義	高齢者の年齢に応じたリハビリテーションの進め方を工夫することができる。	講義の復習を行う。
13	11/5	講義	認知症のリハの進め方を工夫することができる。	講義の復習を行う。
14	11/5	講義	医療の現状と終末期医療のあり方を述べられる。	講義の復習を行う。
		本試験		
15	11/12	講義	試験解説。講義のまとめ。	講義全体の復習を行う。
準備学習 時間外学習			高齢者の特徴について調べ、理解しておくこと	
【使用教科書・教材・参考書】 □			配付資料	

科目名 (英)	社会保障制度論 (Social Security)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	高梨友也 千脇隆志
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 土曜日 1・2限
教員の略歴	社会福祉士、修士。障害者・高齢者福祉施設における生活相談員、管理者、施設長を経験。						
学習内容	①現代の社会保障制度は、人口動態や世帯構造の変化、国家のあり方など、制度の背景となる時代や政策が大きく変化しながら推移している。制度の持続可能性を含めた検討と取り組みが求められており、歴史と現状を学ぶ。②社会保障を構成する医療・公衆衛生・社会保険等の各領域を含めた上位概念である「社会保障」について学ぶ。③社会保障領域に携わる者として、それらを理解し、他領域の人々に説明できるよう学習する。						
到達目標	①社会保障の基本的な機能と役割を理解し、国民生活に沿った形で説明できる。②社会保障制度の構造と必要性について、他者に説明できる。③社会保障制度における自分の位置が理解でき、そのなかの役割を説明できる。④自分の役割を理解したうえで、他領域とどのように連携していくかをイメージできる。⑤生活支援を必要とする人に、活用できる制度を説明できる。						
評価方法 (基準)	1) 期末レポート60% 2) 授業内レポート20% 3) 授業内活動20% 4) 到達目標の①②③について、80%以上理解すること 5) 到達目標の④⑤について、60%以上理解すること 6) 準備学習と時間外学習を課し、その達成度が60%以上であること						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/20	講義	社会保障の概念を自分の言葉で説明できる	教科書の事前学習と授業後の確認
2	4/20	講義・演習	社会保障の目的を述べるができる	教科書の事前学習と授業後の確認
3	4/27	講義	社会福祉の法制度の概要を説明できる	社会福祉の説明資料の検索と確認
4	4/27	講義・演習	現代社会の変化と人口構造・世帯構造の変化を例を用いて説明できる	人口の変化を示す資料の準備と授業後の確認
5	5/11	講義	経済状況と地域社会の変化を説明できる	地域別の社会構造と経済状況の関連分析
6	5/11	講義・演習	社会保障と社会福祉の動向について述べるができる	関連資料を自力で検索・分析と復習
7	7/20	講義	貧困・低所得問題と公的扶助制度の概要を説明できる	教科書の事前学習と授業後の確認
8	7/20	講義	生活保護制度の内容と課題を記すことができる	教科書の事前学習と授業後の確認
9	7/27	講義・演習	医療保障制度の沿革と構造を説明できる	関連資料を自力で検索・分析と復習
10	7/27	講義	高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉それぞれを説明できる	教科書の事前学習と授業後の確認
11	8/3	講義・演習	社会福祉援助と連携の重要性について自分の言葉で説明できる	関連資料を自力で検索・分析と復習
12	8/3	講義	介護保障の歴史と介護保険制度創設の背景を述べるができる	教科書の事前学習と授業後の確認
13	8/17	講義	所得保障制度の構造を説明できる	教科書の事前学習と授業後の確認
14	8/17	講義・演習	年金保障制度のしくみと今後の展望を述べることができる	教科書の事前学習と授業後の確認
	8/24	本試験	期末課題レポート	
15	8/24	講義・演習	社会保障制度を総括して述べるができる	これまでの資料の概観と総括
準備学習 時間外学習			学ぶ内容や学んだ内容を、自分や患者の実際の生活と結び付けることを意識すること	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			系統看護学講座専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度 医学	

科目名 (英)	臨床運動学 (Psychopathology Movement)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	鈴木 志歩
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期・後期 全曜日 3・4限
教員の略歴	理学療法士。老健・デイサービスでのリハビリテーション、地域での健康増進活動を経験。						
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 臨床的視点から病態構造を理解する 運動学・運動学実習で得た知識を元に、病態を学習する 各疾患が及ぼす運動障害に関して、運動機能と疾患、運動機能障害、動作分析等を理解する 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 病態運動学を理解するうえで重要な基礎知識について理解し説明することができる。 各疾患と機能障害について知識を整理し、運動学と疾患、および理学療法との関係について理解を深めることができる。 演習を通して、各疾患に対する運動学的捉え方と、評価、治療介入について体験することができる。 						
評価方法 (基準)	定期試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/5	講義	運動学で学んだ知識と病態の関連について	講義内容の復習
2	4/5	講義	骨・関節の構造と機能について説明できる。	講義内容の復習
3	4/12	講義	筋の構造と機能について説明できる。	講義内容の復習
4	4/12	講義	随意運動と反射・筋緊張について説明できる。	講義内容の復習
5	4/26	講義	生体力学(バイオメカニクス)について説明できる。	講義内容の復習
6	4/26	講義	重心と支持基底面について説明できる。	講義内容の復習
7	7/19	演習	肩関節の関節構造と機能障害について述べるができる。	講義内容の復習
8	7/19	演習	肘関節の関節構造と機能障害について述べるができる。	講義内容の復習
9	8/2	演習	手関節の関節構造と機能障害について述べるができる。	講義内容の復習
10	8/2	演習	股関節・骨盤帯の関節構造と機能障害について	講義内容の復習
11	8/9	演習	膝関節の関節構造と機能障害について述べるができる。	講義内容の復習
12	8/9	演習	足関節の関節構造と機能障害について述べるができる。	講義内容の復習
13	8/16	演習	脊柱の関節構造と機能障害について述べるができる。	講義内容の復習
14	8/16	演習	関節構造と機能障害に臨床応用について	講義内容の復習
15	8/23	演習	前期で学んだ病態運動学を学ぶ上で必要な基礎知識と、機能障害について説明することができる。	講義内容の復習
16	8/23	演習	基本的な姿勢の概念について述べるができる。また、病態の関連を理解することができる。	講義内容の復習
17	8/30	演習	基本的な姿勢の概念について述べるができる。また、病態の関連を理解することができる。	講義内容の復習
18	8/30	演習	基本的な寝返り・起き上がりの概念について述べるができる。また、病態の関連を理解することができる。	講義内容の復習
19	9/6	演習	基本的な寝返り・起き上がりの概念について述べるができる。また、病態の関連を理解することができる。	講義内容の復習
20	9/6	演習	基本的な起立・着座動作の概念について述べるができる。また、病態の関連を理解することができる。	講義内容の復習
21	9/13	演習	基本的な起立・着座動作の概念について述べるができる。また、病態の関連を理解することができる。	講義内容の復習
22	9/13	演習	基本的な歩行動作の概念について述べるができる。また、病態の関連を理解することができる。	講義内容の復習
23	9/20	演習	基本的な歩行動作の概念について述べるができる。また、病態の関連を理解することができる。	講義内容の復習
24	9/20	演習	基本的な歩行動作の概念について述べるができる。また、病態の関連を理解することができる。	講義内容の復習
25	9/27	演習	整形外科疾患の病態と運動障害特性について説明することができる。	講義内容の復習
26	9/27	演習	整形外科疾患の病態と運動障害特性について説明することができる。	講義内容の復習
27	10/4	演習	中枢疾患の病態と運動障害特性について	講義内容の復習
28	10/4	演習	中枢疾患の病態と運動障害特性について説明することができる。	講義内容の復習
29	10/11	演習	各疾患の病態と運動障害特性の臨床応用について理解することができる。	講義内容の復習
30	10/11	演習	後期のまとめと確認	講義内容の復習
	10/18	期末試験	筆記	
準備学習 時間外学習			復習	
【使用教科書・教材・参考書】			<input type="checkbox"/> 配付資料	

科目名 (英)	理学療法研究法 (Reserch in PT)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	片岡洋樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	通年
教員の略歴	理学療法士(認定:脳卒中/学校教育/スポーツ)、修士(医科学)。急性期から生活期の臨床現場を経験し、研究やスポーツ分野での活動も実施。						
学習内容	リハビリテーション・理学療法・医療関連領域の知識習得や研究の進め方・考え方を学ぶ。						
到達目標	理学療法学における知識を活用し、研究の意義、目的および研究を遂行する際の具体的な方法論について理解することができる。						
評価方法 (基準)	筆記試験100%						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1	4/3	講義	理学療法研究の必要性について理解することができる。		講義内容の復習		
2	4/3	講義	理学療法研究の必要性について理解することができる。(EBM・EBPT)		講義内容の復習		
3	4/10	講義	理学療法研究の必要性について理解することができる。		講義内容の復習		
4	4/10	講義	研究デザインについて説明することができる。		講義内容の復習		
5	4/24	講義	研究計画・研究倫理について説明することができる。		講義内容の復習		
6	4/24	講義	文献査読を行い研究について理解を深めることができる。		講義内容の復習		
7	5/1	講義	症例を基にした理学療法研究の概要について理解することができる。		講義内容の復習		
8	5/1	講義	症例を基にした理学療法研究の計画を進めることができる。		講義内容の復習		
9	7/17	講義	理学療法学の知識を活用し、計画書を作成できる①		講義内容の復習		
10	7/17	講義	理学療法学の知識を活用し、計画書を作成できる②		講義内容の復習		
11	7/24	講義	理学療法学の知識を活用し、計画書を作成できる③		講義内容の復習		
12	7/24	講義	理学療法学の知識を活用し、計画書を作成できる④		講義内容の復習		
13	7/31	講義	理学療法学の知識を活用し、計画書を作成できる⑤		講義内容の復習		
14	7/31	講義	理学療法学の知識を活用し、計画書を作成できる⑥		講義内容の復習		
		本試験	筆記試験				
15	8/7	講義	総括		講義内容の復習		
準備学習 時間外学習			授業内容の予習・復習を行うこと				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			随時、資料を配布				

科目名 (英)	理学療法教育学 (Educatin of PT)		必修 選択	必修	年次	4	担当教員	渡邊好孝
学科・コース	理学療法科 I 部		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 土曜日 3・4限
教員の略歴	理学療法士。現在、宮城県理学療法士会の会長を担っている。							
学習内容	理学療法士の教育システムや組織での人材育成方法等について説明することができる。							
到達目標	①理学療法士にふさわしい倫理と心構えを説明できる ②医療現場におけるスタッフ教育の在り方、スタッフマネジメントについての理解できる							
評価方法 (基準)	1)授業態度30%、定期試験(課題レポート)70%							
授業計画・内容								
回数	日程	授業形態	学習内容		準備学習 時間外学習(学習課題)			
1	4/20	講義	医療現場のルール(医療人のモラル, 命を扱うということ)を理解することができる		講義内容の復習			
2	4/20	講義	社会人としてのマナー(挨拶の仕方・忌避, 時間管理, 公私混同, 整理整頓の仕方)を理解することができる		講義内容の復習			
3	4/27	講義	就業規則について(良い職場をつくる, トラブルの予防)理解することができる		講義内容の復習			
4	4/27	講義	サービスの構造とマネジメント(医療の質, マネジメント理論)を理解することができる		講義内容の復習			
5	5/11	講義	PDCAマネジメントサイクル(PDCAサイクルを回す意義, その他)を理解することができる		講義内容の復習			
6	5/11	講義	研修の種類と, その目的(職場における研修の在り方, 研修の種類の検討)を理解することができる		講義内容の復習			
7	7/20	講義	患者サービスと医療サービス(安全対策マニュアル, セカンドオピニオン, 質の高い医療と満足度の高いサービス)を理解することができる		講義内容の復習			
8	7/20	講義	チーム医療(医療専門職の連携)を理解することができる		講義内容の復習			
9	7/27	講義	チーム医療(患者・家族の尊厳, QOLの向上・維持)を理解することができる		講義内容の復習			
10	7/27	講義	優先順位の考え方(優先順位をつける項目, 意義と方法について)を理解することができる		講義内容の復習			
11	8/3	講義	タイムマネジメント(生産性を高める時間管理, 仕事効率と時間効率)について理解することができる		講義内容の復習			
12	8/3	講義	タイムマネジメント(手帳の管理, To Doリスト, プレーンストーミング, 職場コミュニケーション)を理解することができる		講義内容の復習			
13	8/17	講義	生涯教育(生涯学習社会)について理解することができる		講義内容の復習			
14	8/17	講義	生涯教育(生涯学習が個人に与える影響と社会に与える影響)について理解することができる		講義内容の復習			
	8/24	本試験	課題レポート					
15	8/24	講義	まとめ(学びの意義, 総まとめ)		講義内容の復習			
準備学習 時間外学習			授業内容の予習・復習を行うこと					
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			資料を配布する					

科目名 (英)	理学療法管理学 (Management of PT)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	片岡洋樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期 水曜 3・4限
教員の略歴	理学療法士(認定:脳卒中/学校教育/スポーツ)、修士(医科学)。急性期から生活期の臨床現場を経験し、研究やスポーツ分野での活動も実施。						
学習内容	①理学療法概論及びリハビリテーション概論の内容を踏まえ、より具体的に職業倫理と職場管理について学ぶ。 ②医療・福祉現場における教育について、カルテリハビリテーション実施計画書作成などの業務管理について学ぶ。						
到達目標	①理学療法士にふさわしい倫理と心構えを説明できる。 ②医療現場におけるスタッフ教育の在り方、スタッフマネジメントについての理解を深める						
評価方法 (基準)	筆記試験100%						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1	10/9	講義	チーム医療(医療専門職の連携)を理解することができる ①		講義内容の復習		
2	10/9	講義	チーム医療(医療専門職の連携)を理解することができる ②		講義内容の復習		
3	10/16	講義	チーム医療(患者・家族の尊厳、QOLの向上・維持)を理解することができる ①		講義内容の復習		
4	10/16	講義	チーム医療(患者・家族の尊厳、QOLの向上・維持)を理解することができる ②		講義内容の復習		
5	10/23	講義	優先順位の考え方(優先順位をつける項目、意義と方法について)を理解することができる ①		講義内容の復習		
6	10/23	講義	優先順位の考え方(優先順位をつける項目、意義と方法について)を理解することができる ②		講義内容の復習		
7	10/30	講義	タイムマネジメント(生産性を高める時間管理、仕事効率と時間効率)について理解することができる ①		講義内容の復習		
8	10/30	講義	タイムマネジメント(生産性を高める時間管理、仕事効率と時間効率)について理解することができる ②		講義内容の復習		
9	11/6	講義	タイムマネジメント(手帳の管理、ToDoリスト、プランニング、職場コミュニケーション)を理解すること		講義内容の復習		
10	11/6	講義	タイムマネジメント(手帳の管理、ToDoリスト、プランニング、職場コミュニケーション)を理解すること		講義内容の復習		
11	11/13	講義	生涯教育(生涯学習社会)について理解することができる ①		講義内容の復習		
12	11/13	講義	生涯教育(生涯学習社会)について理解することができる ②		講義内容の復習		
13	11/20	講義	生涯教育(生涯学習が個人に与える影響と社会に与える影響)について理解することができる ①		講義内容の復習		
14	11/2	講義	生涯教育(生涯学習が個人に与える影響と社会に与える影響)について理解することができる ②		講義内容の復習		
		本試験	筆記試験				
15	11/27	講義	総括		講義内容の復習		
準備学習 時間外学習			授業内容の予習・復習を行うこと				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			資料を配布する				

科目名 (英)	理学療法評価学実習Ⅱ (Practyce In Evaluation of PTⅡ)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	梶原 一将
学科・コース	理学療法科 I部	授業 形態	講義・演 習・実習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分 曜日・時限	前期
教員の略歴	理学療法士、ピラティスやスポーツ系の資格保有。急性期・包括ケア・呼吸器外来・訪問リハビリテーションを経験。						
学習内容	理学療法臨床実習で学んだ評価事項を改めて整理し、個々の症例に合わせた評価を説明できる。						
到達目標	・評価バッテリーを組み、説明することができる。 ・疾患を理解し、リスク管理しつつ評価ができる。						
評価方法 (基準)	筆記試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/2	演習	症例―腰痛―を通して評価項目を整理し説明できる①	予習・復習・実技練習
2	4/2	演習	症例―腰痛―を通して評価項目を整理し説明できる②	予習・復習・実技練習
3	4/4	演習	症例―RA―を通して評価項目を整理し説明できる①	予習・復習・実技練習
4	4/4	演習	症例―RA―を通して評価項目を整理し説明できる②	予習・復習・実技練習
5	4/9	演習	症例―腱板損傷―を通して評価項目を整理し説明できる①	予習・復習・実技練習
6	4/9	演習	症例―腱板損傷―を通して評価項目を整理し説明できる②	予習・復習・実技練習
7	4/11	演習	症例―PD―を通して評価項目を整理し説明できる①	予習・復習・実技練習
8	4/11	演習	症例―PD―を通して評価項目を整理し説明できる②	予習・復習・実技練習
9	4/16	演習	症例―GBS―を通して評価項目を整理し説明できる①	予習・復習・実技練習
10	4/16	演習	症例―GBS―を通して評価項目を整理	予習・復習・実技練習
11	4/18	演習	症例―運動失調―を通して評価項目を整理し説明できる①	予習・復習・実技練習
12	4/18	演習	症例―運動失調―を通して評価項目を整理し説明できる②	予習・復習・実技練習
13	4/23	演習	症例―脳卒中―を通して評価項目を整理し説明できる①	予習・復習・実技練習
14	4/23	演習	症例―脳卒中―を通して評価項目を整理し説明できる②	予習・復習・実技練習
15	4/25	演習	症例―脳卒中―を通して評価項目を整理し説明できる③	予習・復習・実技練習
16	4/25	演習	症例―脳卒中―を通して評価項目を整理し説明できる④	予習・復習・実技練習
17	4/30	演習	症例―脳卒中―を通して評価項目を整理し説明できる⑤	予習・復習・実技練習
18	4/30	演習	症例―脳卒中―を通して評価項目を整理し説明できる⑥	予習・復習・実技練習
19	5/2	演習	症例―内部―を通して評価項目を整理し説明できる①	予習・復習・実技練習
20	5/2	演習	症例―内部―を通して評価項目を整理し説明できる②	予習・復習・実技練習
21	5/6	演習	症例―腰部脊柱管狭窄症―を通して評価項目を整理し説明できる①	予習・復習・実技練習
22	5/6	演習	症例―腰部脊柱管狭窄症―を通して評価項目を整理し説明できる②	予習・復習・実技練習
	5/7	本試験	筆記試験	
23	5/6	演習	症例―癌―を通して評価項目を整理し説明できる	予習・復習・実技練習
準備学習 時間外学習			予習・復習・実技練習	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			理学療法評価学 改定第6版(金原出版)	

科目名 (英)	客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	梶原一将
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義・演習・実 習	総時間 (単位)	40 (1)	開講区分	前期 金曜日 1・2限
教員の略歴	理学療法士、ピラティスやスポーツ系の資格保有。急性期・包括ケア・呼吸器外来・訪問リハビリテーションを経験。						
学習内容	臨床実習の総括として、基本的に必要な理学療法技術を確認し、実践できる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患別の評価を実施することができる。 ・疾患別の治療プログラムを立案し説明ができ、実施することができる。 						
評価方法 (基準)	実技試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5/8	演習	ハートリフト病に対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる①	疾患の復習
2	5/8	演習	ハートリフト病に対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる②	疾患の復習
3	5/8	演習	ALSに対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる①	疾患の復習
4	5/8	演習	ALSに対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる②	疾患の復習
5	5/9	演習	SCDIに対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる①	疾患の復習
6	5/9	演習	SCDIに対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる②	疾患の復習
7	5/9	演習	GBSに対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる①	疾患の復習
8	5/9	演習	GBSに対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる②	疾患の復習
9	5/10	演習	COPDに対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる①	疾患の復習
10	5/10	演習	COPDに対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる②	疾患の復習
11	5/10	演習	脊損に対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる①	疾患の復習
12	5/10	演習	脊損に対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる②	疾患の復習
13	5/13	演習	LDHに対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる①	疾患の復習
14	5/13	演習	LDHに対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる②	疾患の復習
15	5/13	演習	脳梗塞に対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる①	疾患の復習
16	5/13	演習	脳梗塞に対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる②	疾患の復習
17	5/14	演習	脳出血に対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる①	疾患の復習
18	5/14	演習	脳出血に対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる②	疾患の復習
19	5/14	演習	脳出血に対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる②	疾患の復習
20	5/14	演習	糖尿病に対する評価・治療プログラム立案・アプローチを実施できる	疾患の復習
	5/15	本試験	実技試験	
準備学習 時間外学習			疾患と評価の復習	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			理学療法評価学 改定第6版(金原出版)	

科目名 (英)	臨床実習Ⅱ (Clinical Practice Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	4年	担当教員	①梶原 一将 ②鈴木 志歩
学科・コース	理学療法科 I部	授業 形態	講義・演習・実 習	総時間 (単位)	280 (7)	開講区分	前期
教員の略歴	①理学療法士。ピラティスやスポーツ系の資格保有。急性期・地域包括ケア・呼吸器外来・訪問リハビリテーションを経験。 ②理学療法士。老健・デイサービスでのリハビリテーション、地域での健康増進活動を経験。						
学習内容	今まで学習した知識・技術を生かし、臨床実習指導者のもと理学療法業務全般について実践を通し学ぶ。 ① 第3学年までに学習した知識と技術を臨床の場で実践する。 ② 症例に即した基本的な理学療法を経験し実践する。 ③ 理学療法を含めた各専門職の役割、機能、分担、運営、管理について学ぶ。 ④ 理学療法過程のうち、「臨床実習Ⅱ」では情報収集から治療の立案・実施までを経験する。						
到達目標	臨床評価実習を踏まえ、実習生として必要な基本的な問題解決能力を身につける。 ① 理学療法(評価、治療、記録等)における基本的事項を指導助言のもとに経験し、解釈できる。 ② 理学療法(評価、治療、記録等)における基本的事項を実践する際に、安全性に配慮できる。 ③ 症例から得た結果の解釈及び結論を導いた経過、根拠を端的に示すことができる。 ④ 上記の1・2の項目を、指導助言を求めることも含め「自発的に」できることをさらなる目標とする。						
評価方法 (基準)	【学外】 実習施設での評価(各項目のチェック内容、総合判定及び総括コメント) 【学内】 学校での実習報告(レポートとレジュメ)、デイリーノートおよびケースノート						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1.2		講義	実習オリエンテーション 「臨床実習Ⅱ」の概要・目的を理解できる。	講義内容の復習、次回の予習
3		演習	実習前OSCEⅢ 「臨床実習Ⅱ」にあたっての基本的な技能を実施できる。	事前練習
4-198		実習	学内外での臨床実習 期間5/20～7/5(週5日実習、週休20日)	日々の復習
199		演習	実習報告	レポート作成
200		演習	実習後OSCEⅢ 「臨床実習Ⅱ」にあたっての基本的な技能を実施できる。	事前練習
準備学習 時間外学習			臨床実習に向けた自己学習。実技練習を行う	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>			これまでの教科書全般を使用	

科目名 (英)	国家試験演習Ⅳ (The prac of Qualifying ExamⅣ)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	鈴木志歩
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	前期・後期 水曜日 3・4限
教員の略歴	理学療法士。老健・デイサービスでのリハビリテーション、地域での健康増進活動を経験。						
学習内容	理学療法士に必要な応用知識(理学療法治療学等)を整理し、説明することができる。						
到達目標	・治療学や評価学の知識を整理し、説明することができる。 ・基礎から繋げることができる。						
評価方法 (基準)	筆記試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/3	講義・演習	骨関節障害を理解し説明できる(1)	QBを使用して予習復習
2	4/3	講義・演習	骨関節障害を理解し説明できる(2)	QBを使用して予習復習
3	4/10	講義・演習	骨関節障害を理解し説明できる(3)	QBを使用して予習復習
4	4/10	講義・演習	骨関節障害を理解し説明できる(4)	QBを使用して予習復習
5	4/24	講義・演習	骨関節障害を理解し説明できる(5)	QBを使用して予習復習
6	4/24	講義・演習	骨関節障害を理解し説明できる(6)	QBを使用して予習復習
7	5/1	講義・演習	中枢神経障害を理解し説明できる(1)	QBを使用して予習復習
8	5/1	講義・演習	中枢神経障害を理解し説明できる(2)	QBを使用して予習復習
9	7/17	講義・演習	中枢神経障害を理解し説明できる(3)	QBを使用して予習復習
10	7/17	講義・演習	中枢神経障害を理解し説明できる(4)	QBを使用して予習復習
11	7/24	講義・演習	中枢神経障害を理解し説明できる(5)	QBを使用して予習復習
12	7/24	講義・演習	中枢神経障害を理解し説明できる(6)	QBを使用して予習復習
13	7/31	講義・演習	末梢神経、筋障害を理解し説明できる(1)	QBを使用して予習復習
14	7/31	講義・演習	末梢神経、筋障害を理解し説明できる(2)	QBを使用して予習復習
15	8/7	講義・演習	末梢神経、筋障害を理解し説明できる(3)	QBを使用して予習復習
16	8/7	講義・演習	呼吸循環器、代謝障害を理解し説明できる(1)	QBを使用して予習復習
17	8/21	講義・演習	呼吸循環器、代謝障害を理解し説明できる(2)	QBを使用して予習復習
18	8/21	講義・演習	呼吸循環器、代謝障害を理解し説明できる(3)	QBを使用して予習復習
19	8/28	講義・演習	呼吸循環器、代謝障害を理解し説明できる(4)	QBを使用して予習復習
20	8/28	講義・演習	呼吸循環器、代謝障害を理解し説明できる(5)	QBを使用して予習復習
21	9/4	講義・演習	呼吸循環器、代謝障害を理解し説明できる(6)	QBを使用して予習復習
22	9/4	講義・演習	呼吸循環器、代謝障害を理解し説明できる(7)	QBを使用して予習復習
23	9/11	講義・演習	運動発達障害を理解し説明できる(1)	QBを使用して予習復習
24	9/11	講義・演習	運動発達障害を理解し説明できる(2)	QBを使用して予習復習
25	9/18	講義・演習	熱傷や癌、廃用症候群を理解し説明できる(1)	QBを使用して予習復習
26	9/18	講義・演習	熱傷や癌、廃用症候群を理解し説明できる(2)	QBを使用して予習復習
27	9/25	講義・演習	画像検査について理解し説明できる(1)	QBを使用して予習復習
28	9/25	講義・演習	画像検査について理解し説明できる(2)	QBを使用して予習復習
29	10/2	講義・演習	画像検査について理解し説明できる(3)	QBを使用して予習復習
30	10/2	講義・演習	講義まとめ	QBを使用して予習復習
	11/20	本試験	筆記試験	
準備学習 時間外学習		QBを使用して予習復習		
【使用教科書・教材・参考書】		□ QB理学療法士共通・専門問題 MEDIC MEDIA		

科目名 (英)	理学療法総合演習 (Integration of Physical Therapy)	必修 選択	必修	年次	4年	担当教員	鈴木 志歩
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義・演習・実 習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期・後 期 曜日・時限 火曜3・4
教員の略歴	理学療法士。回復期、通所・訪問リハビリテーションを経験し、地域の健康増進教室や介護予防啓発活動も実施。						
学習内容	理学療法士に必要な知識と技術を整理し、基本的な評価技術を実践することができる						
到達目標	疾患に対しての知識や評価技術を身につけることができる						
評価方法 (基準)	筆記試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/2	講義・演習・実技	変形性関節症に対する評価ができる①	疾患の理解・評価内容の確認
2	4/2	講義・演習・実技	変形性関節症に対する評価ができる②	疾患の理解・評価内容の確認
3	4/9	講義・演習・実技	骨折、脱臼、靭帯損傷に対する評価ができる①	疾患の理解・評価内容の確認
4	4/9	講義・演習・実技	関節リウマチに対する評価ができる	疾患の理解・評価内容の確認
5	4/16	講義・演習・実技	その他の整形外科疾患の評価ができる	疾患の理解・評価内容の確認
6	4/16	講義・演習・実技	脳血管障害に対する評価ができる①	疾患の理解・評価内容の確認
7	4/23	講義・演習・実技	脳血管障害に対する評価ができる②	疾患の理解・評価内容の確認
8	4/23	講義・演習・実技	脳血管障害に対する評価ができる③	疾患の理解・評価内容の確認
9	4/30	講義・演習・実技	脊髄損傷に対する評価ができる①	疾患の理解・評価内容の確認
10	4/30	講義・演習・実技	脊髄損傷に対する評価ができる②	疾患の理解・評価内容の確認
11	5/7	講義・演習・実技	難病疾患に対する評価ができる①	疾患の理解・評価内容の確認
12	5/7	講義・演習・実技	難病疾患に対する評価ができる②	疾患の理解・評価内容の確認
13	7/16	講義・演習・実技	難病疾患に対する評価ができる③	疾患の理解・評価内容の確認
14	7/16	講義・演習・実技	難病疾患に対する評価ができる④	疾患の理解・評価内容の確認
15	7/23	講義・演習・実技	末梢神経損傷に対する評価ができる①	疾患の理解・評価内容の確認
16	7/23	講義・演習・実技	末梢神経損傷に対する評価ができる②	疾患の理解・評価内容の確認
17	7/30	講義・演習・実技	呼吸器障害に対する評価ができる①	疾患の理解・評価内容の確認
18	7/30	講義・演習・実技	呼吸器障害に対する評価ができる②	疾患の理解・評価内容の確認
19	8/6	講義・演習・実技	循環器障害に対する評価ができる①	疾患の理解・評価内容の確認
20	8/6	講義・演習・実技	循環器障害に対する評価ができる②	疾患の理解・評価内容の確認
21	8/20	講義・演習・実技	筋ジストロフィーに対する評価ができる①	疾患の理解・評価内容の確認
22	8/20	講義・演習・実技	筋ジストロフィーに対する評価ができる②	疾患の理解・評価内容の確認
23	8/27	講義・演習・実技	小児疾患に対する評価ができる①	疾患の理解・評価内容の確認
24	8/27	講義・演習・実技	小児疾患に対する評価ができる②	疾患の理解・評価内容の確認
25	9/3	講義・演習・実技	症例を用いて評価を列挙し実施できる①	疾患の理解・評価内容の確認
26	9/3	講義・演習・実技	症例を用いて評価を列挙し実施できる②	疾患の理解・評価内容の確認
27	9/10	講義・演習・実技	症例を用いて評価を列挙し実施できる③	疾患の理解・評価内容の確認
28	9/10	講義・演習・実技	症例を用いて評価を列挙し実施できる④	疾患の理解・評価内容の確認
29	9/17	講義・演習・実技	症例を用いて評価を列挙し実施できる⑤	疾患の理解・評価内容の確認
30	9/17	講義・演習・実技	まとめ	疾患の理解・評価内容の確認
	9/24	本試験	筆記試験	
準備学習 時間外学習		疾患の理解・評価内容を内容の確認		
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>		必要に応じて		